

都立高校改革推進計画に基づく取組と

都立高校の現状

（平成24年度～令和3年度）



令和4年7月

目次

Contents

1

都立高校改革推進計画の概要

2

都立高校改革推進計画における
主な取組の実績・現状

3

都立高校改革推進計画の取組

I 教育内容

次代を担う社会的に自立した人間の育成

4

都立高校改革推進計画の取組

II 教育諸条件

質の高い教育を支えるための環境整備

5

都立高校の主な学科・課程等の現状

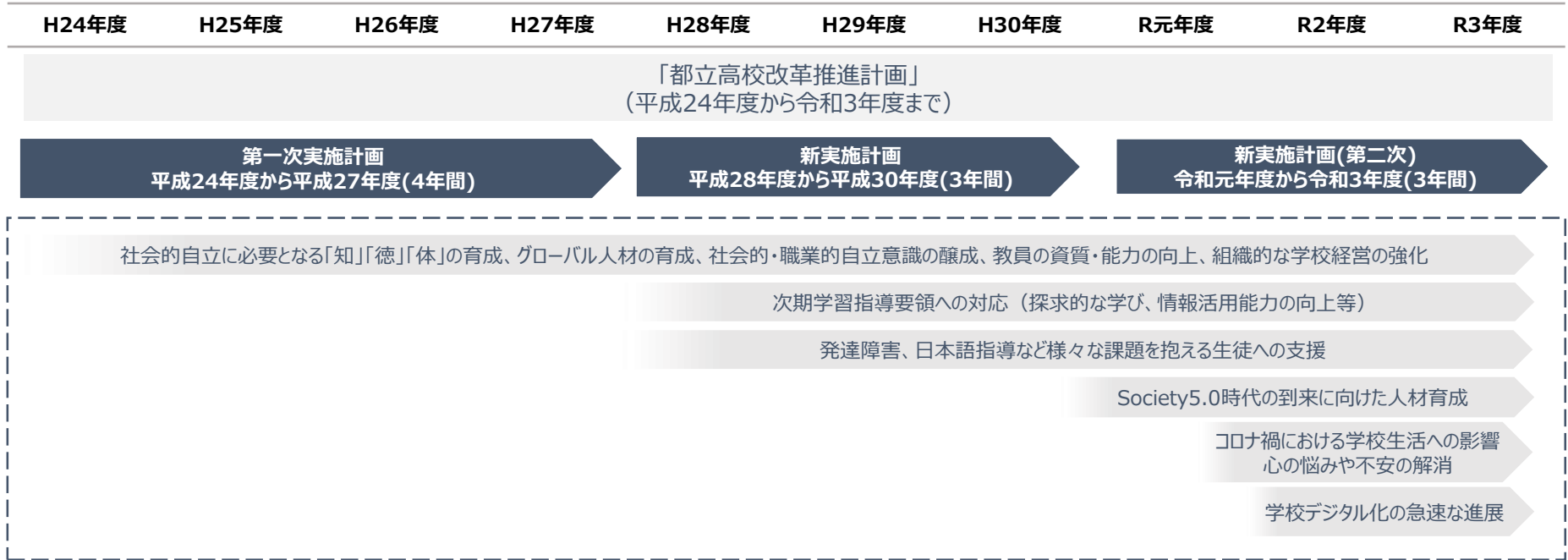
III 学科・課程の改善・充実等

生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす
学校づくりの推進

都立高校改革推進計画（平成24年度～令和3年度）の概要

目的 教育基本法の理念を踏まえ、都立高校が生徒を「真に社会人として自立した人間」に育成

計画期間



計画の主な取組：「知識基盤社会」の到来等を踏まえ、次の視点から多様な取組を展開

I 教育内容

次代を担う社会的に自立した人間の育成

- ▶【知】理数教育の推進、次世代リーダー育成道場
- ▶【徳】SNSを活用した教育相談体制の構築
- ▶【体】基礎体力の向上、部活動指導員の活用

II 教育諸条件

質の高い教育を支えるための環境整備

- ▶不登校・中途退学対策（自立支援チーム）
- ▶教員の資質・能力の向上（研修の充実）
- ▶教員の働き方改革（外部人材の活用）

III 学科・課程の改善・充実等

生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす
学校づくりの推進

- ▶国際バカロレア教育の充実
- ▶専門高校の充実
- ▶小中高一貫校の設置

目次

Contents

1

都立高校改革推進計画の概要

2

都立高校改革推進計画における
主な取組の実績・現状

3

都立高校改革推進計画の取組

I 教育内容

次代を担う社会的に自立した人間の育成

4

都立高校改革推進計画の取組

II 教育諸条件

質の高い教育を支えるための環境整備

5

都立高校の主な学科・課程等の現状

III 学科・課程の改善・充実等

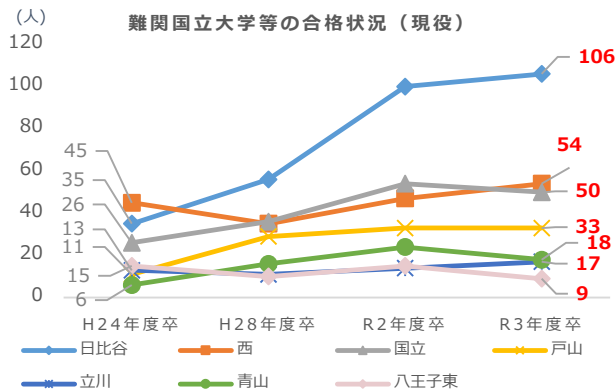
生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす
学校づくりの推進

都立高校改革推進計画における主な取組の実績・現状

I 教育内容（次代を担う社会的に自立した人間の育成）

知

進学指導重点校



理数教育の充実

科学オリンピックにおいて **都立高校生がメダルを獲得**

年度	国際物理オリンピック	メダル	国際生物学オリンピック	メダル	国際地学オリンピック	メダル
H25			西	銀		
H27	小石川中等	銅				
H29					小石川中等	金
H30			西	銅		
R3	武蔵	銀	多摩科技	銅		

校内寺子屋

校内寺子屋に継続的に参加した生徒の **7割** が学びに関する質問項目で肯定的な回答(R3年度)

【参加した生徒の声】

「学習意欲が向上した」

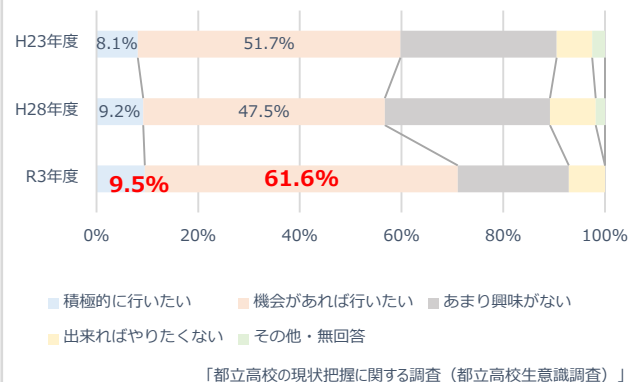
「分からない問題が分かるようになった」

徳

社会貢献意識

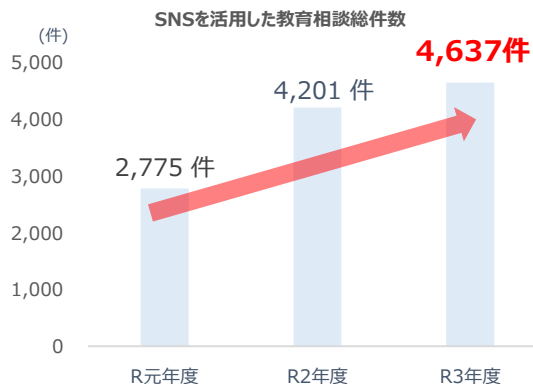
約 **7割** の都立高校生が社会貢献活動について肯定的な意見

あなたは今後、ボランティア活動など社会貢献活動を行いたいですか。



SNS等を活用した教育相談

SNS等による教育相談件数が **増加**



体

体力の向上

体力テストの体力合計点において

都立高校生の平均値が令和3年度は低下

	H23年度	R元年度	R3年度	増減
高2男子	51.4点	52.4点	51.4点	-1.0点
高2女子	48.0点	51.5点	51.0点	-0.5点

※80点満点

スポーツ特別強化校

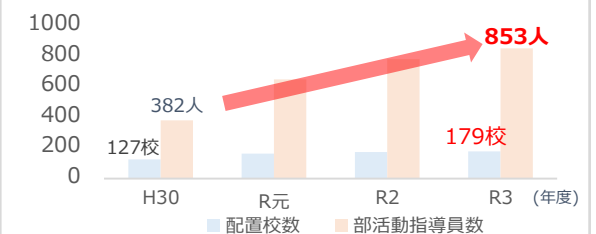
大会に出場した都立高校生のうち

スポーツ特別強化校生徒が占める割合の増加

	H26年度	R3年度
関東大会出場率（個人種目）	49.0%	54.5%
全国大会出場率（個人種目）	42.7%	48.5%

部活動指導員の活用

部活動指導員の配置校と人数が **増加**

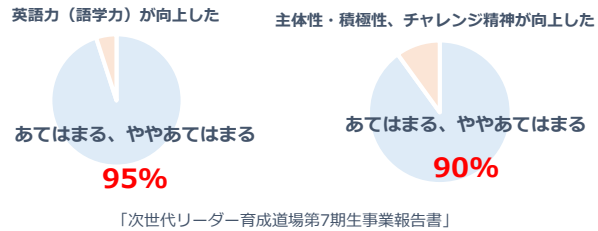


都立高校改革推進計画における主な取組の実績・現状

グローバル人材

次世代リーダー育成道場

海外留学を経験した生徒の**9割以上**が
語学力や主体性・積極性、異文化理解の向上を実感

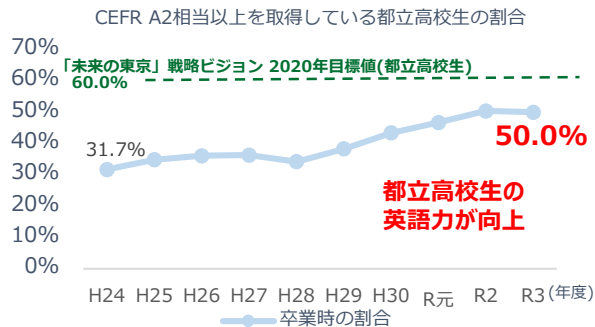


日本と諸外国との生活や文化の違いを理解し、尊重している



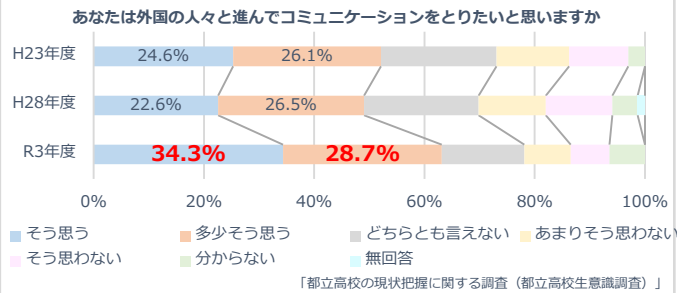
「次世代リーダー育成道場追跡調査（第1期生から第5期生）」（令和3年度）

生徒の英語力向上



国際交流

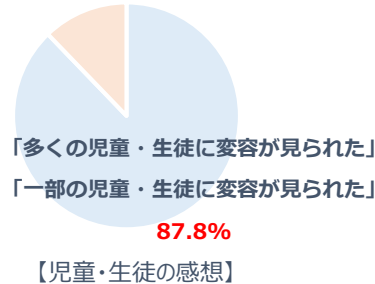
6割を超える都立高校生が
外国の人々とのコミュニケーションについて肯定的な意見



TOKYO GLOBAL GATEWAY

8割を超える児童・生徒に、英語への学習意欲や苦手意識に
変容が見られた

【教員が感じた児童・生徒の変容の有無】



事前アンケート	体験後の感想
英語が好きではない	「とても楽しかった」又は「楽しかった」
英語があまり好きではない	91.0%
	96.8%

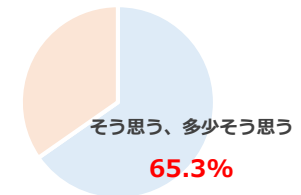
「H30年度、R元年度利用者のアンケート」

社会的・職業的自立意識

主権者教育

6割を超える都立高校生が
積極的な社会への参画について肯定的な意見

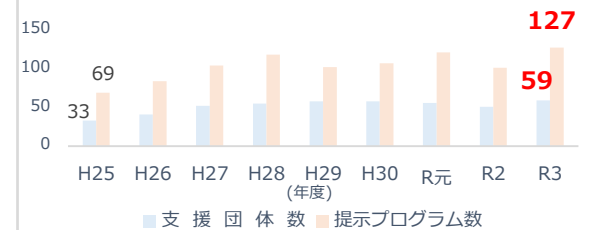
あなたは、選挙の投票にいくなど積極的に社会に参画していきたいと思いませんか。（R3年度）



「令和3年度 都立高校の現状把握に関する調査（都立高校生意識調査）」

社会的・職業的自立支援教育プログラム事業

社会的・職業的自立支援教育プログラムの実施状況



「様々な職業人からリアルな話を聞くことなどで、**仕事は面白く、熱中できることだと思えるようになった**」

「**学校で学ぶことが、将来の仕事や社会で役立つ**と考えられるようになった」

発達障害のある生徒への支援

26課程81人に対し通級による指導を実施

（令和4年1月現在）

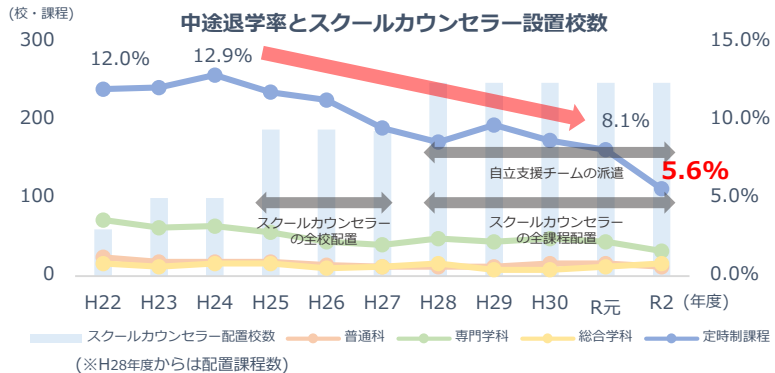
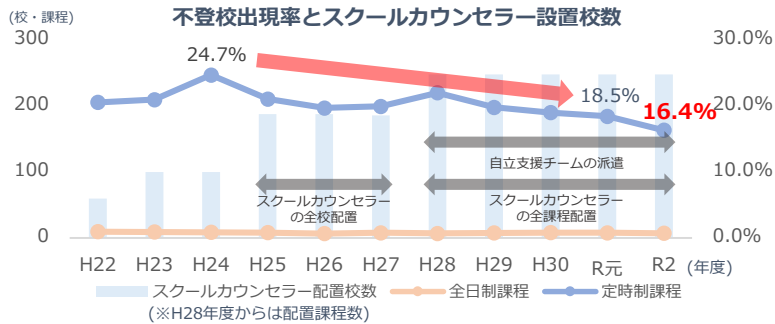
都立高校改革推進計画における主な取組の実績・現状

Ⅱ 教育諸条件（質の高い教育を支えるための環境整備）

不登校・中途退学

不登校・中途退学対策

定時制課程における不登校生徒の出現率・中途退学率が**改善**



課題を抱える生徒の居場所づくり（学びのセーフティネット事業）

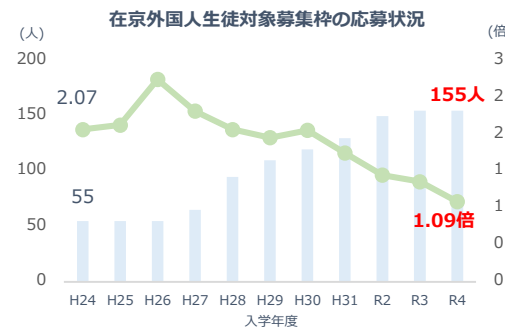
「丁寧な学習支援を受けたことで、レポート作成に前向きに取り組めるようになった」「対人コミュニケーションに自信を持つことができ、アルバイトを始められるようになった」など**学習意欲や就業意欲を促進**

	R元年度	R2年度	R3年度
参加者	195人	238人	487人

日本語指導

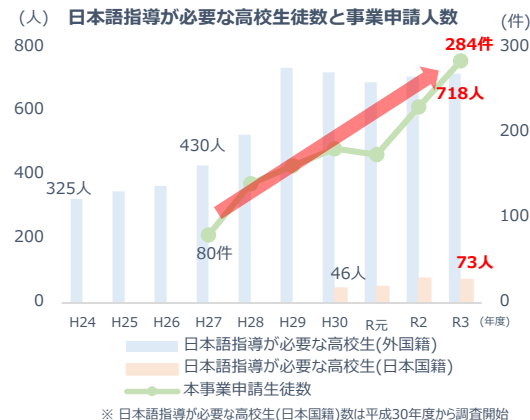
在京外国人生徒の就学機会確保

在京外国人生徒募集校における募集枠拡大により**応募倍率が緩和**



日本語習得支援

日本語指導が必要な高校生が増加に伴い、**支援事業の規模を拡大**

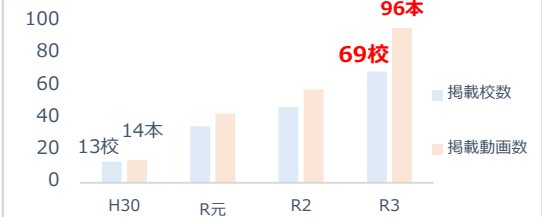


学校経営

魅力PR動画「まなびゆ〜」の活用

魅力PR動画「まなびゆ〜」の**掲載促進**

「まなびゆ〜」掲載校数と動画数(都立高校・中等教育学校累計)

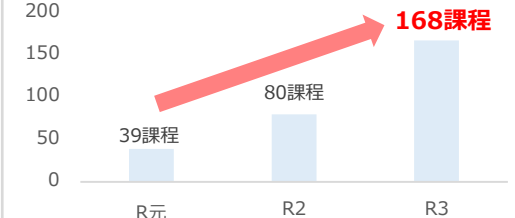


【「まなびゆ〜」に掲載されている動画例】

都立高校ホームページのリニューアル

学校の特色や魅力の伝わりやすいデザインに**都立高校のホームページがリニューアル**

ホームページリニューアル課程数(累計)



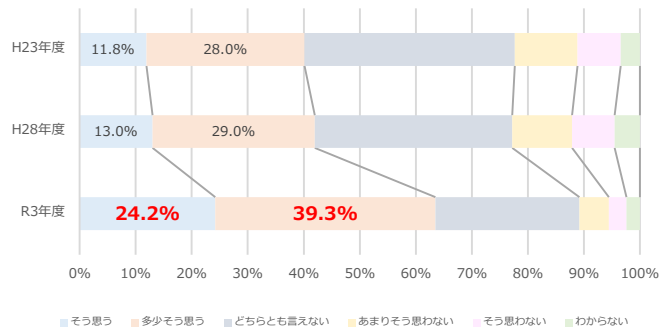
都立高校改革推進計画における主な取組の実績・現状

教員の資質・能力

指導力の向上

6割を超える都立高校生が
現在通っている高校の先生の授業が上手であると実感

現在通っている高校の先生の授業は上手と思うか

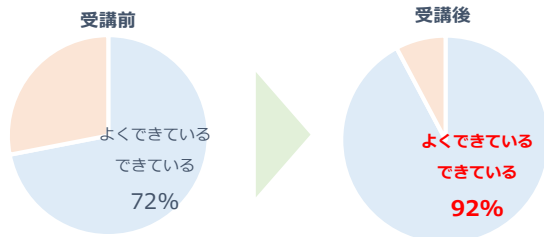


「都立高校の現状把握に関する調査（都立高校生意識調査）」

英語科教員の海外派遣研修

参加教員の授業に対する所属校管理職の高評価割合が上昇

英語によるやり取りを豊かにするための工夫のある指導を行っている（所属校管理職の評価）



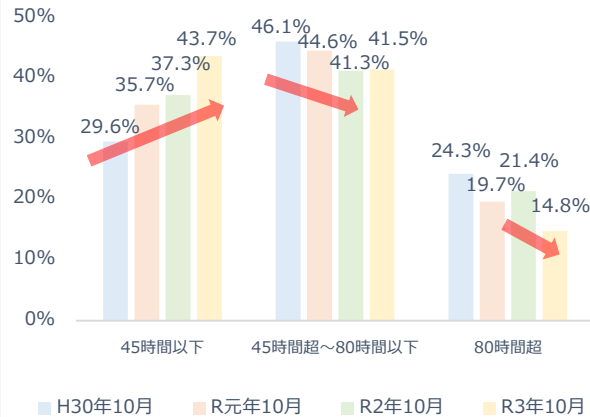
「令和3年度外国語（英語科）教員等の海外派遣研修（代替研修）に係るアンケート」

教員の働き方

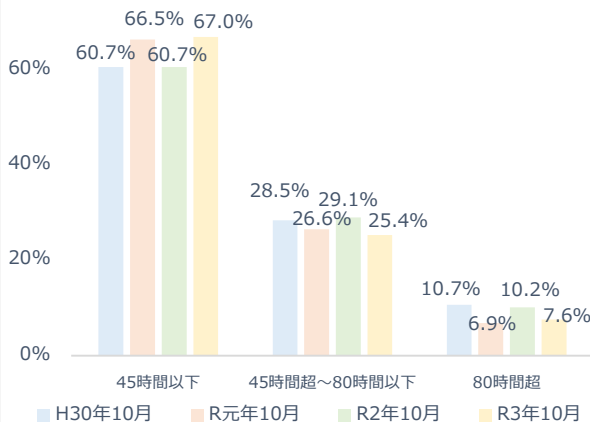
働き方改革

特に副校長の時間外労働時間が**減少**

副校長の1カ月あたりの時間外労働時間の割合



教諭の1カ月あたりの時間外労働時間の割合

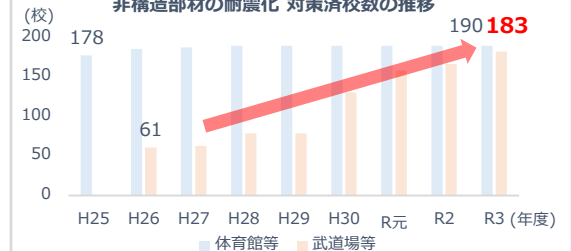


施設・設備

非構造部材の耐震化

・体育館はH28年度までに**全校对策済み**
・体育館以外はR3年度末時点で**183校对策済み**

非構造部材の耐震化 対策済校数の推移

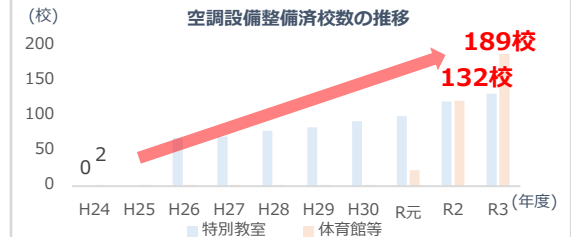


空調設備の整備

・特別教室はR3年度末時点で**132校整備済み**
・体育館はR3年度末時点で**189校整備済み**

※R3年度末時点 全190校中

空調設備整備済校数の推移



トイレの洋式化

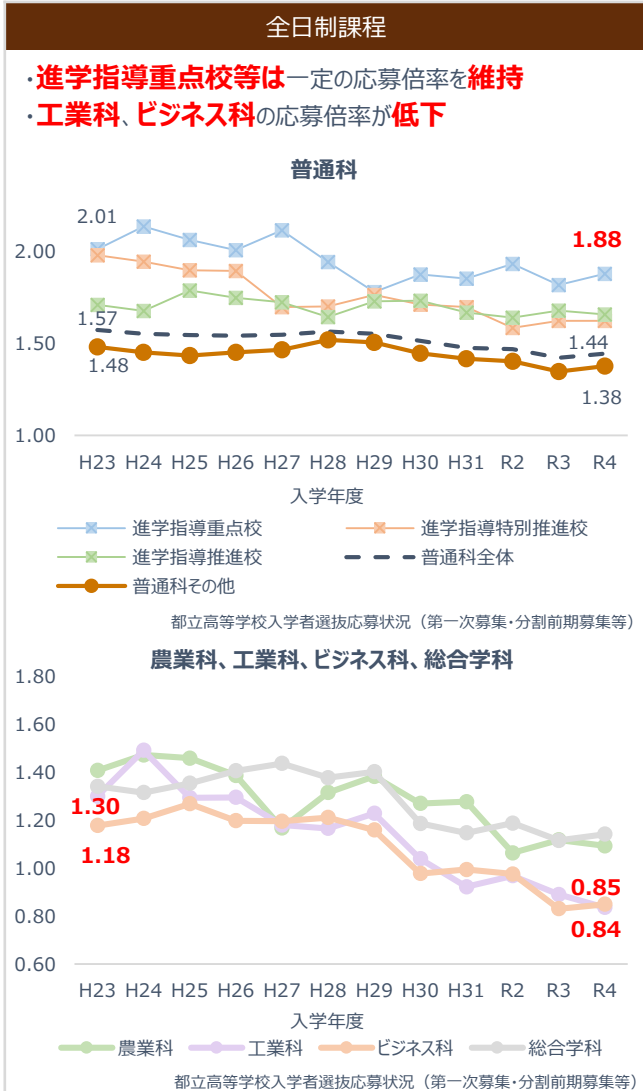
都立高校に設置しているトイレの**81.5%**が洋式化
トイレの洋式化率(%)



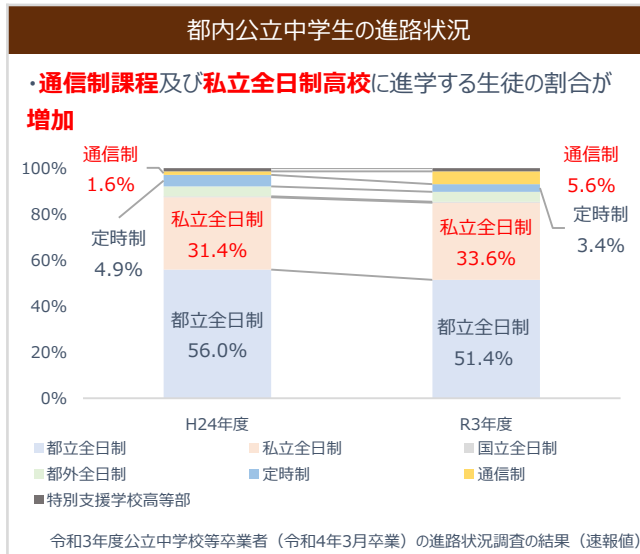
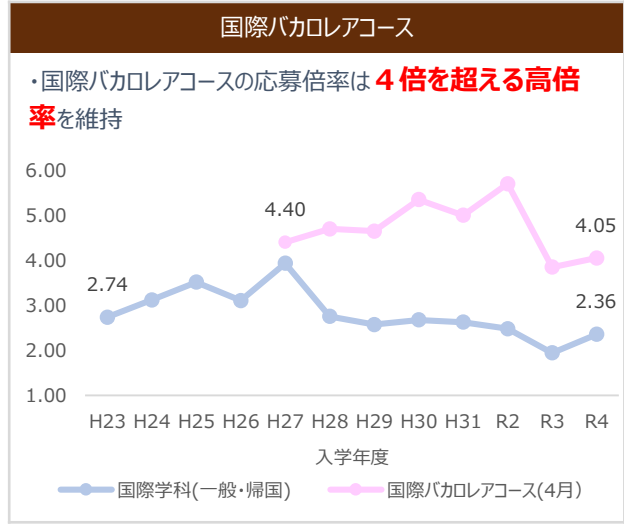
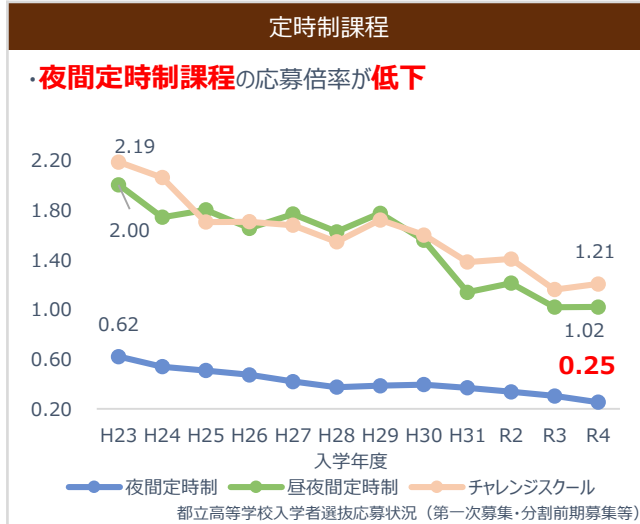
都立高校改革推進計画における主な取組の実績・現状

Ⅲ 学科・課程の改善・充実等（生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進）

入学者選抜応募状況



国際色豊かな教育環境



国際バカロレアの充実

国際バカロレアコースにおけるフルディプロマ取得実績が向上

第1期生	取得率	平均スコア	最高スコア
国際高校	89.5%	31.0	40
世界平均	69.6%	28.8	(満点45)

第4期生	取得率	平均スコア	最高スコア
国際高校	100%	37.8	45
世界平均	75.8%	29.6	(満点45)

都立高校改革推進計画における主な取組の実績・現状

専門高校の充実

農業科の取組

農業科全校において「JGAP」及び「東京都GAP」の認証を取得

(品目)

トマト、ミニトマト、えだまめ、さといも、
ねぎ、ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、
ナス、ピーマン、ダイコン、ブルーベリー、
緑茶、日本なし、ナシ、ブドウ、メロン、
排卵鶏、鶏卵、オクラ



GAPの認証取得を要件とする東京2020大会の選手村食材調達にエントリーし、**全校から選手村カジュアルダイニングに食材を提供**

工業科の取組

工業高校と専門学校の接続を図り、I T系企業の実務家等からの支援により**I T人材の育成を目指す教育プログラムを開始【Tokyo P-TECH】**



・町田工業高校（令和3年度開始）

ビジネス科の取組

商業高校と企業やNPO法人、大学・専門学校、地域・商店街等が連携し、生徒が**ビジネスを実地に学ぶ機会を拡充**

【商業教育コンソーシアム東京】

（平成30年度開始）



新たに設置した学校等

家庭・福祉高校の設置

家庭・福祉分野のエキスパートとして社会で貢献できる人材の育成を目指し、**都立高校として初となる家庭学科・福祉学科を専門とする高校を設置**

・赤羽北桜高校（令和3年度設置）



チャレンジスクールの設置

不登校や中途退学等を経験した生徒などに対し、学び直しから大学進学支援まで**多様な学びの場を提供**するため、東京都で6番目となる**チャレンジスクール**を設置

・小台橋高校（令和4年度設置）



都立小中高一貫教育校の設置

立川国際中等教育学校に附属小学校を設置し、**公立として全国初の小中高一貫教育**を実現

・立川国際中等教育学校附属小学校（令和4年度設置）

「創造理数科」の設置

理数系分野において幅広い素養を持ち、新しい価値を生み出す人材を育成するため、都立高校初の理数科として、**「創造理数科」を設置**

・立川高校（令和4年度設置）

＜「創造理数科」の特色ある教育＞

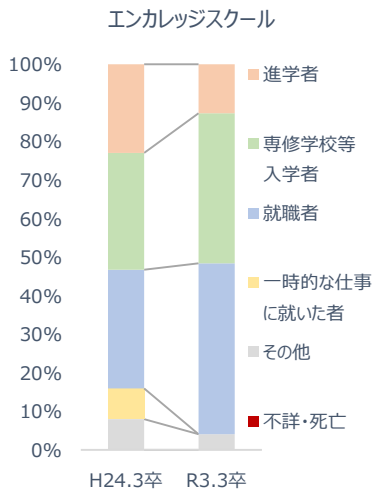
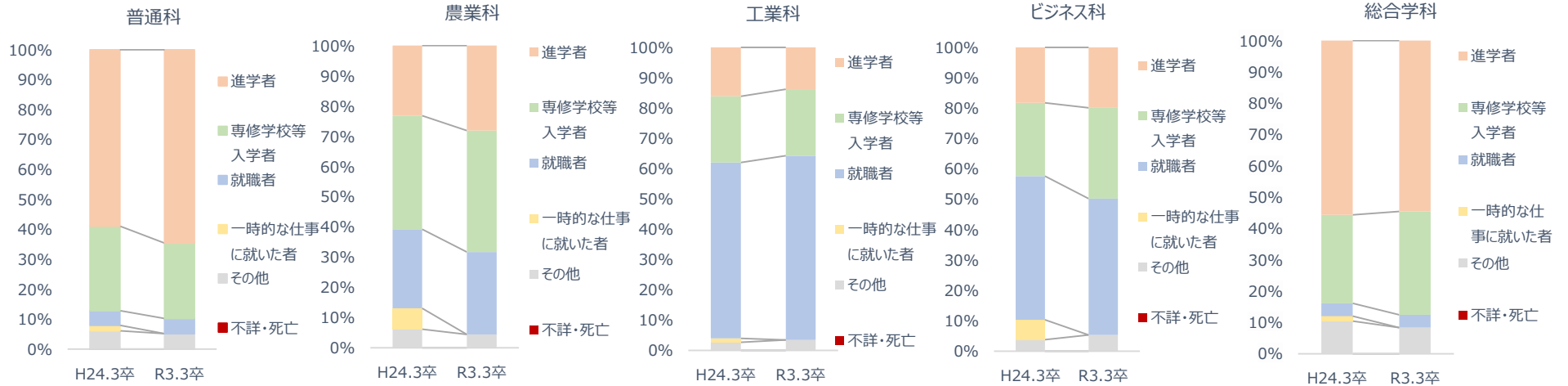


都立高校改革推進計画における主な取組の実績・現状

卒業後の進路状況

全日制課程

・普通科、農業科及びビジネス科等では「進学者」「専修学校等入学者」の割合が増加



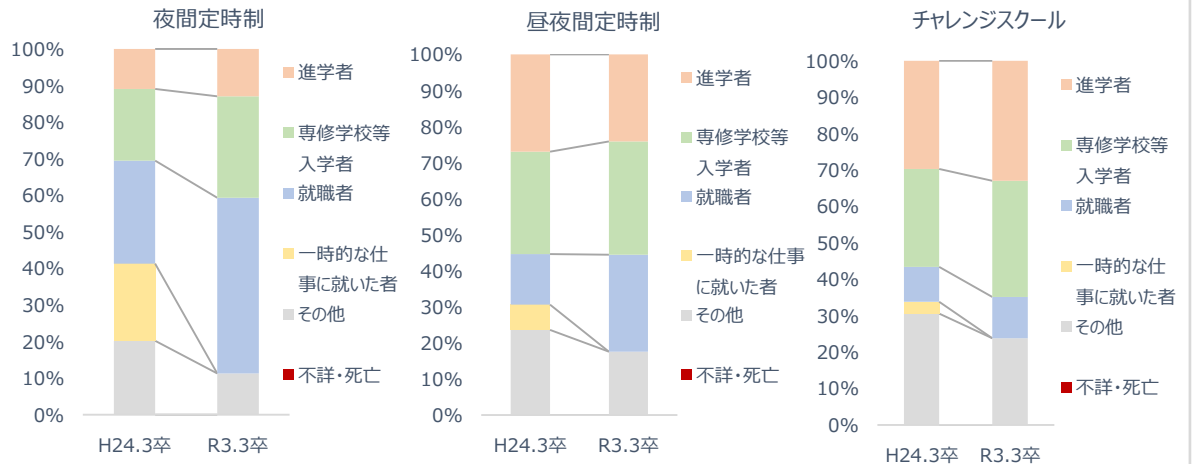
学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】による調査情報を利用し、独自に集計

定時制課程

・定時制課程では全体として「その他」の割合が低下

・全日制課程と比較すると、依然として「その他」の割合は高い

・チャレンジスクールでは「進学者」「専修学校等入学者」の割合が増加



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】による調査情報を利用し、独自に集計

目次

Contents

1

都立高校改革推進計画の概要

2

都立高校改革推進計画における
主な取組の実績・現状

3

都立高校改革推進計画の取組

I 教育内容

次代を担う社会的に自立した人間の育成

4

都立高校改革推進計画の取組

II 教育諸条件

質の高い教育を支えるための環境整備

5

都立高校の主な学科・課程等の現状

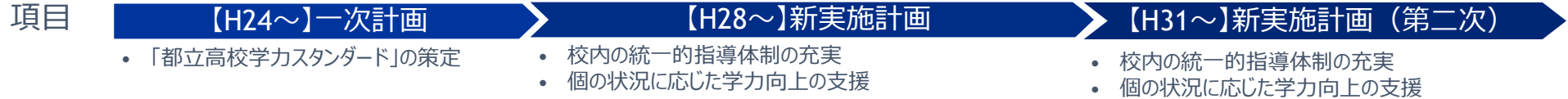
III 学科・課程の改善・充実等

生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす
学校づくりの推進

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(1) 個々の学習状況に応じた指導の充実

概要 生徒一人一人の学力の確実な向上を図るとともに、義務教育段階での学力の定着が不十分な生徒の学力を底上げ



主な取組

▶校内の統一的指導体制の確立

- 「都立高校学カスタンダード」を策定(H25年度～)
- 全都立高校において、「学カスタンダード指導計画・報告書」を踏まえたPDCAサイクルによる授業改善を実施
- 「学力向上データバンク」を設置し「都立高校学カスタンダード」に基づく標準問題の蓄積とともに、標準問題利用による各校独自の学力調査問題作成環境を整備
- 教科主任連絡協議会を開催し、組織的な教科指導を推進

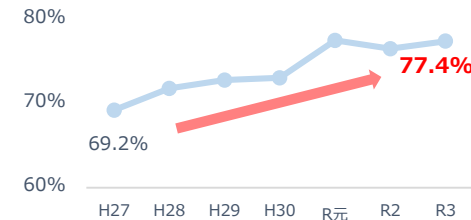
▶個の状況に応じた学力向上の支援

- 学力向上研究校に**校内寺子屋**を設置(H30年度～ 2年毎に30校を指定) 外部人材を活用し、年2 4 0時間程度の学習指導や自習室の監督などの学習支援と外部学力検査による検証を実施
- ゆめナビプロジェクト研究校**(H29年度～R元年度 10校指定) 社会的・職業的自立支援プログラムを活用したキャリア教育の充実や高校で身に付けるべき学力の定着、個に応じた指導を実施

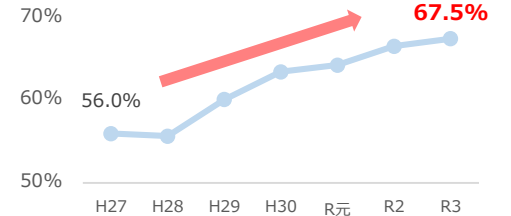
実績・成果

▶各校における指導基準の統一化

全ての科目において授業進度を統一化している学校の割合



学カスタンダード対象科目における定期考査問題を全ての科目において完全に統一化している学校の割合

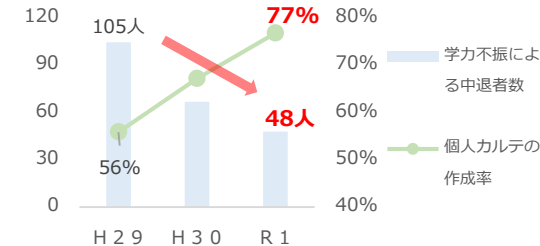


▶生徒一人一人に応じた学習支援の充実

- 校内寺子屋に継続的に参加した生徒の**7割**が学びに関する質問項目で肯定的な回答(R3年度)
- ゆめナビプロジェクトによる学習支援により、**学力不振理由の中途退学者が減少**

【校内寺子屋に参加した生徒の声】

「学習意欲が向上した」
「分からない問題が分かるようになった」
「基礎学力が向上した」
etc.



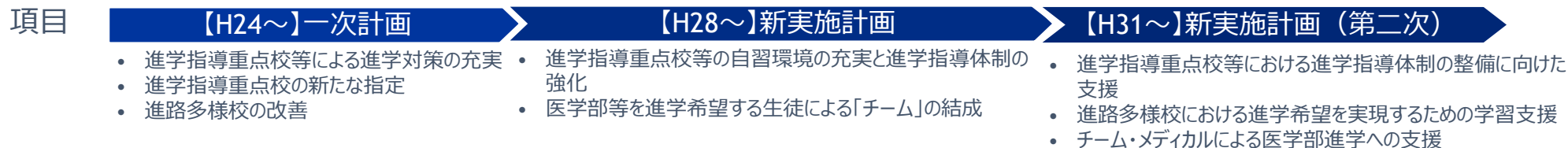
課題・検討事項等

- 「学カスタンダード」に基づく組織的な校内指導体制の一層の推進

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(2) 進学希望を実現するための学習支援の充実

概要 個々の生徒の進学希望を実現するために、学力や地域性等を考慮した学習支援を実施



主な取組

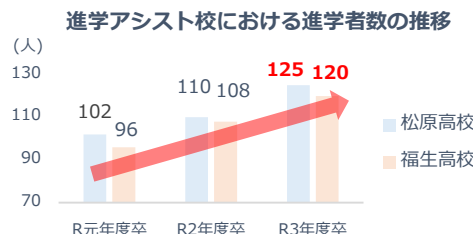
- ▶ 進学指導重点校等における進学指導体制の整備に向けた支援
 - 進学指導研究協議会の実施により、都立高校の教科指導力及び進学指導の実践力の向上を支援
 - 進学対策特任教授（都立高校の校長経験者等）と指導主事等とがチームとなり各校を巡回訪問し指導助言を実施
- ▶ 進路多様校における進学希望を実現するための学習支援
 - 進学アシスト校を2校指定（R元年度～R3年度）
 - 大学進学を目標とする生徒に対し、放課後や週休日などに外部人材による大学受験に必要な国語、数学、外国語（英語）の学習指導を実施
- ▶ 「チーム・メディカル」による医学部進学への支援
 - 戸山高校生徒の医学部進学ニーズに対応しチームを結成(H28年度～)
 - 手術室の見学や最先端医学等に関する講演会を開催し、医療への幅広い理解を深めるとともに、医師としてのどのような分野に進むのかなど自らのキャリア形成を具体的に考える機会を提供
 - 夏季休業期間中に大学の医学部や病院等で実体験を通して、大学進学後の生活や現場で働く医師への理解を深め、医師になる意欲を喚起

実績・成果

- ▶ 進学指導重点校における難関国公立大学への合格実績の推移

【別表のとおり】

- ▶ 進学アシスト校における進学実績の推移



【合格大学例】

筑波大学、明治大学、法政大学、成蹊大学、日本大学、東洋大学 etc.

⇒ワンランク上の大学に合格する生徒が現れ始めた

- ▶ 「チーム・メディカル」における国公立大学医学部進学実績の向上

国公立大学医学部医学科等合格者数の推移

	H28	H29	H30	R元	R2	R3
現役	2人	3人	6人	5人	6人	2人
既卒	3人	5人	12人	4人	8人	6人
計	5人	8人	18人	9人	14人	8人

※国公立大学医学部医学科、防衛医科大学校を含む



【都立病院での内視鏡操作体験】

課題・検討事項等

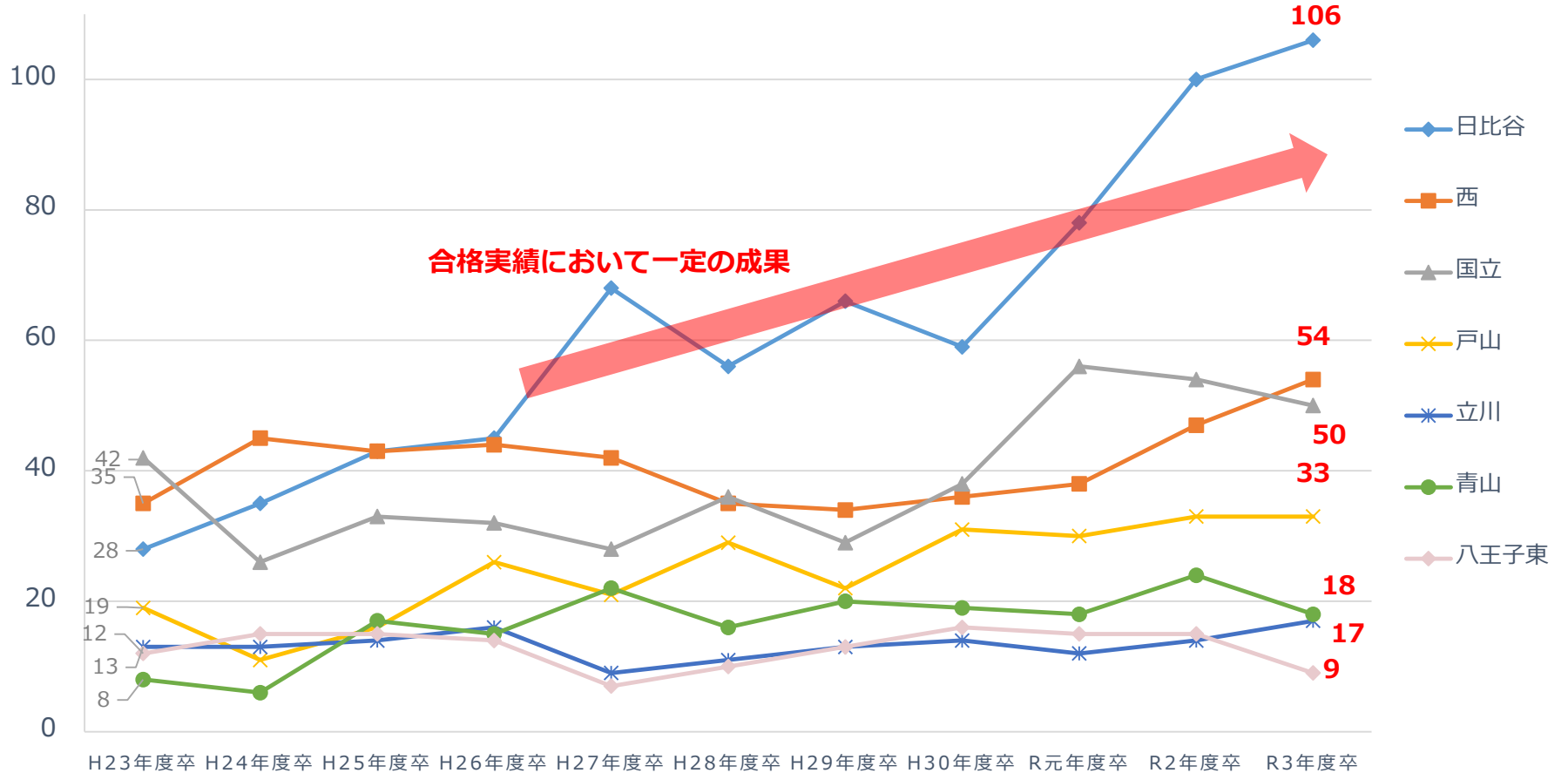
- ・進学指導重点校等の好事例導入による進学実績の更なる向上
- ・進路多様校における基本的な学習習慣の確立に向けた個別指導の充実

(2) 進学希望を実現するための学習支援の充実

【別表】

進学指導重点校における難関国立大学等の合格状況（現役）

(人)



※難関国立大学等：東大・京都大・一橋大・東工大・国公立医学部医学科

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(3) 情報化社会に対応した教育の推進

概要 情報技術を活用し、学校教育の諸課題を解決を目指す「都立学校スマートスクール構想」の実現に向けた取組を推進



主な取組

- ▶ デジタル機器の活用方法を全都立高校で共有
 - ICT活用推進校を指定(H27年度 12校)し、研究及び報告会を実施
- ▶ 一人1台環境の実証研究
 - ICTパイロット校の指定(H28年度～R元年度 2校)
一人1台タブレット端末を配備し、学習活動等における活用法を検討
- ▶ 都立学校スマートスクール構想の推進
 - BYOD研究指定校事業等の実施(H30年度～R元年度 10校)
生徒が所有するICT機器の効果的な活用法等を研究するとともに、成果報告会及び公開事業を実施し、全都立学校への普及を推進
- ▶ 「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」の推進
 - Society5.0に向けた学習方法研究校事業(R2年度～R3年度 18校)
Society5.0に不可欠な生徒一人一人の資質・能力を最大限伸ばす学習方法を開発するための研究を実施し、成果報告会等を開催
 - 定期考査採点・分析システムの導入(R元年度 7校 R3年度 高校等全校)
教員の業務縮減に加え、正答率等の分析による授業改善等の取組を推進するため、定期考査採点・分析システムを都立高校等に導入
 - 都立学校全校へのICT支援員の常駐配置 (R3年度～)
 - 校内無線LAN環境の整備 (R2年度～R3年度)

実績・成果

- ▶ Society5.0に向けた学習方法研究校における成果
 - ICT機器や学習支援クラウドサービスを活用した学習方法の研究
 - 学習支援クラウドサービス(Teams等)を活用した課題提出や意見交換を実施
 - ファイル共有機能を活用した共同編集を実施
 - デジタル教科書の活用により可能となる学習方法の研究
 - 電子黒板とデジタル教科書を活用した音読や発音練習を実施
 - ICT機器等の活用による校務の効率化についての研究
 - 学習支援クラウドサービスのアンケート機能を活用した採点結果の自動集計を実施

「令和3年度 Society5.0に向けた学習方法研究事業報告書」

▶ 都立高校におけるデジタル環境の充実

	R2年度	R3年度	合計
整備実施校数	75校	116校	191校

- ・ R3年度で都立高校全校の校内無線LAN環境整備が完了

課題・検討事項等

- ・ 学習系と校務系データの連携を進めるための基盤整備
- ・ 一人1台端末環境下での校内通信ネットワークの更なる増強
- ・ 指導におけるより効果的なデジタル機器の利活用方法の検討
- ・ ビッグデータ（生徒の成績等）の具体的な活用に向けた検討

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(4) 理数教育の推進

概要 理数教育を幅広く推進し、理数系トップレベルの人材育成及び理数系の素養をもつ生徒の裾野の拡大

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none"> 「理数教育推進校」の指定【裾野の拡大】 	<ul style="list-style-type: none"> 「理数イノベーション校」の指定【トップレベル】 「理数アカデミー校」の指定【中高一貫校】 「理数研究校」の指定【裾野の拡大】 	<ul style="list-style-type: none"> 理数系トップレベルの人材の育成（理数リーディング校） 系統的・体系的な理数教育の充実（理数アカデミー校） 理数系人材の裾野の拡大（理数研究校） 大学等との連携による理数研究ラボの展開

主な取組

▶理数系トップレベルの人材育成

- 「理数リーディング校」の指定(令和元年度～2年度 3校)
- 大学や研究機関と連携した最先端の実験・講義を受けるとともに、探究活動を実施

▶理数系人材の裾野の拡大

- 「理数研究校」の指定(平成27年度～24校)
- 「Tokyoサイエンスフェア」（科学の甲子園東京都大会・研究発表会及び表彰式）等の実施

▶系統的・体系的な理数教育

- 富士高校・附属中学校を「理数アカデミー校」に指定(平成28年度～令和2年度)
- 大学や研究機関と連携して6年間を見通した最先端の実験・講義や探究活動を実施

▶大学等との連携による「理数研究ラボ」の展開

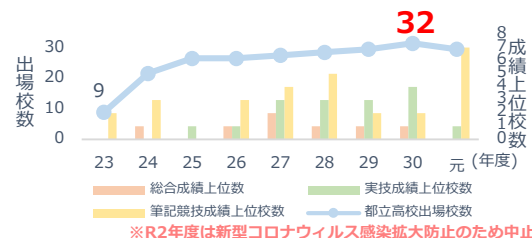
- 科学技術に興味・関心のある生徒に対し、特定の研究テーマについて大学や研究機関等による講義や指導を展開

実績・成果

▶スーパー・サイエンス・ハイスクールの指定 (文部科学省指定)

年度	指定校数	指定校
H24	5校	戸山、小石川中等、日比谷、科学技術、多摩科学技術
R3	7校	戸山、小石川中等、日比谷、科学技術、多摩科学技術、立川、富士

▶科学の甲子園東京都大会における成績



▶国際科学オリンピックでの主な成績

年度	国際物理 オリンピック	メダル	国際生物学 オリンピック	メダル	国際地学 オリンピック	メダル
H25			西	銀		
H27	小石川中等	銅				
H29					小石川中等	金
H30			西	銅		
R3	武蔵	銀	多摩科技	銅		

▶大学等との連携による理数研究ラボの展開

理数研究ラボの参加人数

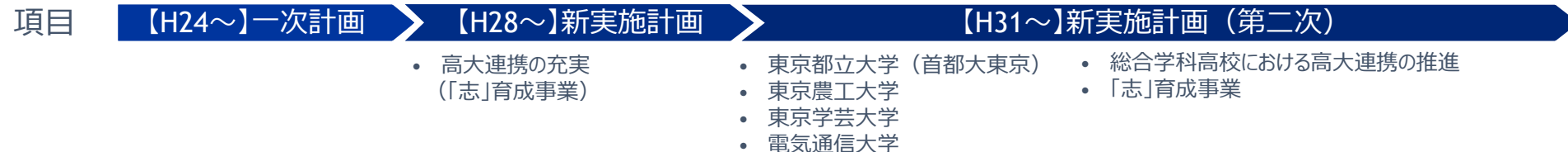


課題・検討事項等

- 「理数探究基礎」や「理数探究」等における優れた指導方法の開発、普及
- 地域や大学、研究機関との連携を更に強化
- 理数分野に興味・関心をもつ生徒の更なる裾野の拡大

(5) 高大連携の推進

概要 生徒の大学進学への目的を明確にするとともに、大学進学後の自己の在り方や生き方を考える契機を創出



主な取組

- ▶東京都立大学（H30年度協定締結）
 - ・夏季集中ゼミによる最先端の科学技術に関する講義や探究ゼミによる文理横断的な通年の探究型学習を実施
- ▶東京農工大学（H30年度協定締結）
 - ・多摩科学技術高校及び農業高校を対象に、工学部・農学部の各分野における講義等を実施
- ▶東京学芸大学（H30年度協定締結）
 - ・小金井北高校において、教員養成プログラムを実施
- ▶電気通信大学（R元年度協定締結）
 - ・情報・理工学分野における基礎的講義から最先端の科学技術に関する講義までレベル別に講義を実施
- ▶総合学科高校における高大連携・産業能率大学(R元年度協定締結)
 - ・総合学科高校教員向けに「課題研究」における指導手法の研修実施
- ▶「志」育成事業
 - ・東京工業大学等と連携し、最先端の研究、技術に触れる講演やフォーラムを実施

実績・成果

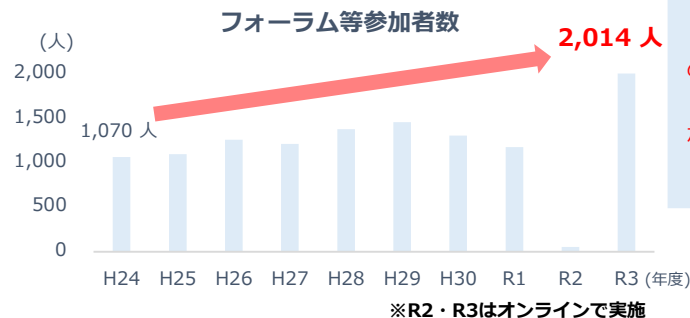
▶連携による生徒の意識の変化

【生徒の声(電気通信大学との連携)】
 「実験だけでなく、**大学生の先輩との会話の中で大学や受験のことを知ることができたのがよかった。**」 etc.
 【生徒の声(東京学芸大学との連携)】
 「**将来教職の道に進みたい**と考えているので、**とても興味深い内容**だった。」 etc.



【東京農工大学による講演会の様子】

▶「志」育成事業の浸透



【参加生徒の声】
 「今後、**自分の将来を考える1つのきっかけ**となりました。」
 「**今から専門のことを深く学ぶのがとても楽しみ**になった。」 etc.

課題・検討事項等

- ・生徒の興味・関心を喚起する取組内容の工夫・改善
- ・大学との円滑な接続の一層の推進

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(6) いじめ防止等の対策や自殺対策に資する教育の推進

概要 いじめを防止するための組織的な取組や、SOSの出し方に関する教育など自殺予防に関する取組を推進

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none">インターネット等の適正利用の推進	<ul style="list-style-type: none">「いじめ総合対策」の充実インターネット等の適正な利用の促進	<ul style="list-style-type: none">いじめ防止対策の推進自殺予防対策に関する取組の徹底インターネット等の適正な利用に関する啓発・指導SNSを活用した教育相談体制の構築

主な取組

▶いじめ防止対策の推進

- 「いじめ総合対策【第二次・一部改定】」に基づき、「未然防止」「早期発見」「早期対応」「重大事態への対処」の4段階に応じた具体的な取組を実施

▶自殺予防対策に関する取組の徹底

- 「SOSの出し方に関する教育」を推進するとともに、教員が生徒のSOSを受け止め、支援する力を高めるための教員研修プログラムを都内全公立学校へ周知、活用促進

▶インターネット等の適正な利用に関する啓発・指導

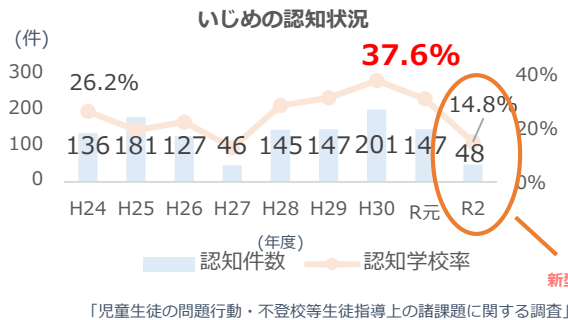
- 平成27年度に策定した「SNS東京ルール」を改訂すると共に、「考えよう！いじめ・SNS@Tokyo」や補助教材「SNS東京ノート」を作成して情報モラル教育を推進

▶SNS等を活用した教育相談体制の構築

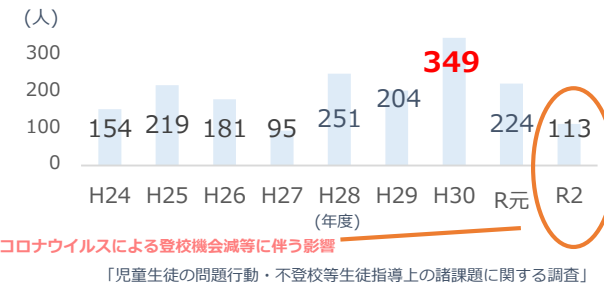
- 都内在住、在学の中高校生を対象にSNSを活用した相談を実施（令和元年度～）
- アンケート機能や折返し発信機能を使い、質と利便性の向上を実施（令和2年度～）

実績・成果

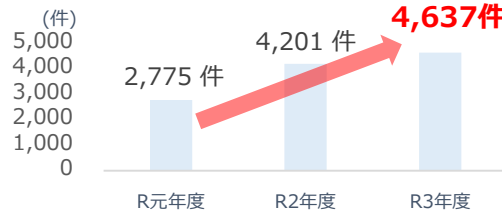
▶いじめの認知件数等の推移



いじめを相談した延べ生徒数



SNS等を活用した教育相談総件数



課題・検討事項等

- 「生徒がいつでもどんなことでも安心して相談できる環境」の構築、「SOSの出し方に関する教育」の更なる推進
- 情報モラルにとどまらず、情報活用能力全般を指導するためのモデルカリキュラムの検討

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(7) 基礎体力や競技力の向上

概要 基本的な生活習慣・運動習慣の確立を柱として基礎体力の向上を図るとともに、部活動振興により国内トップレベルを目指す生徒を育成

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な子供の基礎体力向上施策 	<ul style="list-style-type: none"> 「アクティブプランto2020」の推進 コーディネーショントレーニング拠点校の指定 部活動推進指定校(気力体力鍛錬道場)の指定 「スポーツ特別強化校」の指定による競技力向上 部活動指導の民間委託モデル事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「アクティブプランto2020」の推進 コーディネーショントレーニング拠点校の指定 パワーアップハイスクールの指定 「スポーツ特別強化校」の指定による競技力向上 部活動指導員による運動部活動の推進

主な取組

▶「アクティブプランto2020」

- 東京都統一体力テストの実施
- 6月を「体力テスト実施月間」と位置づけ、目標(値)の設定や事前指導の充実を促進

▶コーディネーショントレーニング拠点校の指定

- 延べ290校(園)を指定校とした事業を実施 (H25年度～)
- 教員研修は延べ845名が受講 (H27年度～)

▶パワーアップハイスクールの指定

- 36校を指定 (H30年度～H31年度の2年間)
- 体力向上の取組の充実を学校全体で図り、特色化を推進

▶スポーツ特別強化校の指定

- 第Ⅰ期 23校50部を指定 (H27年度～H29年度の3年間)
- 第Ⅱ期 40校58部を指定 (H30年度～R3年度の4年間)
- 部活動の充実を図り、特色化を推進

▶部活動指導員の活用

- H30年度から部活動指導員の配置を開始
- 部活動指導員に対する悉皆研修を年2回開催

実績・成果

▶体力テストにおける体力合計点(80点満点)の平均値の推移

	H23年度	R元年度	R3年度	増減
高2男子	51.4点	52.4点	51.4点	-1.0点
高2女子	48.0点	51.5点	51.0点	-0.5点

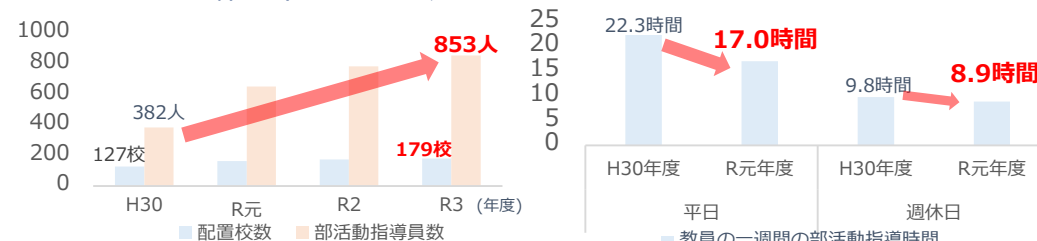
▶大会に出場した都立高校生のうちスポーツ特別強化校生徒が占める割合の増加

- 関東大会出場率(個人種目) H26年度 49.0% ⇒ R3年度 **54.5%**
- 全国大会出場率(個人種目) H26年度 42.7% ⇒ R3年度 **48.5%**

▶スポーツ特別強化校における優勝回数の増加

- 関東大会優勝回数 H26年度 0回 ⇒ H27年度からR3年度まで **計27回**

▶部活動指導員配置校において教員の1週間の部活動指導時間が減少



課題・検討事項等

- 保健体育の授業におけるデジタル技術を活用した一人一人に最適な学びの実現
- スポーツの関係団体等と連携し、運動習慣が定着する取組の推進

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(8) 使える英語力の育成

概要 英語の4技能の定着のため個々の生徒へのきめ細かい指導を展開するとともに、外国人指導者の効果的な活用や体験的に英語を使う機会の創出により実践的な英語力を育成

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none">英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none">英語教育推進校の指定【第Ⅰ期】(3年間)JET※プログラムによる外国人指導者の配置JET青年等の活用による文化交流の促進東京グローバル10の取組の充実	<ul style="list-style-type: none">英語教育推進校の指定【第Ⅱ期】(4年間)JETプログラムによる外国人指導者の活用による授業改善東京グローバル10の取組東京イングリッシュ・エンパワーメント・プロジェクト(TEEP)の実施「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の活用

※JETとは・・・「語学指導等を行う外国青年招致事業」により招致された英語等指導助手

主な取組

- ▶ **英語教育推進校の指定**
 - 第Ⅰ期、第Ⅱ期に各40校を指定
 - 英語Can-Doリストを作成【第Ⅰ期】、活用・修正【第Ⅱ期】
- ▶ **JETプログラムによる外国人指導者の活用**
 - 全ての都立高校及び中等教育学校に配置（H27年度～）
 - 来日時研修、指導力向上研修を実施（H26年度～）
- ▶ **東京グローバル10の取組(H30年度～R3年度 10校を指定)**
 - 新たなグローバル・リーダー育成のため特色ある取組を展開
 - 海外語学研修や留学生の受入れ、多言語学習の充実など
- ▶ **「TOKYO ENGLISH CHANNEL」教材の作成・イベントの実施**
 - 「TOKYO ENGLISH CHANNEL」に英語学習動画コンテンツを掲載（R3年度～）
 - オンラインイベントにより、英語で世界と渡り合う実践の機会を提供
- ▶ **「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の活用**
 - 実践的・体験的に英語を使用する楽しさを学ぶことができる施設を青海地区に開設(H30年9月)

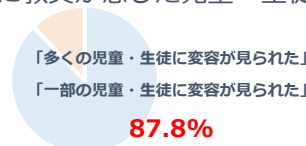
実績・成果

- ▶ 生徒の英語力が向上
【別表のとおり】
- ▶ 教員の英語力が向上
【別表のとおり】
- ▶ 「TOKYO GLOBAL GATEWAY」利用後における児童・生徒の変化
 - 施設利用者数
 - 利用後の児童・生徒の体験後の感想

平成30年度	約5万人
令和元年度	約8万人
令和2年度※	約3万人
令和3年度	約8万人

※ R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により学校利用が制限

- ・ 利用後に教員が感じた児童・生徒の変化



【多かった意見】

- 「英語に対する学習意欲が高まった」
- 「英語でのコミュニケーションが積極的になった」
- 「英語への苦手意識が克服された」

「H30年度、R元年度利用者のアンケート」

課題・検討事項等

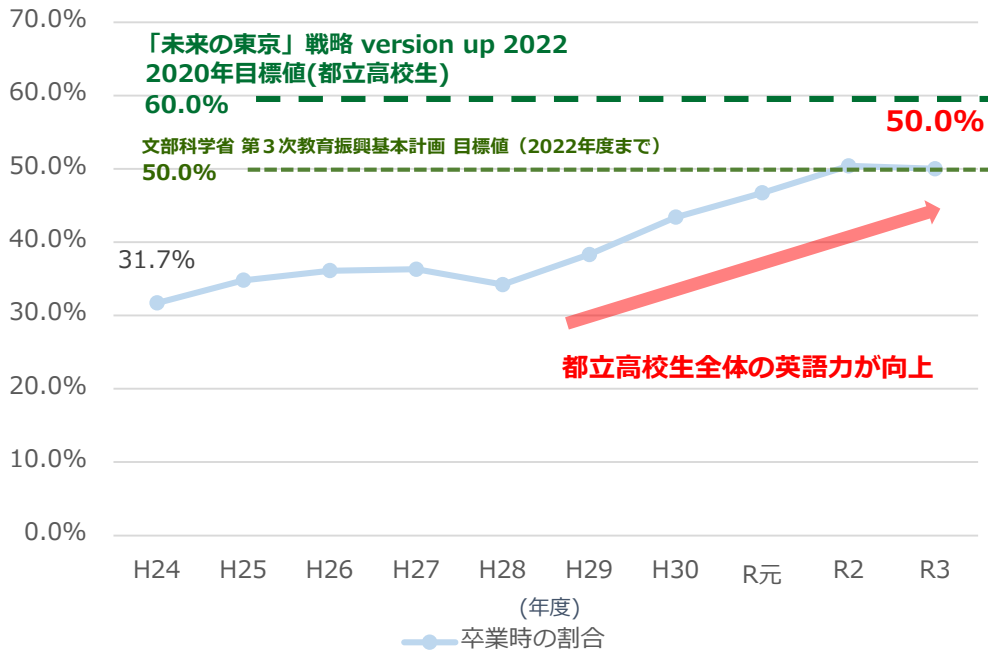
- ・ JET、ALTを効果的に活用した教育活動例及び授業実践例の共有
- ・ 「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の内容の充実と学校を中心とした更なる活用の促進
- ・ 多摩地域における体験型英語学習施設（「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS」）の開設（令和5年1月）に向けた準備

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

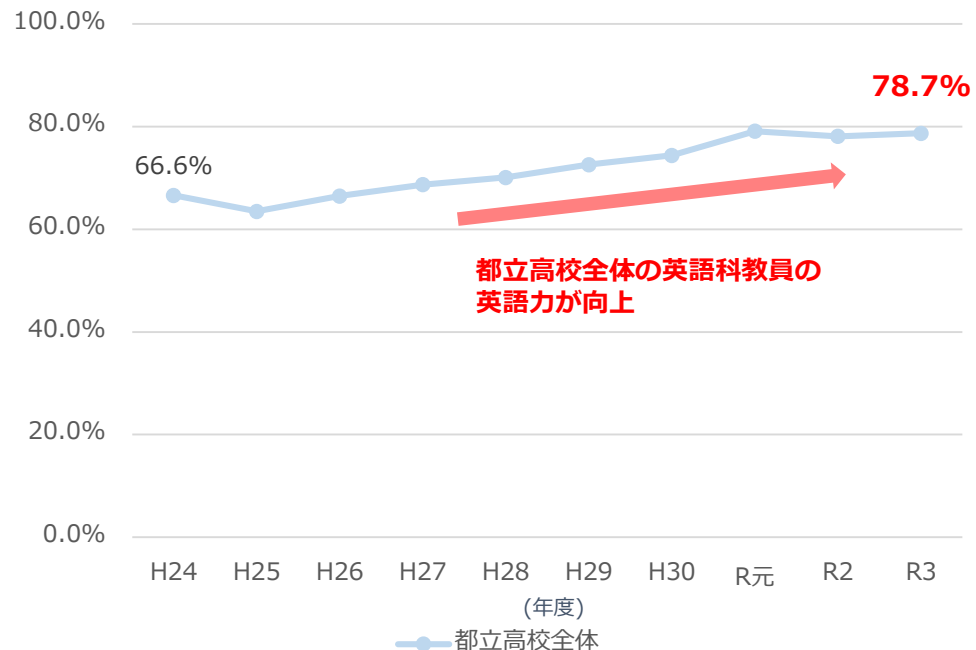
(8) 使える英語力の育成

【別表】

CEFR A2相当以上を取得している都立高校生の割合

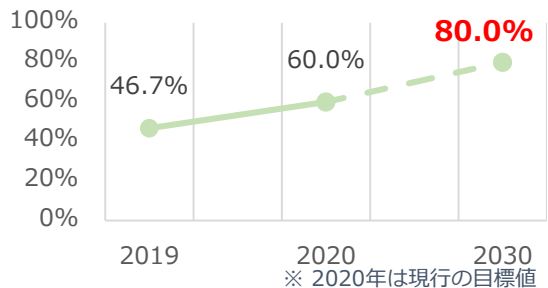


CEFR B2相当以上を取得している英語科教員の割合



▶「未来の東京」戦略 version up 2022 (2030年の教育目標「中学生・高校生の英語力を向上」)

- 都立高校生
英検準2級程度の割合
80% (2030年目標)



【参考】CEFRと英検との対照表

CFER	A1	A2	B1	B2	C1	C2
英 検	3級					
	準2級					
		2級				
			準1級			
				1級		

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(9) 世界を舞台に活躍する次世代リーダーの育成

概要 留学を通じて語学力や問題解決能力、チャレンジ精神等を養い、将来、世界を舞台に活躍する次世代のリーダーを育成



主な取組

▶次世代リーダー育成道場の実施

- 平成24年度から都立高校生等を対象にアメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの高校への留学支援を実施
- 研修生に対し、以下の事前研修を実施
 - 講義（目標の設定）、英語実践演習、ゼミナール研究（個人研究）、日本の歴史や伝統・文化に関する学習、国際交流プログラムなど
- 令和3年度までに1,417人が修了

【内訳】

期（入校年）	修了人数
1期生（平成24年）	146
2期生（平成25年）	199
3期生（平成26年）	191
4期生（平成27年）	198
5期生（平成28年）	197
6期生（平成29年）	191
7期生（平成30年）	197
8期生（令和元年）	98
9期生（令和2年）	0

※R元、2年度は新型コロナウイルスの影響に留学プログラムを中止した。10期生については、令和4年3月に26名がオーストラリアに出発し、令和4年8月に124名が北米に出発予定である。

実績・成果

▶語学力や主体性、チャレンジ精神の向上

英語力（語学力）が向上した



「次世代リーダー育成道場第7期生事業報告書」

【修了生の声】
「各種英語能力資格を取得した」
「英語で書かれたものを読んで多様な考え方として吸収するようになった」
「英語を使うプログラムに積極的に応募している」 etc.

主体性・積極性、チャレンジ精神が向上した

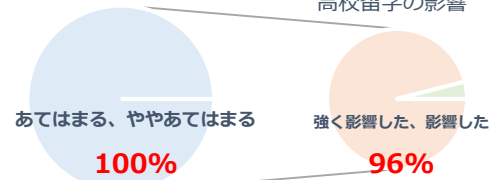


「次世代リーダー育成道場第7期生事業報告書」

【修了生の声】
「様々な価値観を持つ人と接し、その人の考え方から刺激を受け、自分の行動を主体的に考えるようになった」
【在籍校教員の声】
「修了生が食品ロス削減のプロジェクトに参加しようとしている」 etc.

▶異文化理解の向上

日本と諸外国との生活や文化の違いを理解し、尊重している



「次世代リーダー育成道場追跡調査（第1期生から第5期生）」

高校留学の影響



▶進路決定への影響

【修了生の声】
「留学中に興味を持った分野に進んだ」
「海外大学院への進学を決めた」
「今後は日本の国際化を支えられる人材になりたいと思うようになった」 etc.

「次世代リーダー育成道場追跡調査（第1期生から第5期生）」

課題・検討事項等

- 「リーダー像」の再定義及び次世代リーダー育成道場研修生の選考方法の見直し
- 研修生の課題意識や興味等に合致した留学先での学びを実現するため、理数系に強い学校や専門的に学べる現地校、ホストファミリーを確保

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(10) 豊かな国際感覚の醸成

概要 国際交流活動や留学生の受入れを通じた豊かな国際感覚の醸成

項目 **【H24～】一次計画** **【H28～】新実施計画** **【H31～】新実施計画（第二次）**

- 姉妹校交流の拡大
- 海外からの留学生受入れの促進
- 都独自の英語教材「Welcome to Tokyo」の活用
- 海外との学校間交流の取組
- 東京都国際交流コンシェルジュの活用
- 海外からの留学生受入れの促進
- 都独自の英語教材「Welcome to Tokyo」の活用

主な取組

▶海外との学校間交流の推進

- 海外学校間交流推進校の指定(R3年度末時点 72校を指定)
都立学校における海外の学校との交流活動に必要な経費を支援

▶東京都国際交流コンシェルジュの活用

- 「東京都国際交流支援システム」の運用
- 交流先の情報の一元化や学校からの相談対応等を行い、各学校のニーズに応じたきめ細かな支援を実施

▶海外からの留学生受入れの促進

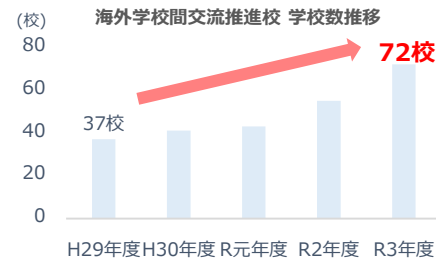
- 「東京体験スクール」を実施し留学生の受入れを促進
(R2・3年度は中止)

▶都独自の英語教材「Welcome to Tokyo」の活用

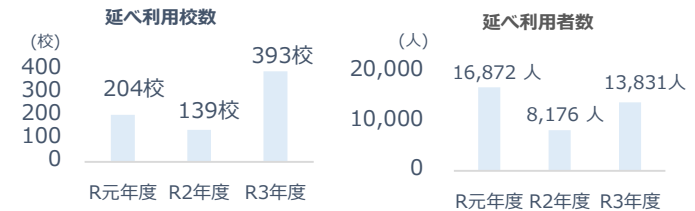
- 日本、東京の文化、歴史等の理解促進と英語による発信力向上のために都独自の英語教材を全都立学校に配布
- 令和3年度から電子化。「TOKYO ENGLISH CHANNEL」内に掲載

実績・成果

▶都立学校における国際交流の促進

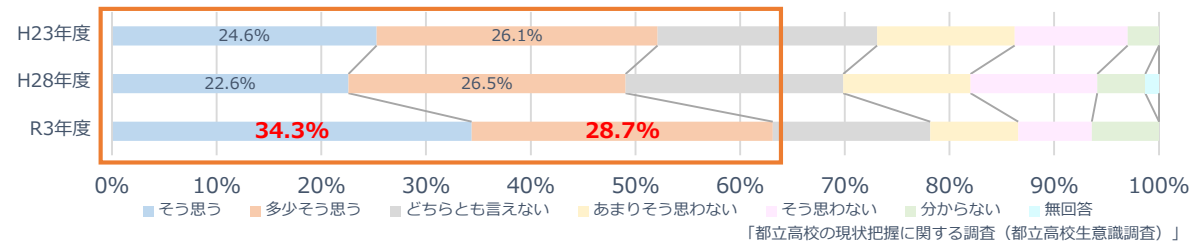


国際交流コンシェルジュ利用状況(小中高合計)



▶生徒の国際交流意識の改善

あなたは外国の人々と進んでコミュニケーションをとりたいと思いますか



課題・検討事項等

- コロナ禍においても、安全かつ着実に実施できる学校間交流の手法や留学生の受入れ策を検討

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(11) キャリア教育の推進

概要 生徒の「学ぶこと」「働くこと」に対する意欲を引き出すとともに、実社会で必要とされる基礎的な能力や態度等を育成

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none">職業的自立に向けた教育プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none">主権者意識の醸成企業・NPO等との連携によるキャリア教育の推進新教科「人間と社会」の設置	<ul style="list-style-type: none">主権者意識等の醸成企業・NPO等との連携によるキャリア教育の推進教科「人間と社会」の推進

主な取組

▶主権者意識等の醸成

- 成年年齢引き下げに伴い、法、金融、租税、消費者教育等を教育活動全体を通じて実施し、大人としての自覚を醸成
- 主権者教育推進のための教員対象研修を実施

▶企業・NPO等との連携によるキャリア教育の推進

- 普通科高校を中心に「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」を実施し、社会人・職業人として生活していくために必要な能力の定着を支援

▶地域や社会の課題を解決する力を育成する教育の充実

- 「都立高校生等起業・創業体験」を実施し、将来の生き方の一つに起業という選択肢をもつ人材の育成に向けた取組を展開

▶教科「人間と社会」の推進

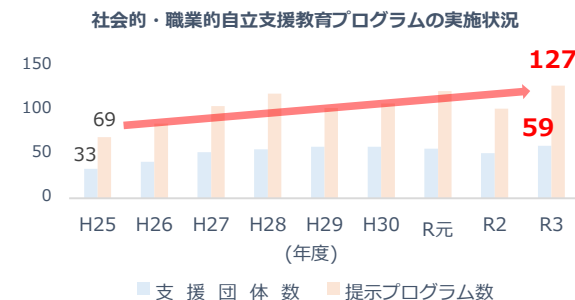
- 令和3年度の演習と体験活動の実施状況を調査
- 各校の推進者を対象とした「人間と社会」推進者研修の開催

実績・成果

▶有権者意識の向上

- 東京都知事選挙18歳推定投票率
H28年度 51.83% ⇒ R2年度 **60.57%**

▶社会的・職業的自立支援教育プログラムの充実



- 働くことや将来のために学ぶことに対する興味・関心や意欲が向上

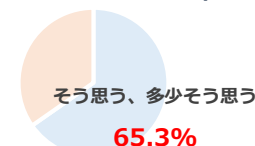
【生徒の感想】

「様々な職業人からリアルな話を聞くことなどで、仕事は面白く、熱中できることだと思えるようになった」
「学校で学ぶことが、将来の仕事や社会で役立つと考えられるようになった」 etc.

課題・検討事項等

- R4年度からの新しい高等学校学習指導要領を踏まえた系統的なキャリア教育、自立支援教育プログラムとなるよう学びや支援内容の更なる充実
- コロナ禍であっても必要な体験活動が実施できるよう、手法や内容について支援策を検討
- 生徒の自立や職業への意識を高める教育プログラムの充実を検討

あなたは、選挙の投票にいくなど積極的に社会に
参加していきたいと思いませんか。(R3年度)



「令和3年度 都立高校の現状把握に関する調査（都立高校生意識調査）」

【プログラム事例】

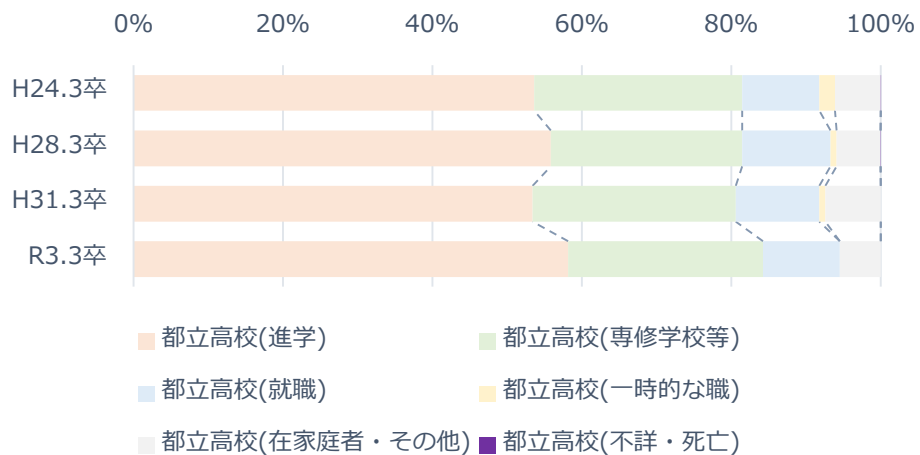
- 『職業人へのインタビューワークショップ』
職業選択理由などを職業人へインタビューし、講師からもインタビューのポイント指導を受けることで、将来設計のヒントを掴むとともにコミュニケーション方法を習得
- 『金銭基礎教育プログラムMoneyConnection®』
「お金」と「働くこと」の基本的な知識を、参加型のカードを使ったシミュレーション形式で学習し、将来を見据えた進路選択の大切さを習得

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

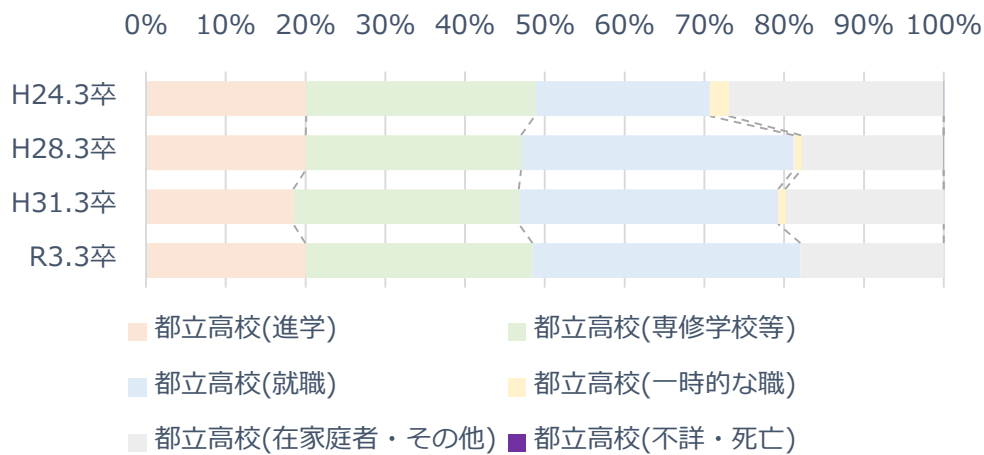
(11) キャリア教育の推進

【参考】 都立高校卒業生における主な進路状況の推移

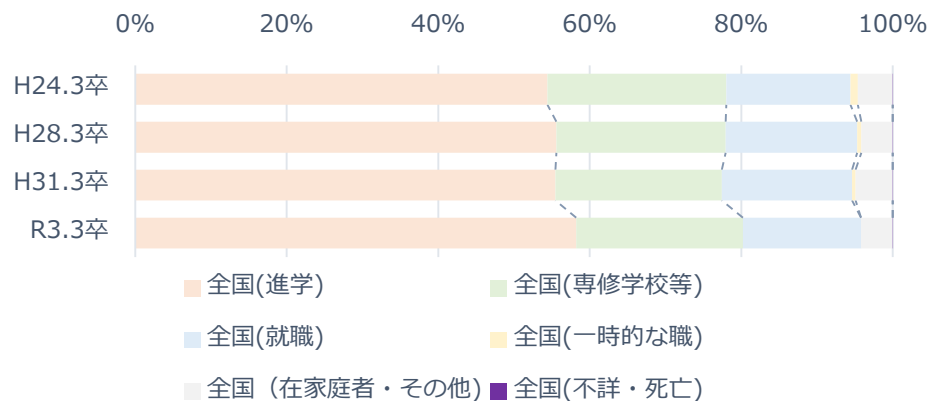
▶全日制課程



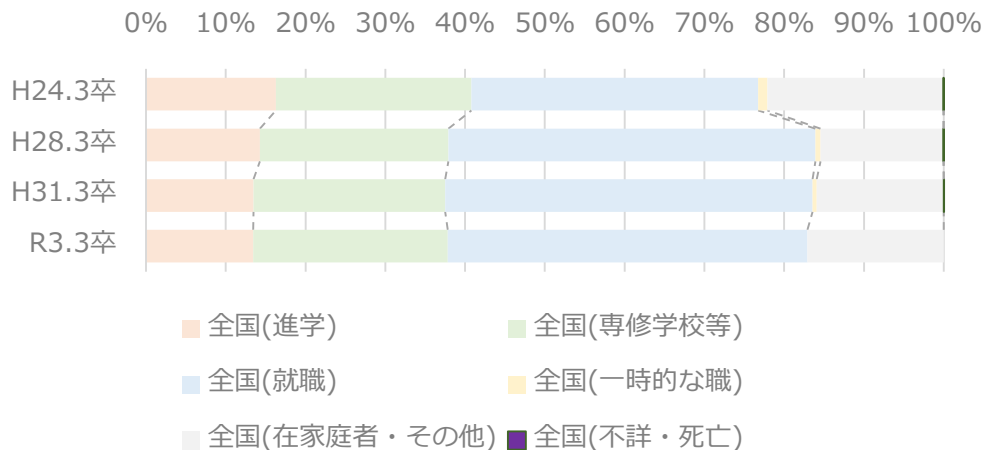
▶定時制課程



【全国データ】



【全国データ】



I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(12) 社会貢献意識と実践力の育成

概要 自分だけでなく他人も守り、高い社会貢献意識と実践力を兼ね備えた人間を育成



主な取組

▶ 防災教育の充実

- 防災教育デジタル教材「防災ノート～災害と安全～」(高等学校版)を配信
- 「防災士養成講座」を実施(H28年度～)
- 「一泊二日宿泊防災訓練」を実施(H24年度～ 全日制課程)
- 「一泊二日宿泊防災訓練」を「地域と連携した防災訓練」に変更し、消防署、警察署や自治体の防災対策課と連携した防災訓練や避難所設営・運営訓練を実施(R3年度～)
- 防災教育研究校10校を指定(R3年度～)

▶ ボランティア活動の推進

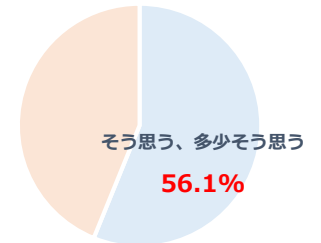
- ボランティア活動推進校を指定(H29～R元年度)
- 海外ボランティア体験の実施(ベトナム)(R元年度)
- 都立高校生等ボランティアサミットの開催(H30～R2年度)
- 推進校による企画運営、好取組を全都立高校で共有
- 全都立高校でボランティアサポートチームを編成(R元年度～)
- 各都立高校でボランティア活動を推進

実績・成果

▶ 防災意識の向上

- 「一泊二日宿泊防災訓練」
延べ32万人の都立高校生が参加(H24年度～R元年度)
- 「防災士養成講座」の実施
約550人の生徒・教員が参加(H28年度～R3年度)

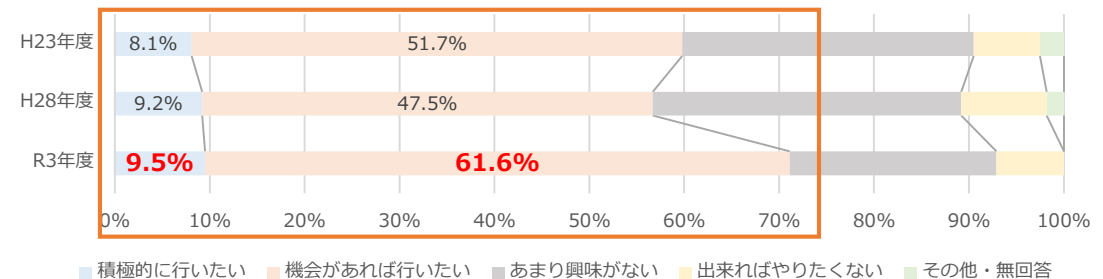
あなたは、学校で学んだ防災対策を通じて、防災意識が高まっていると思いますか。(R3年度)



「令和3年度 都立高校の現状把握に関する調査(都立高校生意識調査)」

▶ 生徒の社会貢献意識の変化

あなたは今後、ボランティアなど社会貢献活動を行いたいですか。



「都立高校の現状把握に関する調査(都立高校生意識調査)」

課題・検討事項等

- VR等を活用し、疑似体験を通じた防災教育の検討
- 地域の自治体やボランティアセンターとの連携強化

I 次代を担う社会的に自立した人間の育成

(13) 特別支援教育の推進・充実

概要 障害のある生徒の入学に際し、本人等からの合理的配慮の申し出を踏まえた教育条件の整備を推進

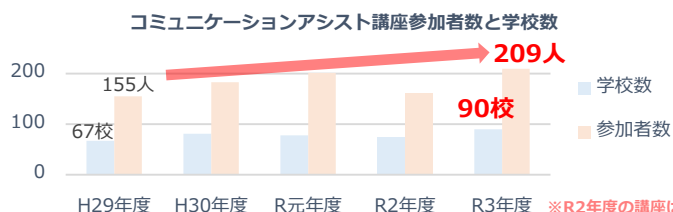
項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none">特別支援教育推進計画に基づく都立高校における特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none">発達障害教育に係る指導内容の充実と組織的な対応発達障害教育環境の整備支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none">発達障害教育に係る指導内容の充実と組織的な対応発達障害教育環境の整備高校における通級による指導の充実

主な取組

- ▶ 発達障害教育に係る指導内容の充実と組織的な対応
 - ・社会性の向上とキャリア教育充実のためのテキスト「マイ・ライフ・デザイン」を全都立高校へ配布
 - ・発達障害教育に係る指導内容の充実と組織的な対応に係る研究開発報告会を実施
- ▶ 発達障害教育環境の整備
 - ・平成28年度からコミュニケーションアシスト講座を開講
民間のノウハウを活用し、土曜日等に学校外で、全校を対象に発達障害等のある生徒に対して特別な指導・支援を実施
- ▶ 高校における通級による指導の充実
 - ・平成30年度に秋留台高校をパイロット校として指定し、発達障害等のある生徒を対象とした通級に係る検証を実施
 - ・令和3年度から、**全ての都立高校及び中等教育学校後期課程に通級指導に係る仕組みを導入**
 - ・年度内に3回、対象生徒の指導開始等の適否判定を行う「東京都通級等判定委員会」を実施し、外部有識者の意見も踏まえて生徒一人一人に必要な指導・支援内容を審議

実績・成果

- ▶ 発達障害教育に係る指導事例
 - ・青梅総合高校（R元年度 研究開発発表会）
「きもちの相談カード」（入学時に記入）を活用し、生徒の性格や心配事などを把握
「マイ・ライフ・デザイン」を系列選択科目に使用して自分をコントロールする力や他人、社会との関わり方を身に付ける授業を展開
- ▶ 教育課程外での特別な支援の充実



【講座事例】

- ・グループでの共同作業や共同学習を通じて、他者との協働の仕方やチームワーク、コミュニケーション方法やストレスマネジメントを学ぶプログラムを実施
- ・音楽活動や小説づくり等、他者と協力して一つのものを作り上げたり、自分を自由に表現したりする活動を実施

- ▶ 都立高校及び中等教育学校後期課程全校における通級指導の仕組みを整備
 - ・パイロット校における検証によると、個別指導を基本とした通級指導により学校全体で一貫性のある指導の実施が可能となったことに加え、**教員の対象生徒に対する理解や指導力が向上**
 - ・令和4年1月現在、**26課程81人**に対し通級による指導を実施

課題・検討事項等

- ・全校における通級指導の適切な実施に向けた教員の発達障害への理解促進策の構築
- ・学校全体で発達障害教育を推進できる体制や、特別支援学校との連携など都立高校での通級を支援する仕組みの構築

目次

Contents

1

都立高校改革推進計画の概要

2

都立高校改革推進計画における
主な取組の実績・現状

3

都立高校改革推進計画の取組

I 教育内容

次代を担う社会的に自立した人間の育成

4

都立高校改革推進計画の取組

II 教育諸条件

質の高い教育を支えるための環境整備

5

都立高校の主な学科・課程等の現状

III 学科・課程の改善・充実等

生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす
学校づくりの推進

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(1) 課題を抱える生徒に対する校内支援体制の強化

概要 不登校や中途退学生徒への対応を学校内の教職員が適切な役割分担のもと協力して行うとともに、関係機関との連携を図るなど、組織的な取組を推進

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
		<ul style="list-style-type: none">不登校・中途退学対策の中心的役割を担う教員の指定スクールカウンセラーの拡充精神科医の活用の促進	<ul style="list-style-type: none">不登校・中途退学対策の中心的役割を担う教員の指定スクールカウンセラーを活用した学校教育相談体制の充実精神科医の活用による支援の強化

主な取組

- ▶ **自立支援担当教員を中心とした校内の支援体制の整備**
 - 自立支援チームや関係機関との調整を図り、校内の支援体制の整備に中心的な役割を担う**自立支援担当教員**を指定(H28年度～)
 - 養護教諭が自立支援チームに関与できるよう、養護教諭を補助する会計年度任用職員(アシスタント職)を配置(H28年度～)
- ▶ **スクールカウンセラーの拡充と活用**
 - スクールカウンセラーを全都立高校に配置(H24年度～)
 - スクールカウンセラーを全課程に配置**(H28年度～)
 - シニア・スクールカウンセラーのモデル事業を開始(R2年度～)
- ▶ **精神科医の活用による支援の強化**
 - 専門医派遣事業(精神科)(H22年度～)
希望する学校に専門医(精神科)を派遣し、教職員の個別相談、教職員向けの研修会、事例検討会等を実施
全教職員を対象として、専門医派遣事業精神科講演会を実施
 - 精神科医を学校医として配置(H26年度～)
エンカレッジスクール・チャレンジスクール・新たなタイプの昼夜間定時制高校に配置

実績・成果

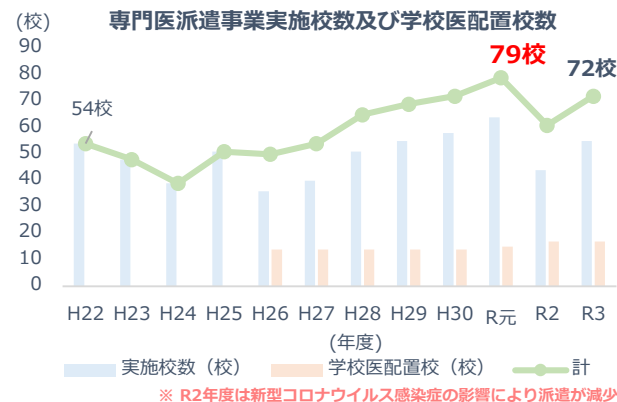
▶ 不登校生徒の出現率の推移等

【別表のとおり】

▶ 中途退学率の推移等

【別表のとおり】

▶ 精神科医の活用状況



【学校からの報告】

- 治療の必要な生徒を**医療につなぐことができた**
- 健康問題を抱える生徒への**組織的な対応方針の見通しがついた**
- 精神科学校医に継続して相談でき、**タイミングを逃さず対応ができた** etc.

⇒生徒の心の健康問題に対し、教員の知識、理解が深まり、組織的対応力が向上

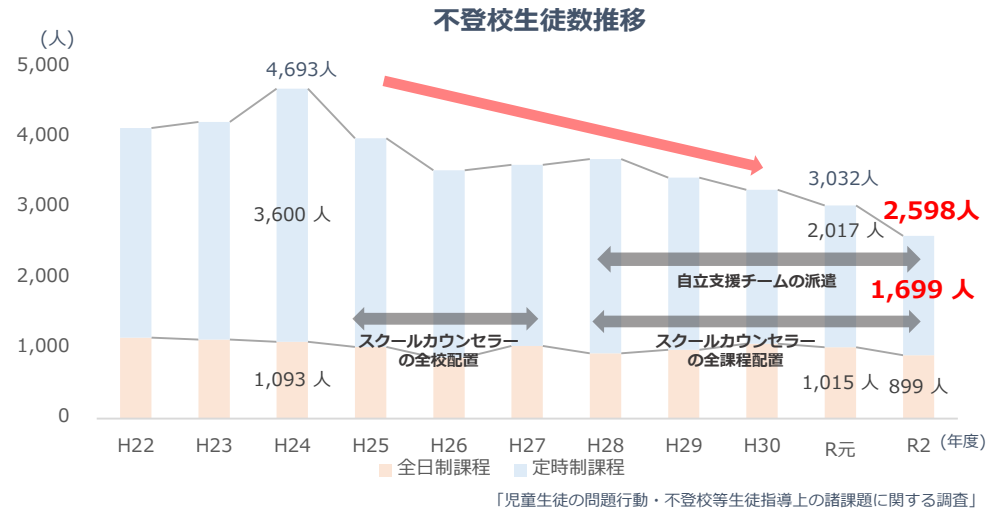
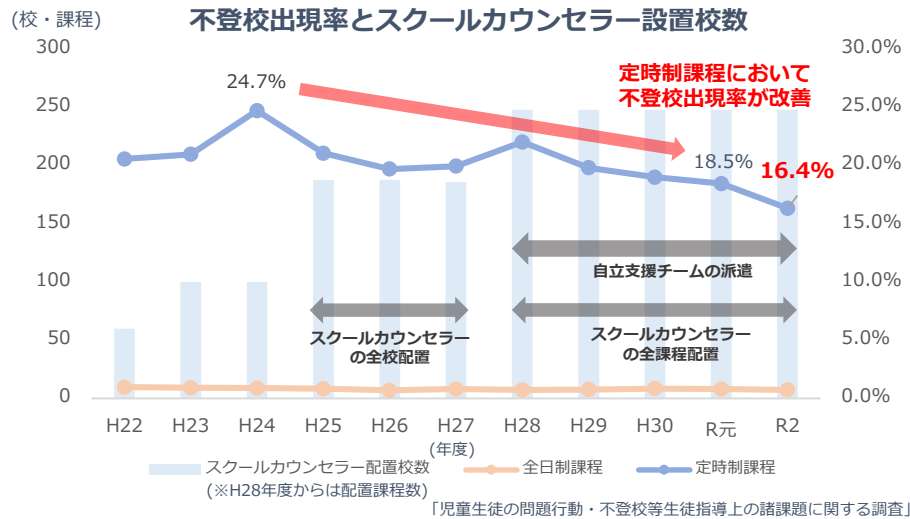
課題・検討事項等

- 自立支援担当教員のコーディネート力の向上
- 都内各校におけるスクールカウンセラーを活用した教育相談体制の質的向上
- 学校現場における潜在的ニーズに対応できる専門医(精神科)の確保

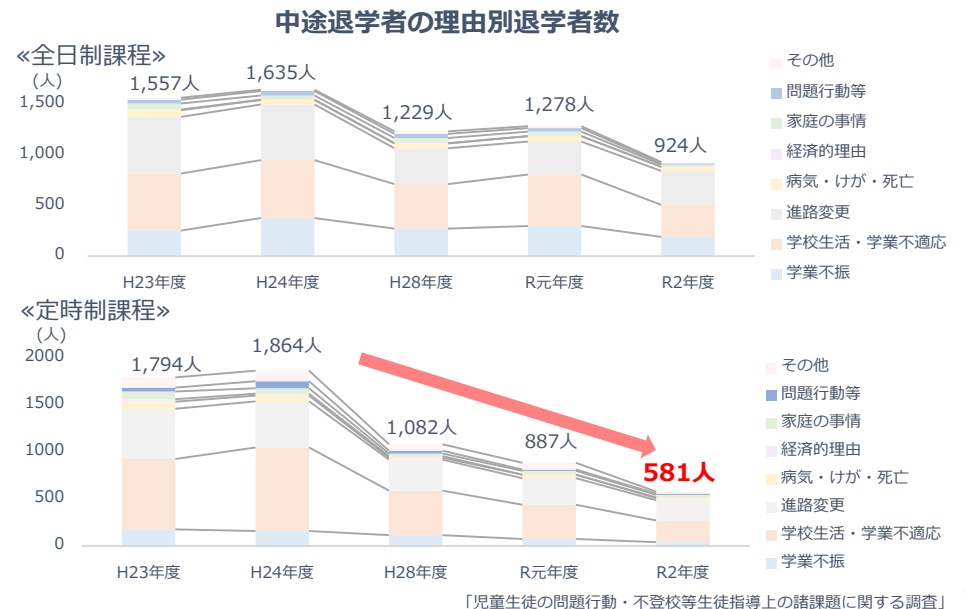
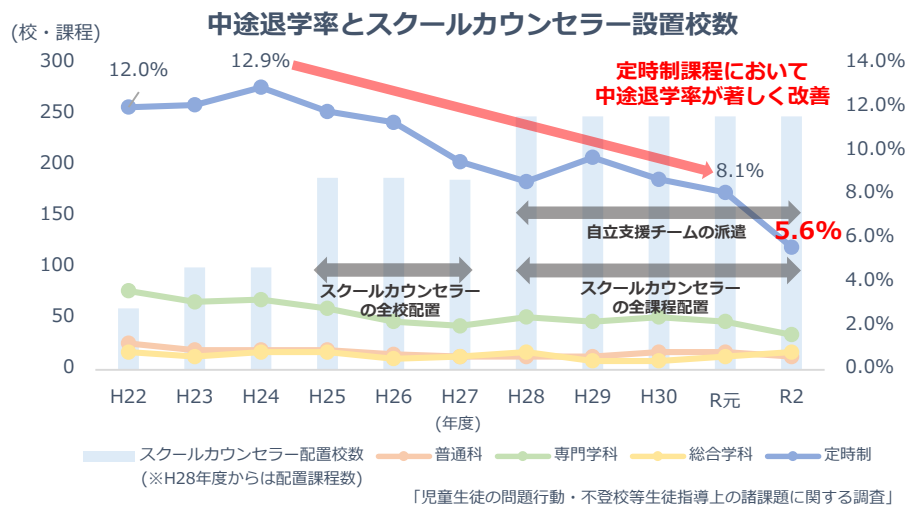
II 質の高い教育を支えるための環境整備

(1) 課題を抱える生徒に対する校内支援体制の強化

【別表】 不登校出現率の推移等



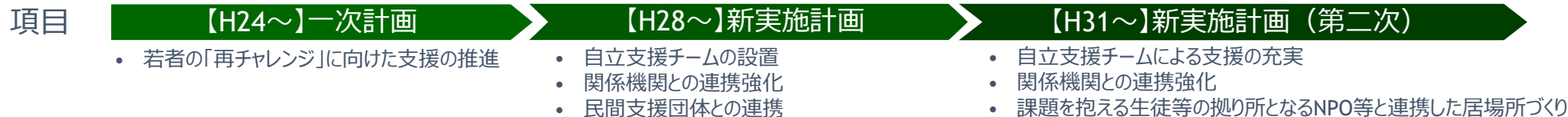
【別表】 中途退学率の推移等



II 質の高い教育を支えるための環境整備

(2) 課題を抱える生徒の自立に向けた支援の充実

概要 様々な悩みや課題を抱える生徒が将来、社会的・職業的な自立に向けた進路決定を促す支援と環境づくりを推進



主な取組

▶自立支援チームの活用

- ユースソーシャルワーカー(YSW)とユースアドバイザー(YA)により構成される「自立支援チーム」派遣事業を開始(H28年度～)
(H30年度～ ユースソーシャルワーカー(主任)を配置)
- YSWを中途退学等の課題を抱える高校へ派遣するとともに、YAがYSWに対するマネジメント・アドバイス等を実施
- 学校と連携し、中途退学の未然防止や不登校生徒への支援、生徒及びその家族が抱える課題への福祉的支援、都立高校を中途退学した生徒への就労・再就学支援を実施
- 不登校や中途退学などの課題が顕著な都立高校に継続派遣
- その他の都立高校に対しても要請に応じて訪問

▶都立高校生進路支援連絡協議会との連携強化

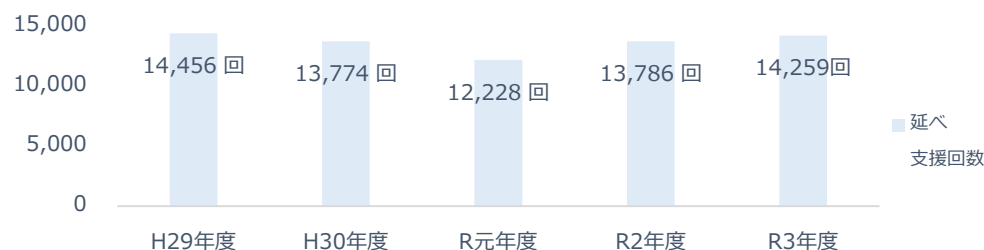
- 高校生への支援の在り方について関係機関と協議する仕組みを導入(H25年度～)

▶NPO等の外部団体と連携した居場所づくり(学びのセーフティネット事業)

- 都内3か所(東部地区、中部地区、西部地区)に**日常の拠り所となる居場所(支援場所)**を若者支援NPOに委託して開設
- 学習支援や生徒同士の交流、進路相談、生活相談、就労に向けた支援を実施

実績・成果

▶自立支援チーム派遣による支援実績



▶学びのセーフティネット事業による取組

- 学びのセーフティネット事業におけるNPO等の支援を受けている参加者数

	R元年度	R2年度	R3年度
参加者	195人	238人	487人



【参加者の感想】

- 丁寧な学習支援を受けたことで、通信制の生徒がレポート作成に前向きに取り組めるようになった。
- NPOスタッフや同じ悩みを抱える生徒との交流をきっかけに、対人コミュニケーションに自信を持つことができ、アルバイトを始められるようになった。

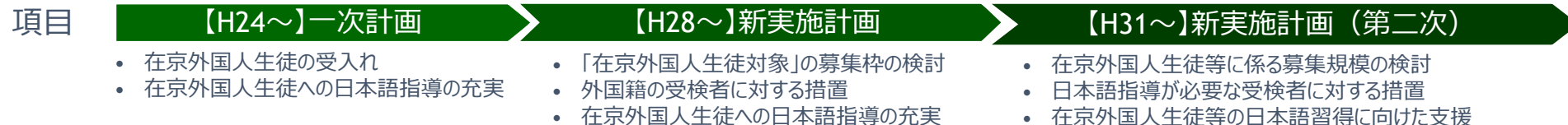
課題・検討事項等

- 校内におけるサード・プレイスの設置の検討
- 学びのセーフティネット事業の拡充

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(3) 日本語指導が必要な生徒に対する支援の充実

概要 在京外国人生徒を適切に受け入れるとともに、入学後も学校生活を支障なく送ることができるよう支援



主な取組

▶在京外国人生徒対象枠の適切な設定

- ・中学校における日本語指導が必要な在京外国人生徒数の推移や、居住する地域のバランス、**在京外国人対象枠**の設置校における入学者選抜状況等を踏まえ、**設置校の新設及び募集人員の拡大**を実施

▶日本語指導が必要な受検者に対する措置の充実

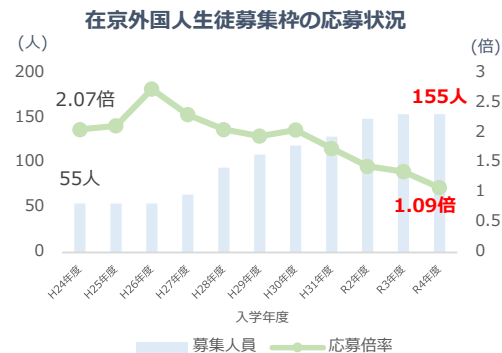
- ・ルビ振り措置に加え、辞書の持込みの許可及び辞書持込みに伴う検査時間を各教科10分延長(H28年度入学者選抜～)
- ・ルビ振り措置の対象を、国籍を問わず入国後の在日期间が入学日現在6年以内の者で、日本語指導が必要な生徒に拡大(H31年度入学者選抜～)

▶在京外国人生徒等に対する日本語習得に向けた支援の充実

- ・日本語指導が必要な生徒のうち、特別な指導（学校内における教科の取り出し指導や学校外における日本語指導等）を受けていない生徒を対象に、**外部人材を活用した授業の補助を中心とする指導を年間にわたって実施**(H27年度～)

実績・成果

▶在京外国人生徒の就学機会を確保



- ・募集校、募集人数拡大により応募倍率の緩和を実現

▶日本語習得支援の実施状況

【別表のとおり】

課題・検討事項等

- ・在京外国人生徒対象枠設置校に対する受入れ後の支援
- ・日本語指導が必要な生徒の増加に伴う対応

▶入学者選抜時の措置拡大の効果

- ・「辞書の持込み」及び「辞書の持込みに伴う時間延長」は措置を希望する外国籍の生徒に効果があったか

	そう思う・どちらかと言えばそう思う
都立高校長	75.0%
中学校長	98.0%

- ・「ルビ振り」措置の対象拡大は、生徒の進路実現を図るうえで効果があったか

	そう思う・どちらかと言えばそう思う
都立高校長	90.5%
中学校長	98.2%

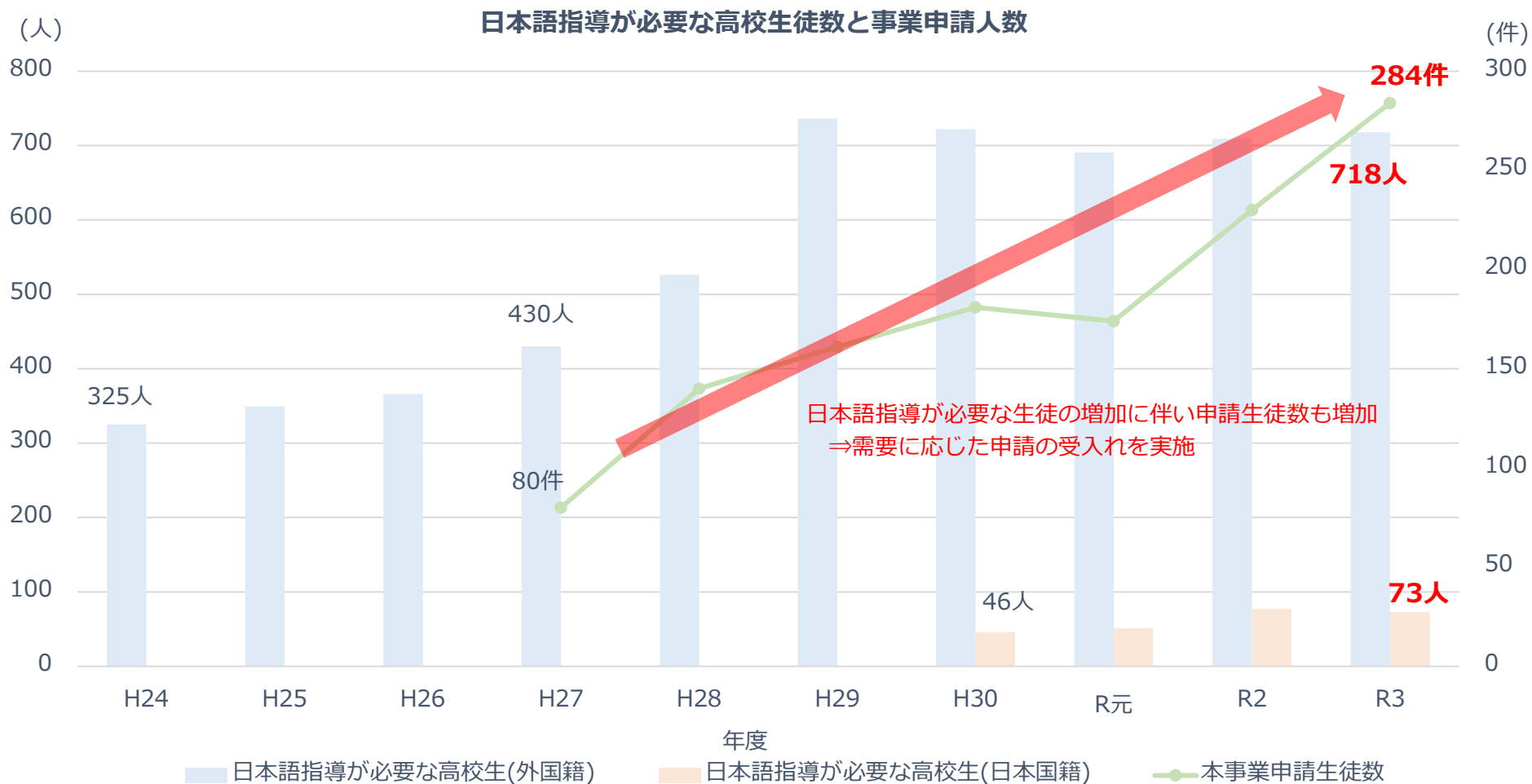
令和4年3月学校長に対してアンケートを実施

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(3) 日本語指導が必要な生徒に対する支援の充実

【別表】 日本語習得支援の実施状況

日本語指導が必要な生徒のうち、特別な指導（学校内における教科の取り出し指導や学校外における日本語指導等）を受けていない生徒を対象に、外部人材を活用した授業の補助を中心とする指導を年間にわたって実施（H27年度～）



※ 日本語指導が必要な高校生(日本国籍)数は平成30年度から調査を開始

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(4) 島しょの高校の改善・充実

概要 島しょの高校における生徒同士の切磋琢磨の機会を創出するとともに、学習活動の機会を充実

項目 **【H24～】一次計画** **【H28～】新実施計画** **【H31～】新実施計画（第二次）**

・ 島外生徒受入体制整備

・ 島外生徒の受入れ促進
・ ICT環境の更なる活用による教育活動の充実

主な取組

▶ 島外生徒の受入れ促進

- ・ 神津島村教育委員会と連携し、神津高校での島外生徒受入事業を開始(H28年度～)
- ・ 八丈町教育委員会と連携し、八丈高校での島外受入事業を開始(H30年度～)
- ・ 神津島村において、島外生徒受入用の村営学生寮(しらすな寮)が完成(H30年度)、女子寮部分を増築(H31年度)

▶ ICT環境の更なる活用による教育活動の充実

- ・ 島しょ高校ICT活用モデル事業として、島しょ高校全校にWEB会議システム専用端末を設置(H31年度)
- ・ 島しょ高校ICT活用モデル実施期間と位置づけ、新島高校、神津高校、八丈高校を島しょICT活用モデル校として指定(R2年度～R4年度)
- ・ モデル校においてWEB会議システム専用端末の活用及び一人1台タブレット端末を配布し、使用状況及び使用上の課題について調査を実施中

実績・成果

▶ 島外生徒受入事業による生徒の活性化



「Marine Day」の様子
地元インストラクターの指導によるシュノーケリングとビーチクリーンを実施（神津高校）

【留学生徒の声】

- ・ 「歴史と文化が一つになって地域を作っている」という八丈高校での学習から**日本史をもっと勉強したいと思ひ、大学で日本史を専攻した**（八丈高校）
- ・ 「島に来てからは、学級委員をやり、**授業での発言回数も増えて、すごく積極的になった**と感じている」（神津高校）
etc.

▶ ICT環境の活用による学習機会の拡大

【WEB会議システム専用端末の活用事例】

- ・ コロナ禍による休校中においても、定期的なホームルームをオンラインで実施するなど、**生徒の学習環境を他校に先駆けて確保**
- ・ 令和2年度は**1校当たり平均で年間80時間活用1ヵ月で30時間以上活用した事例もあり**
etc.

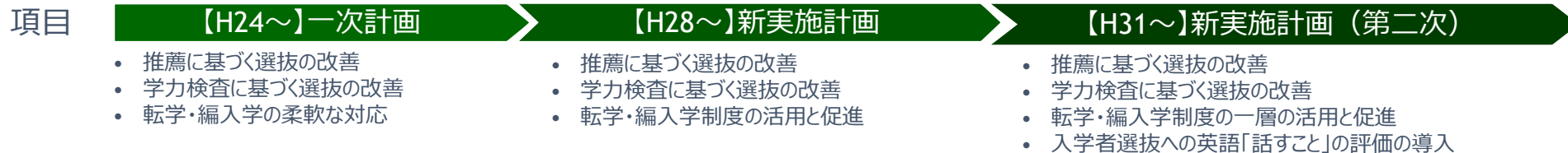
課題・検討事項等

- ・ 継続実施のための地元理解と受入れ先の開拓・規模の拡大等の検討
- ・ モデル事業の結果を踏まえ、島しょの高校全体でのデジタルの更なる活用の検討

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(5) 社会の変化に応じた入学者選抜の改善

概要 目的に沿った入学者選抜の実施状況を検証するとともに、入学後の進路変更希望に応えられるよう制度を改善



主な取組

▶ 推薦に基づく選抜の改善

- 選抜方法の変更(H25年度入学者選抜)

総合成績に占める調査書点の割合の上限を50%に設定
 小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査の中からい
 ずれか1つ以上を実施(推薦に基づく選抜を実施する全校)
 集団討論を原則実施(推薦に基づく選抜を実施する全校)
 対象人員枠の上限を設定

▶ 学力に基づく選抜の改善

- 選抜制度の**共通化・簡素化**を図った変更(H28年度入学者選抜)

検査を原則5教科で実施(全日制課程)
 調査書点の計算の簡素化(全課程共通)
 学力検査得点と調査書点の比率の共通化
 特別選考の廃止

▶ 転学・編入学制度の一層の活用と促進

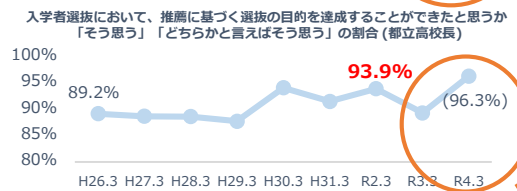
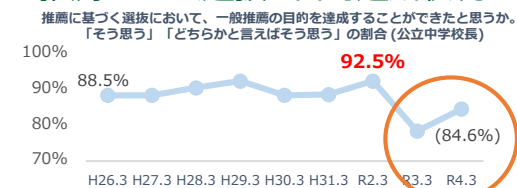
- 「都立高等学校補欠募集の実施に関するガイドライン」策定(H28年度)
- 名称を「補欠募集」から「**転学・編入学募集**」に変更(H30年度)

▶ 入学者選抜における中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) の結果活用

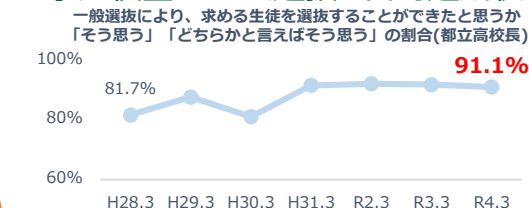
- プレテストの実施(R元年度～)

実績・成果

▶ 推薦に基づく選抜の目的達成状況



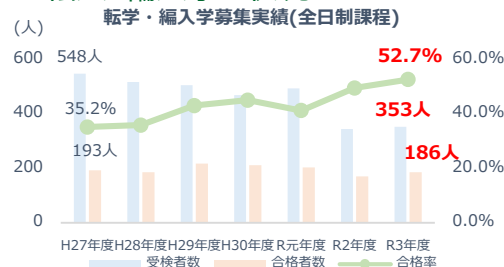
▶ 学力検査に基づく選抜の目的達成状況



【学力に基づく選抜の制度改善による中学校長の声】

- 調査点の算出も簡単になり、**生徒や保護者にとって分かりやすくなった**
- 学力検査の得点と調査書点の比率が明確になり、**生徒や保護者にとってわかりやすくなった** etc.

▶ 転入・編入学の状況



※ 令和3年度及び4年度入学者選抜では新型コロナウイルス感染症対策のため集団討論を実施していないことから、R3.3及びR4.3は参考値

・「**転学・編入学募集**」における合格率が向上
 ⇒**生徒が進路変更希望を実現**

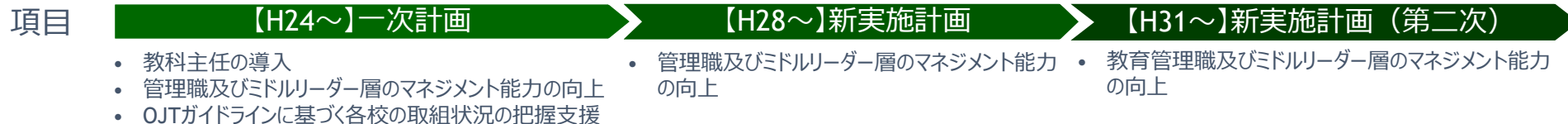
課題・検討事項等

- 出願におけるインターネットの活用
- 高校における指導へのESAT-Jの結果の活用

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(6) 学校経営能力の向上

概要 経営体制を一層強化するとともに、教育管理職及びミドルリーダー層のマネジメント能力の向上を促進し、組織的な学校経営を実現



主な取組

▶教科主任の導入(H25年度～)

- 教科主任及び教科会を置き、校務分掌だけでなく教科においても組織的な指導体制を導入
- 主幹教諭又は主任教諭の中で、相応の指導力と職務経験を有したものを、教科主任として活用

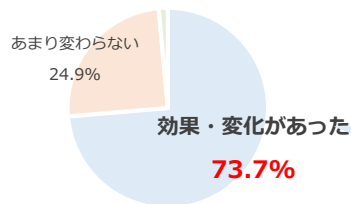
▶教育管理職及びミドルリーダー層のマネジメント能力の向上

- 「学校リーダー育成プログラム」を実施(H26年度～)
学校経営支援センター、人事部、教職員研修センターが協働
- 「学校マネジメント講座」(学校経営支援センター)
- 「学校リーダー育成特別講座」(人事部)
- 「教育管理職候補者B養成講座」(教職員研修センター)
- 「校長・副校長及び教員としての資質の向上のに関する指針」を策定(H29年度)

実績・成果

▶教科主任の導入による組織的な学校経営の促進

教科主任・教科会が制度化されたことにより、教科の運営等に効果・変化があったが



【変化があった具体例】

- 教科運営について透明性が高まった
 - 指示系統が明確になり、教科への指導もやりやすくなった
 - 教科の指導目標の徹底、進度調整の徹底が図られた
 - 若手育成が意識的になされるようになった
 - 課題の把握と情報共有が容易になった
 - 教科毎の指導力を見直す機会となった
- etc.

H25年度実施「教科主任・教科会導入状況調査」

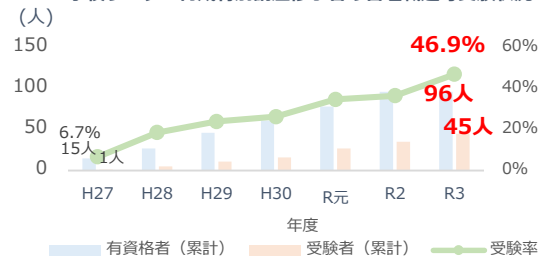
▶教育管理職及びミドルリーダー層のマネジメント能力の向上

学校リーダー育成特別講座参加人数(高等学校教員)



※令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止

学校リーダー育成特別講座修了者の管理職選考受験状況



課題・検討事項等

- 受講者が主体的に取り組み、学んだことを深く理解し活用できる研修内容の検討

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(7) 教員の指導力向上に向けた取組の推進

概要 教員が自ら成長しようとする意欲を引出し都立高校全体の指導力を高めるとともに、公募制人事により異動の活性化を促し教員としての視野の幅を広げ、その能力を伸長

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none">専門性の高い教員の指導力を活用する仕組みの導入教員の更なる指導力向上のための支援策の拡充異校種間人事交流の促進社会人経験者の採用選考の改善公募制人事異動の拡充	<ul style="list-style-type: none">指導教諭の効果的な任用と活用公募制人事の改善	<ul style="list-style-type: none">指導教諭の活用公募制人事の推進

主な取組

▶指導教諭の活用

- 指導教諭の職を設置(H25年度～)
- 模範授業や研究協議会を実施し、自らの指導技術を各校へ普及
- 模範授業等への参加について校種制限を撤廃(H30年度～)

▶公募制人事異動の実施

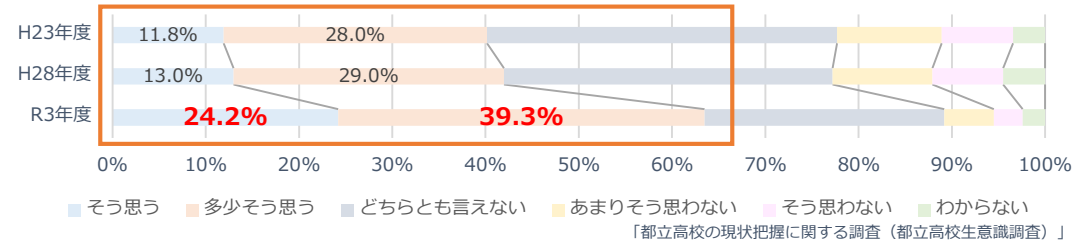
- 東京都教育委員会公募の実施
- 学校公募（主幹・主任教諭公募含む）の実施
- 再任用教員公募の実施(R2年度～)

▶異校種間期限付異動の実施

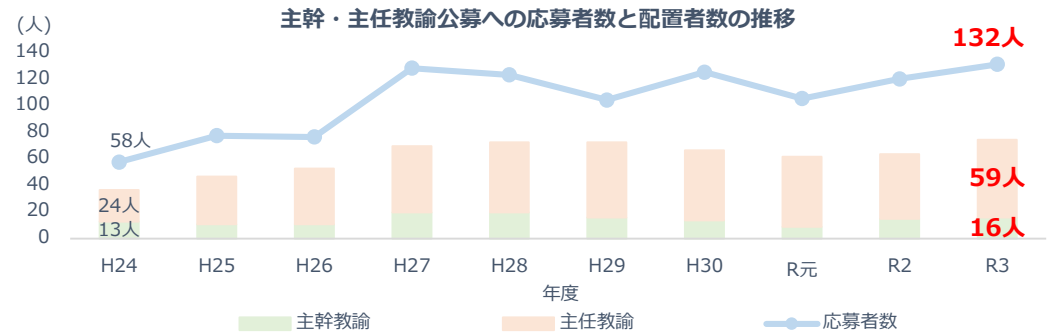
- 都立高校等の教員と都立特別支援学校の教員間(H24年度～) 公募により原則1年又は3年を期限として人事異動を実施 令和3年度までに特別支援学校から都立高校等へ52名、都立高校等から特別支援学校へ23名の教員の異動が実現
- 都立高校等の教員と公立中学校の教員間(H24年度～) 地域連携型人事異動を希望する学校間で、1年を期限として人事異動を実施 令和3年度までに2名の地域連携型人事異動を実現

実績・成果

▶現在通っている高校の先生の授業が上手だと思うか



▶主幹・主任教諭公募への応募者数の増加



課題・検討事項等

- 専門性の高い教員の確保各のための各種公募の積極的活用
- 異校種間期限付異動経験者の積極的な活用による特別支援教育の推進

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(8) 研修の充実と強化

概要 グローバル化等社会の変化に対応できるよう専門性の高い教員を育成するとともに、体罰根絶に向けた取組を実施

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none">東京都教職員研修センターにおける教員の研修内容の充実情報セキュリティ研修の充実	<ul style="list-style-type: none">都教職員研修センターにおける教員の研修内容の充実進学指導研修の実施英語科教員の海外派遣研修の実施英語科教員の指導力・英語力向上のための研修の実施体罰根絶に向けた総合的な対策	<ul style="list-style-type: none">英語科教員等の海外派遣研修の実施英語科教員の指導力・英語力向上のための研修の実施研修動画の作成・配信体罰根絶に向けた総合的な対策

主な取組

▶年次研修等の計画的な実施

- 若手教員育成研修を1年次、2年次、3年次に実施
- 中堅教諭等資質向上研修Ⅰ・Ⅱを実施
- 東京教師道場を主に4年目から10年目の教員に向けて実施

▶英語科教員の指導力・英語力向上のための研修の実施

- グローバル人材育成のための指導力向上研修を実施
- ネイティブ・スピーカーとの英会話を取り入れた研修を実施
- 英語検定、TOEIC対策講座を実施

▶英語科教員等の海外派遣研修の実施

- 英語教授方法を学ぶ**海外派遣研修**を実施(H26年度～)
※ R3年度はオンライン代替研修
- 令和3年度までに延べ818人(小・中・高合計)の教員を派遣

▶情報セキュリティ研修の実施

- 全教職員を対象とした「東京都のサイバーセキュリティ研修」や「東京都の個人情報保護研修」をリーディング(e-ラーニング)型研修にて毎年実施

▶体罰根絶に向けた総合的な対策

- 「**体罰防止月間**」における**悉皆研修**の実施
- 「**Good Coach賞**」の顕彰実施(H27年度～)

実績・成果

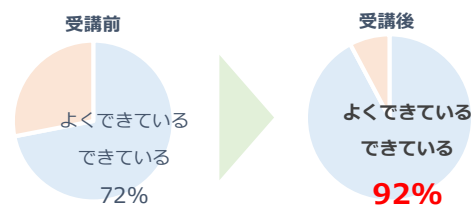
▶英語科教員の英語力の向上

- R2年度 資格取得支援講座受講者の合格率等

	1級	準1級	2級	準2級	TOEIC平均スコア
受講者	17%	54%	83%	100%	768.0
国内全体	12.0%	16.1%	26.4%	36.7%	604.7

▶海外派遣研修の効果

英語によるやり取りを豊かにするための工夫のある指導を行っている(所属校管理職の評価)



「令和3年度外国語(英語科)教員等の海外派遣研修(代替研修)に係るアンケート」

課題・検討事項等

- オンラインを利用した研修など社会状況や受講者の利便性に、ニーズに応じた研修方法の検討
- 授業での一人1台端末の活用等、教育の情報化に関する研修の充実
- 海外派遣研修における応募者数の逡減

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(9) 学校における働き方改革の推進

概要 教員一人一人の心身の健康保持を実現するとともに、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境の整備

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none">多様な外部人材の活用教員のメンタルヘルス対策の充実	<ul style="list-style-type: none">教員のメンタルヘルス対策の充実	<ul style="list-style-type: none">副校長の業務負担の軽減教員OB等の活用促進ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取組教員の柔軟かつ多様な働き方の実現TEPROの設立による学校への多角的な支援教員のメンタルヘルス対策の充実

主な取組

▶ 学校経営計画への明記

- 各校の働き方改革の取組を学校経営計画に明記

▶ 副校長支援員の配置(R元年度～)

- 令和元年度 14校、令和2年度 46校、令和3年度 46校に配置

▶ 学校閉庁日の設定

- 原則5日以上を学校閉庁日として設定

▶ 教員の業務量の適切な管理等に関する規定等の整備

- 都立学校教育職員の時間外在校等時間の上限を45時間/月、360時間/年に設定（R2年4月）

▶ TEPROの設立による学校への多角的な支援

- 一般財団法人東京学校支援機構を設立(R元年7月)
- 「多様な外部人材を安定的に確保する機能」「教員サポート機能」「学校の事務集約機能」の三つの機能を柱として、きめ細かい継続的な支援を実施

▶ 教員のメンタルヘルス対策の充実

- 全教職員を対象に毎年ストレスチェックを実施
- 臨床心理士等による相談窓口の設置や職場復帰訓練等の復職支援を実施
- 新任副校長を対象に、「副校長ベーシックプログラム」を実施

実績・成果

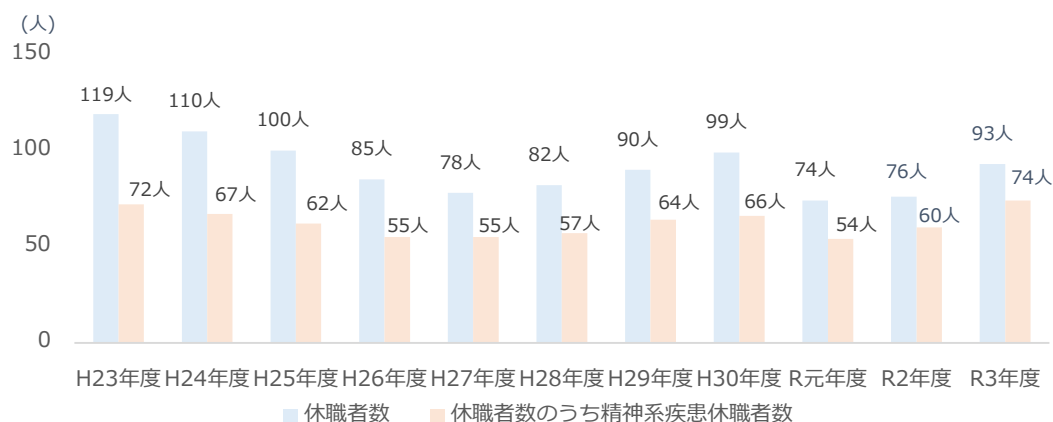
▶ 教員の1ヵ月あたりの時間外労働の状況

【別表のとおり】

▶ 副校長支援員の配置による勤務時間の変化

【別表のとおり】

▶ 都立高校における精神疾患による休職者（教員）の状況



課題・検討事項等

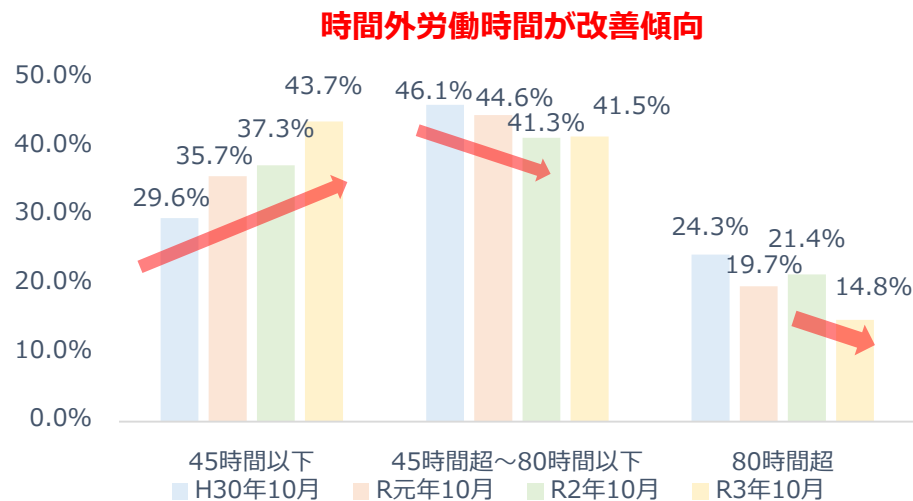
- 教員の負担軽減に向けた一層の支援
- 職場復帰支援事業の利用促進

II 質の高い教育を支えるための環境整備

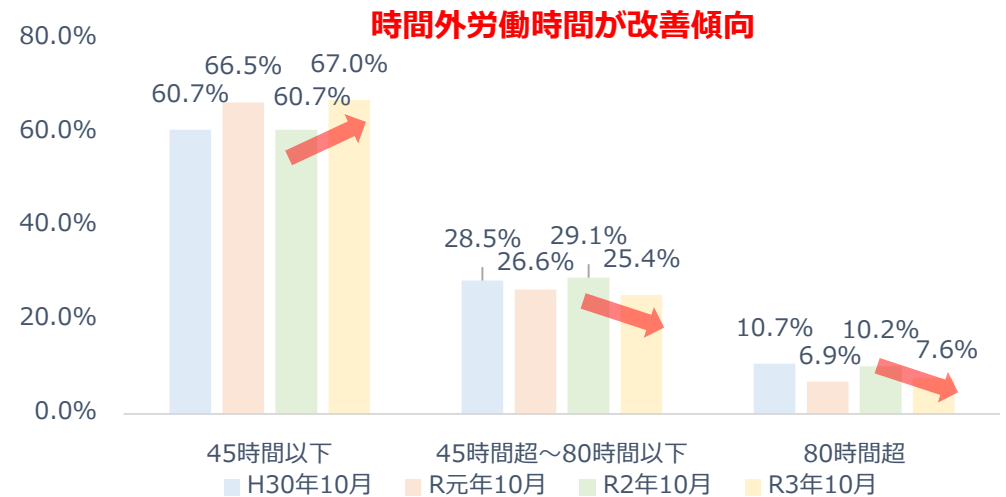
(9) 学校における働き方改革の推進

【別表】 教員の1カ月当たりの時間外労働状況

● 副校長



● 教諭(主幹教諭・指導教諭・主任教諭含む)



※ 都立学校の教育職員の勤務時間の上限に関する方針(令和2年4月改正)
都立学校教育職員の時間外在校時間の上限 45時間/月・360時間/年

【別表】 副校長支援員の配置による勤務時間の変化(1週間当たり)

● 支援員を配置した学校における副校長の勤務時間縮減(事業開始前後の比較) ※ 都立高校に設置しているタイムカード打刻時間による比較

		勤務時間	縮減割合
支援員配置前 (支援配置校の事業開始前年の4月データ)	平日	60時間20分	-
	土・日	5時間45分	-
	週合計	66時間5分	-
支援員配置前 (支援配置校の事業開始前年の5月データ)	平日	57時間45分	-
	土・日	4時間50分	-
	週合計	62時間35分	-

		勤務時間	縮減割合
支援員配置後 (令和3年4月データ)	平日	55時間15分	-8.4%
	土・日	1時間20分	-76.8%
	週合計	56時間35分	-14.4%
支援員配置後 (令和3年5月データ)	平日	53時間10分	-7.9%
	土・日	1時間5分	-77.6%
	週合計	54時間15分	-13.3%

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(10) 学校の魅力向上と効果的な発信

概要 全ての都立高校でカリキュラム・マネジメントを確立するとともに、各校の特色を戦略的に広報し効果的に魅力を発信



主な取組

▶カリキュラム・マネジメントの実施

- カリキュラム・マネジメント推進校を7校指定(H29年度～)
〔教育課程の見直し、教科主任会の活性化、教科会の活性化〕
〔校内研修の充実、実践報告会での発表等の取組を実施〕
- 実践報告会においてカリキュラム・マネジメント推進校の取組を全都立高校で共有
- グランドデザインを作成(H29年度～)

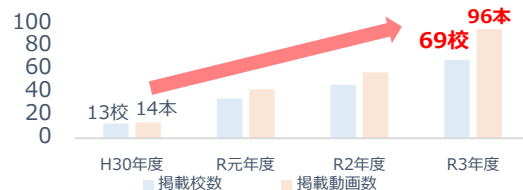
▶都立高校の魅力発掘・発信

- 都立高校等検索サイトに各校の特色や魅力を一言で発信するキャッチフレーズを掲載(H30年度～)
- 外部専門機関からのアドバイスを受け、学校案内パンフレットの改善点のポイントや好事例を全都立高校に共有
- 都立学校魅力PR動画「まなびゆ～」の配信(H30年度～)
生徒視点での学校の魅力を動画配信
- 特色や魅力が伝わる訴求力の高い4つのデザインフォーマットにより、都立高校ホームページのリニューアルを実施

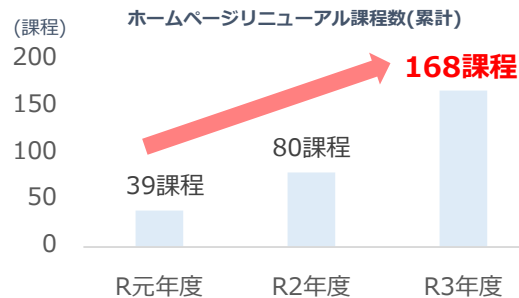
実績・成果

▶魅力PR動画「まなびゆ～」の活用

「まなびゆ～」掲載校数と動画数(都立高校・中等教育学校累計)

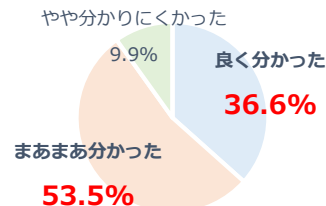


▶都立高校ホームページのリニューアル



【「まなびゆ～」に掲載されている動画例】

Q リニューアル後のホームページを見て、各校の特色を理解することはできたか



R元年度 都政教育モニターアンケート「都立学校を紹介するデジタルコンテンツ（HP及び「まなびゆ～」）について」

課題・検討事項等

- 低倍率校における魅力発信の働きかけ
- ホームページの役割の重要化に伴う機能拡張

II 質の高い教育を支えるための環境整備

(11) 安全で環境に優しい施設整備

概要 生徒の安全・安心を確保するとともに、地域の災害拠点としての役割や環境負荷低減を実現した良好な学習環境を整備

項目	【H24～】一次計画	【H28～】新実施計画	【H31～】新実施計画（第二次）
	<ul style="list-style-type: none"> 非構造部材の耐震化 老朽校舎の改築・大規模改修 太陽光発電設備の設置 校舎屋上・壁面の緑化 校庭等の芝生化 	<ul style="list-style-type: none"> 非構造部材の耐震化 特別教室の冷房化 老朽校舎の改築・大規模改修 太陽光発電設備の設置 校舎屋上・壁面の緑化 	<ul style="list-style-type: none"> 非構造部材の耐震化 ブロック塀等の安全対策の推進 体育館等の空調設置 老朽校舎の改築・大規模改修 都立高校の予防保全的な改修
			<ul style="list-style-type: none"> トイレの洋式化の推進 国産木材什器の整備促進 太陽光発電設備の整備 照明のLED化の推進

主な取組

▶災害時における安全対策

- ・体育館の非構造部材の耐震化(H28年度までに全校対策済み)
- ・体育館以外の非構造部材の耐震化(R3年度末時点で183校対策済み)
- ・ブロック塀等の耐震化工事(R3年度末時点で33校対策済み)

▶空調設備の充実

- ・特別教室の冷房設置(R3年度末時点で190校中132校整備済み)
- ・体育館の空調設置(R3年度末時点で190校中189校整備済み)

▶老朽校舎の改築・大規模改修

- ・老朽化した校舎の改築・大規模改修等を着実に実施
(H24～R3年度で15校改築、15校大規模改修、3校増改修等) ※竣工数

▶トイレの洋式化の推進

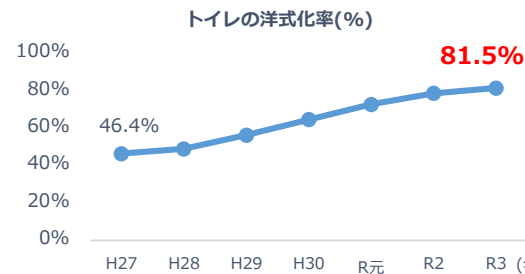
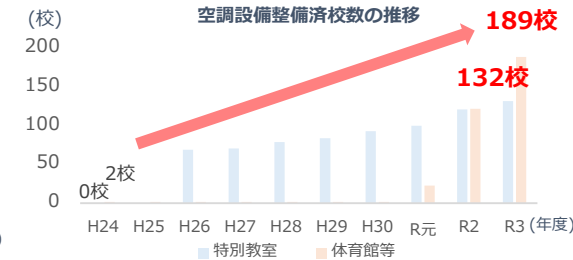
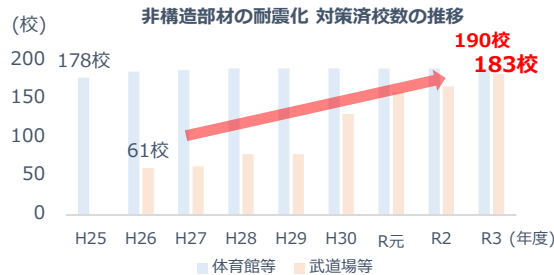
- ・トイレの洋式化率 81.5%(R3年度末時点) ※目標数値は80%

▶環境負荷低減を実現するための施設整備

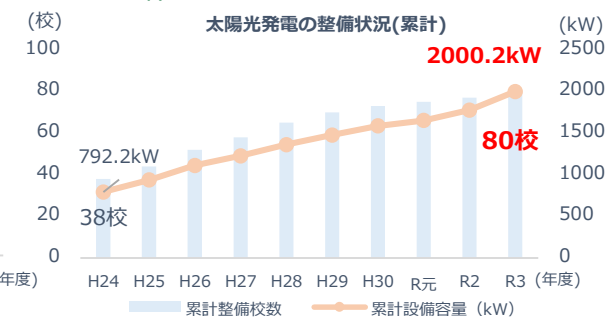
- ・太陽光発電設備の整備(R3年度末時点で80校整備済み)
- ・校舎屋上、壁面の緑化(R3年度末時点で屋上110校、壁面13校導入)
- ・校庭の芝生化(R3年度末時点で90校導入)
- ・照明のLED化(H31～R3年度の改築・大規模改修で9校導入)

実績・成果

▶生徒の安心・安全を確保する施設整備の充実



▶環境に配慮した施設整備の実施



課題・検討事項等

- ・特別教室や武道場等の計画的な空調設置
- ・2030年カーボンハーフに向けた太陽光発電設備やLED照明の更なる導入

目次

Contents

1

都立高校改革推進計画の概要

2

都立高校改革推進計画における
主な取組の実績・現状

3

都立高校改革推進計画の取組

I 教育内容

次代を担う社会的に自立した人間の育成

4

都立高校改革推進計画の取組

II 教育諸条件

質の高い教育を支えるための環境整備

5

都立高校の主な学科・課程等の現状

III 学科・課程の改善・充実等

生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす
学校づくりの推進

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進 都立高校が設置している課程・学科

(令和4年4月1日時点)

全
日
制
課
程

普通科 124校

進学指導重点校 7校

難関国立大学や国公立大学医学部医学科への進学を目指す学校

進学指導特別推進校 6校

国公立大学や難関私立大学等への進学を目指す学校

進学指導推進校 12校

優れた教育活動を実践するとともに、生徒の着実な学力の伸長を図り進学実績の向上を目指す学校

エンカレッジスクール 4校

小・中学校で十分に能力を発揮できなかった生徒のやる気を育てる学校

専門学科

農業科 8校

農業分野のスペシャリストを育成

工業科 16校

工業各分野で活躍できる技術者を育成 (※エンカレッジスクール2校含む)

ビジネス科 7校

「ビジネスを考え、動かし、変えていく」人材を育成

産業科 2校

広い視野を持った起業家や自営業の後継者を育成

海洋国際科(水産科) 1校

海洋課題に対応できる人材を育成

家庭科 7校

調理、保育、服飾など生活産業のスペシャリストを育成

福祉科 2校

社会の援助者として行動できる人材を育成

科学技術科 2校

実験や研究を通じて科学技術を学び、理系大学などへの進学を目指す

ビジネスコミュニケーション科 2校

英語とビジネスの学習を重視し、文系大学などへの進学を目指す

創造理数科 1校

理数系分野の素養育成に重点を置きながら、新しい価値を生み出すことのできる人材を育成

国際科 1校

国際社会で活躍できる人材を育成

体育科 2校

スポーツ・保健体育に関する実践者・指導者として活躍する人材を育成

芸術科 1校

芸術の発展に寄与する人材を育成

総合学科(10校)

自らの将来の進路について深く考え、多様な選択科目の中から進路希望に応じた科目を履修し、職業決定に必要な能力や態度を育成

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進 都立高校が設置している課程・学科

(令和4年4月1日時点)

夜間定時制高校 41校(全日制併置校含む)

- ▶ 昭和50年代中頃まで、勤労青少年など昼間に通うことができない生徒の学習機会を確保する役割を担う
- ▶ 現在では、不登校経験がある生徒や全日制高校を中途退学した生徒、外国人生徒、特別な支援を要する生徒など、在籍している生徒が多様化

普通科 23校

農業科 5校

工業科 10校

商業科 4校

産業科 1校

総合学科 2校

昼夜間定時制高校 6校

- ▶ I部(午前部)、II部(午後部)、III部(夜間部)から、自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて通学可能な定時制高校
- ▶ 1学級30人規模であり、基礎・基本を重視した授業を実施
- ▶ 習熟度別授業や少人数授業など、きめ細やかな授業も実施
- ▶ 職業に関する専門科目や、デザイン・ビジネス・ファッション等特色ある科目も選択可能

部	I部				II部				III部			
時限	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
時間帯	8:50~12:25				13:10~16:45				17:20~21:10			

普通科 6校

情報科 1校

情報分野のスペシャリストを育成

チャレンジスクール 6校

- ▶ 小・中学校での不登校経験や、高校での中途退学経験のある生徒が、自分の目標を見つけ、チャレンジする高校
- ▶ 基礎・基本重視の学習、心のケアに配慮したきめ細かな指導・豊かな人間性を育成
- ▶ 学力検査ではなく、生徒の学習や学校生活への意欲を重視した入学選抜を実施
- ▶ 他部履修により3年間での卒業も可能

通信制課程(3校)

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(1) 普通科

特徴

▶ 幅広い進路希望に対応

- ・難関大学進学から学び直しまで、幅広い生徒ニーズに対応
- ・都内全域に多数設置

▶ 一部の普通科高校では、興味・関心に応じられるようコースを設置

- ・深川高校(外国語コース)、片倉高校(造形美術コース)、松が谷高校(外国語コース)、小平高校(外国語コース)においてコース制を実施
- ・実施各校では様々な選択科目を設け、1年次から語学系・美術系のコースに分かれて学習

設置校

区部 ※ 単位制高校			
日比谷高校	駒場高校	豊多摩高校	青井高校
三田高校	目黒高校	西高校	足立高校
新宿高校※	大森高校	豊島高校	足立新田高校
戸山高校	蒲田高校	文京高校	足立西高校
竹早高校	田園調布高校	飛鳥高校※	足立東高校
向丘高校	美原高校※	竹台高校	江北高校
上野高校	雪谷高校	板橋高校	淵江高校
忍岡高校※	桜町高校	板橋有徳高校※	葛飾野高校
墨田川高校※	千歳丘高校	大山高校	南葛飾高校
日本橋高校	深沢高校	北園高校	江戸川高校
本所高校	松原高校	高島高校	葛西南高校
城東高校	芦花高校※	井草高校	小岩高校
東高校	青山高校	大泉桜高校※	小松川高校
深川高校	広尾高校	石神井高校	篠崎高校
大崎高校	鷺宮高校	田柄高校	紅葉川高校
小山台高校	武蔵丘高校	練馬高校	
八潮高校	杉並高校	光丘高校	

※ 中高一貫教育校、中等教育学校は除く

市町村部 ※ 単位制高校		
片倉高校	小川高校	狛江高校
翔陽高校※	成瀬高校	東大和高校
八王子北高校	野津田高校	東大和南高校
八王子東高校	町田高校	清瀬高校
富士森高校	山崎高校	久留米西高校
松が谷高校	小金井北高校	上水高校※
立川高校	小平高校	武蔵村山高校
武蔵野北高校	小平西高校	永山高校
多摩高校	小平南高校	羽村高校
府中高校	日野高校	秋留台高校
府中西高校	日野台高校	五日市高校
府中東高校	南平高校	田無高校
昭和高校	東村山高校	保谷高校
拝島高校	東村山西高校	
神代高校	国分寺高校※	
調布北高校	国立高校	
調布南高校	福生高校	

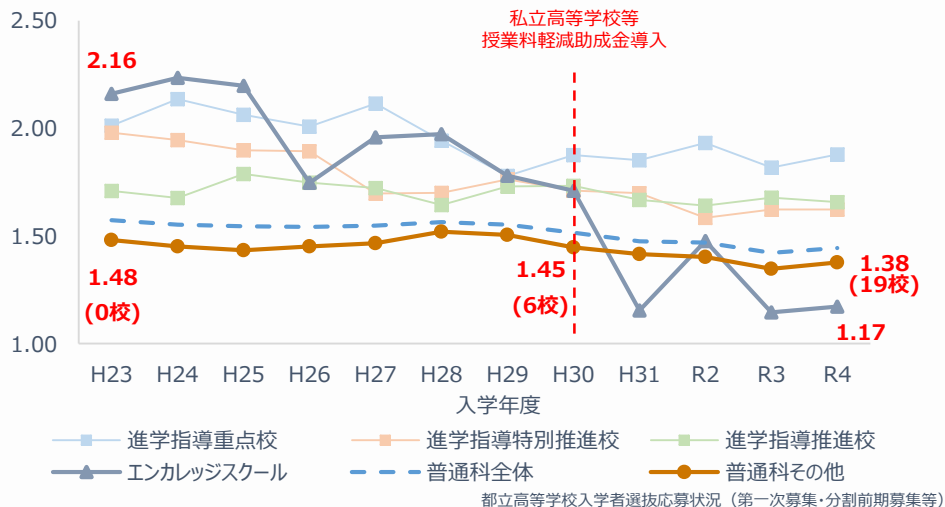
※ 中高一貫教育校、中等教育学校は除く

島しょ部
大島高校
新島高校
神津高校
三宅高校
八丈高校
小笠原高校

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(1) 普通科

▶ 入学者選抜状況(カッコ内は1倍を下回る学校数)



▶ 都立高校在校生の志望理由(普通科)

- ◆ 指定校等においては設置目的に沿った志望理由で入学
- ◆ 多くの全日制普通科高校では、「学力」や「自宅からの近さ」が主な志望理由

上位3項目			
進学指導重点校	学習指導が充実しているから 57.7%	学校行事なども充実しているから 43.6%	大学等の進学に実績があるから 38.8%
進学指導特別推進校	学習指導が充実しているから 41.3%	学校行事なども充実しているから 39.6%	自分の学力に合っているから 35.9%
進学指導推進校	自分の学力に合っているから 44.0%	学校行事なども充実しているから 32.7%	自宅から近いから 31.5%
その他の普通科	自分の学力に合っているから 48.5%	自宅から近いから 37.7%	学校行事なども充実しているから 17.2%
インカレ進学校(普通科)	自分の学力に合っているから 61.3%	学習指導が充実しているから 32.8%	自宅から近いから 20.3%

令和3年度 都立高校の現状把握に関する調査

▶ 都内公立中学生の都立高校又は私立高校の志望理由

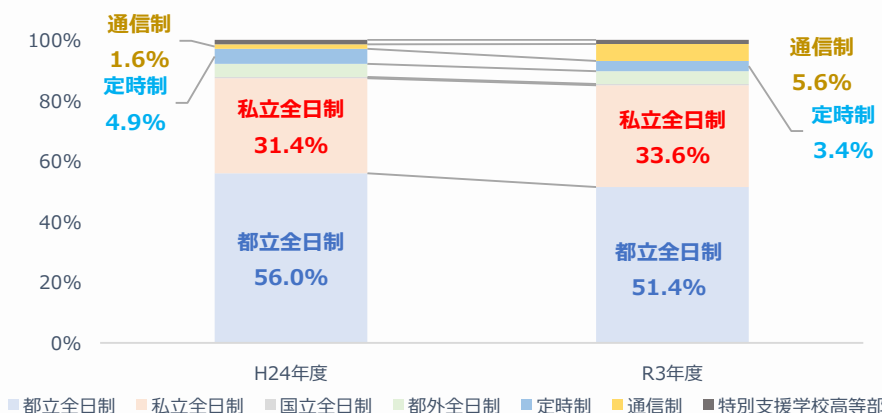
- ◆ 都立高校志望者、私立高校志望者ともに「学習指導が充実していること」を重視
- ◆ 都立高校志望者は「自分の学力」や「自宅に近いこと」も重視
- ◆ 私立高校志望者は「施設・設備面」や「大学の附属高校」であることも重視

都立高校(全日制普通科)	私立高校(全日制普通科)
学習指導が充実しているから 35.6%	施設・設備が充実しているから 36.1%
自分の学力に合っているから 29.9%	大学の附属高校だから 33.5%
学校行事なども充実しているから 28.8%	学習指導が充実しているから 32.3%
自宅から近いから 27.4%	部活動が盛んだから 28.0%
男女共学だから 21.3%	学校行事なども充実しているから 20.1%

令和3年度 都立高校の現状把握に関する調査

▶ 都内公立中学生の進路状況

- ◆ 通信制課程及び私立全日制高校に進学する生徒の割合が増加



令和3年度公立中学校等卒業生(令和4年3月卒業)の進路状況調査の結果(速報値)



- 進学指導重点校等では一定の倍率を維持しており、志望理由も設置目的に沿った生徒が入学
- 都内公立中学生の進路先として、通信制課程や私立全日制高校へ進学する生徒割合が増加

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(1) - 1 進学指導重点校

特徴

▶ 難関国立大学や国公立大学医学部医学科への進学希望を実現

・豊かな人間性・社会性を将来の日本のリーダーとなり得る高い資質をもった生徒に対し、国家や社会に対する責任と使命を自覚させるとともに、思考力、判断力、表現力を鍛え、難関国立大学等への進学希望も実現

・進学指導重点校が満たすべき水準としての選定基準を制定(H22年度)

【基準1】

① センター試験（現役）5教科7科目で受験する者の在籍者に占める割合が、概ね6割以上

② 難関国立大学等（*）に合格可能な得点水準（おおむね8割）以上の者の受験者に占める割合が、概ね1割以上

【基準2】

難関国立大学等現役合格者数 15人

*東京大学、一橋大学、東京工業大学、京都大学、国公立大学医学部医学科

▶ 学力検査問題の自校作成を実施

・知識・理解だけではなく、特に思考力、判断力、応用力、表現力をみることに重点を置いた問題を作成

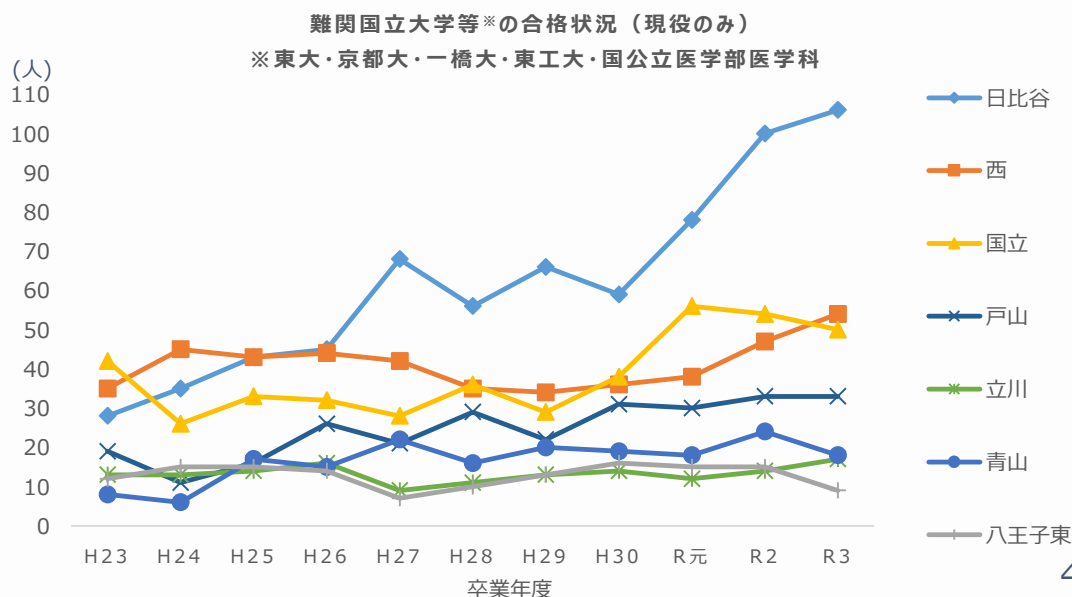
・学力検査問題の作成を通じて、求める生徒の能力・適性を示し、特色ある学校としての校風や伝統を広く都民に周知

設置校

学校名	指定年度
日比谷高校	平成13年度
西高校	平成13年度
戸山高校	平成13年度
八王子東高校	平成13年度
青山高校	平成15年度
立川高校	平成15年度
国立高校	平成15年度

指定期間：平成30年4月～令和5年3月

Topics 難関国立大学等への合格実績において一定の成果



Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(1) - 2 進学指導特別推進校

特徴

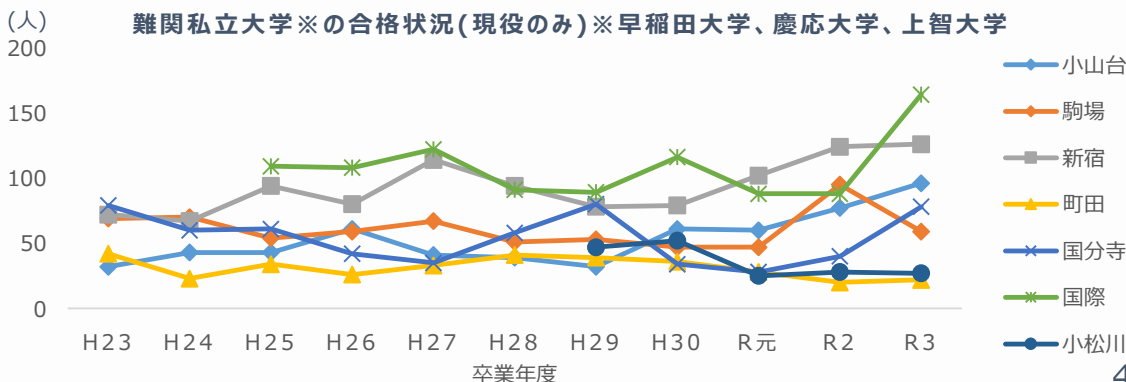
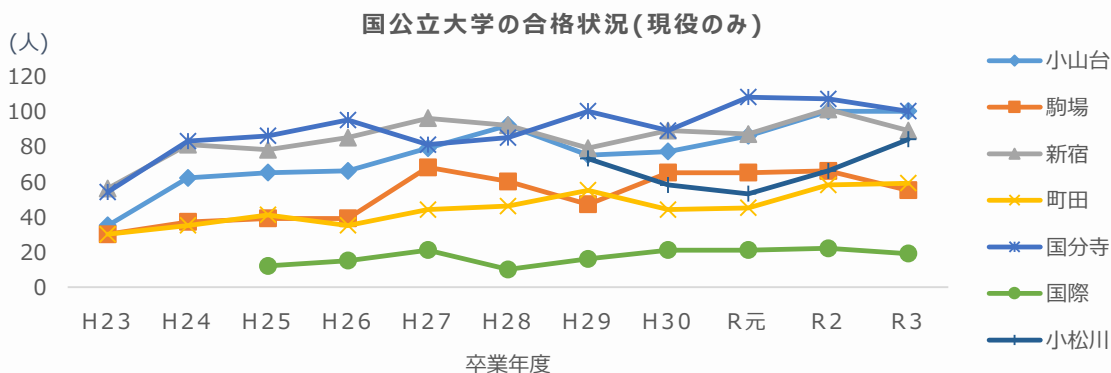
- ▶ 生徒の進学希望に応え、学力向上に向けた進学指導を推進
 - ・将来の日本社会を支える高い資質を持った生徒の能力を一層伸長させ、国公立大学※1や難関私立大学等※2への進学希望を実現
 - ※1 難関国公立大学等を含むすべての国公立大学
 - ※2 早稲田大・慶應義塾大・上智大
 - ・過去の進学実績、進学指導に対する学校の取組状況等を総合的に判断して選定
- ▶ 学力検査問題の自校作成を実施（新宿及び国分寺、国際高校は英語のみ自校作成）
 - ・知識・理解だけではなく、特に思考力、判断力、応用力、表現力をみることに重点を置いた問題を作成
 - ・学力検査問題の作成を通じて、求める生徒の能力・適性を示し、特色ある学校としての校風や伝統を広く都民に周知

設置校

学校名	指定年度
小山台高校	平成19年度
新宿高校	平成19年度
駒場高校	平成19年度
町田高校	平成19年度
国分寺高校	平成19年度
国際高校	平成25年度
小松川高校	平成29年度

指定期間：平成30年4月～令和5年3月

Topics 国公立大学への合格実績において一定の成果



Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(1) - 3 進学指導推進校

特徴

▶ 進学対策を進める都立高校の裾野拡大

- ・高い将来の目標に向かって自ら進路選択ができ、意欲的に勉学に取り組む生徒の進学希望を実現
- ・進学指導特別推進校に次ぐ大学合格実績をあげる学校の中から、地域ニーズ、地域バランス、学校の取組状況等を総合的に勘案し指定

▶ 学力検査問題の自校作成を実施（進学型単位制の墨田川高校のみ）

- ・知識・理解だけではなく、特に思考力、判断力、応用力、表現力をみることに重点を置いた問題を作成
- ・学力検査問題の作成を通じて、求める生徒の能力・適性を示し、特色ある学校としての校風や伝統を広く都民に周知

設置校

学校名	指定年度
三田高校	平成22年度
豊多摩高校	平成22年度
竹早高校	平成22年度
北園高校	平成22年度
墨田川高校	平成22年度
城東高校	平成22年度
武蔵野北高校	平成22年度

学校名	指定年度
小金井北高校	平成22年度
江北高校	平成22年度
江戸川高校	平成22年度
日野台高校	平成22年度
調布北高校	平成22年度
多摩科学技術高校	平成29年度

指定期間：平成30年4月～令和5年3月

※平成25年1月に国際高校が進学指導特別推進校に指定替え

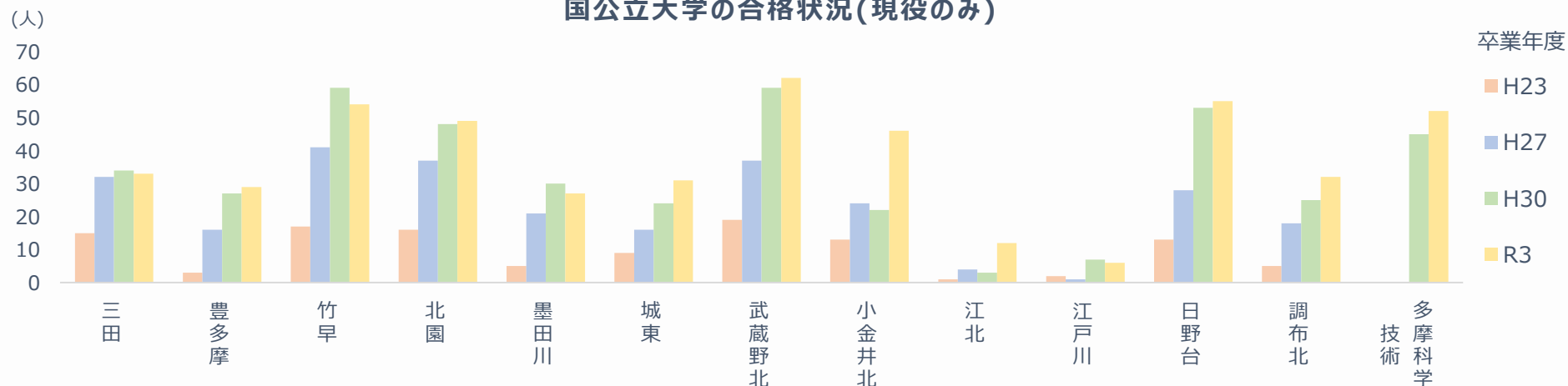
※平成29年8月に小松川高校が進学指導特別推進校に指定替え

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

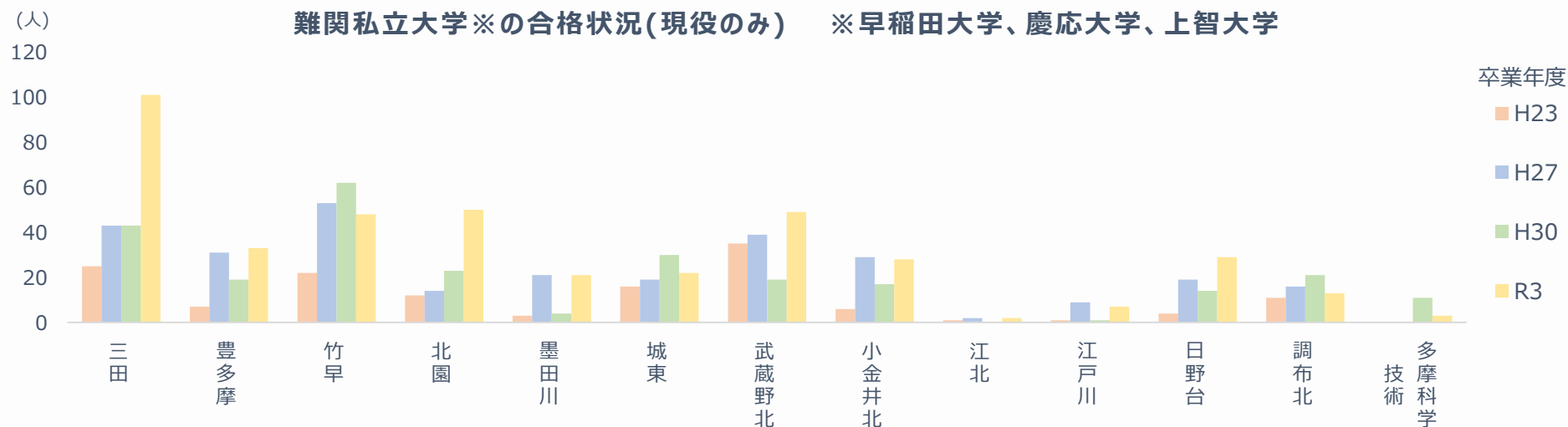
(1) - 3 進学指導推進校

Topics 指定校間の実績差はあるものの、全体としては一定の成果が出ている。

国公立大学の合格状況(現役のみ)



難関私立大学※の合格状況(現役のみ) ※早稲田大学、慶応大学、上智大学



Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(1) - 4 エンカレッジスクール

特徴 ▶小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし応援

- ・1年次には30分授業を導入
- ・2人担任制によるきめ細かいホームルーム指導

▶基礎学力の定着を中心として、体験学習や選択授業を実施

- ・学び直しのための科目の設置や習熟度別学習等を実施
- ・生徒の能力・適正・興味・関心、進路希望に応じ、多彩な体験学習や選択授業を実施

▶学力検査によらない入学者選抜

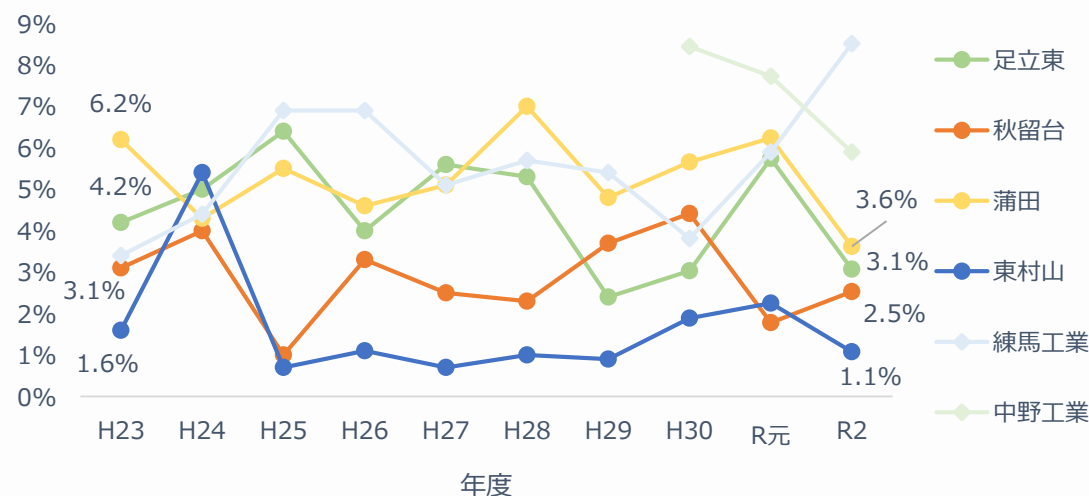
- ・知識よりも学ぶ意欲や熱意を重視する選考
- ・学力検査を実施せず、調査書・面接・小論文又は作文による選考 ※練馬工業・中野工業では、小論文又は作文を実施していない
- ・実技検査 ※秋留台高校は実施していない

設置校

学校名	学科	指定年度
足立東高校	普通科	平成15年度
秋留台高校	普通科	平成15年度
練馬工業高校	工業科	平成18年度
蒲田高校	普通科	平成19年度
東村山高校	普通科	平成22年度
中野工業高校	工業科	平成30年度

Topics 普通科のエンカレッジスクールにおける中途退学率が低下

中途退学率の推移



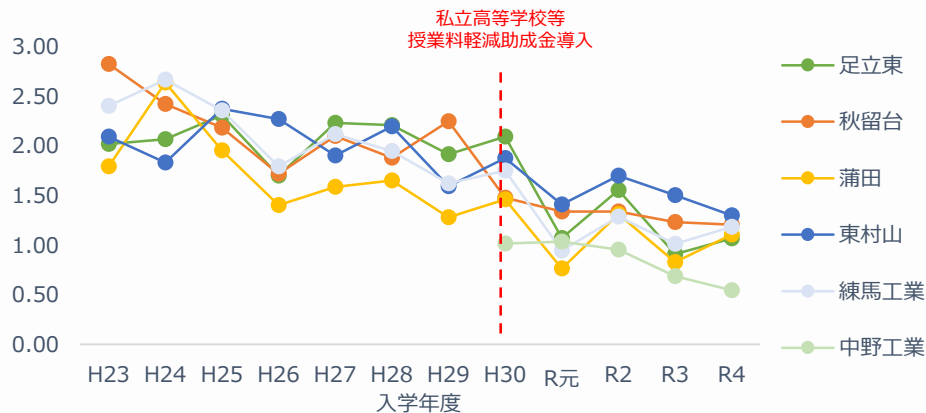
「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に都教委にて独自集計

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(1) - 4 エンカレッジスクール

▶ 入学者選抜状況

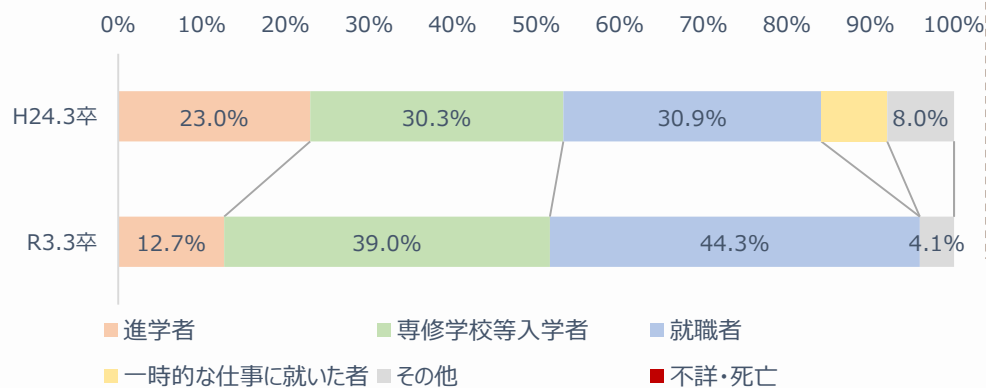
- ◆ 募集人員拡大の影響もあり、倍率は緩和
- ◆ 応募倍率が1倍を下回る学校も存在



都立高等学校入学者選抜応募状況 (第一次募集・分割前期募集等)

▶ 卒業後の進路等

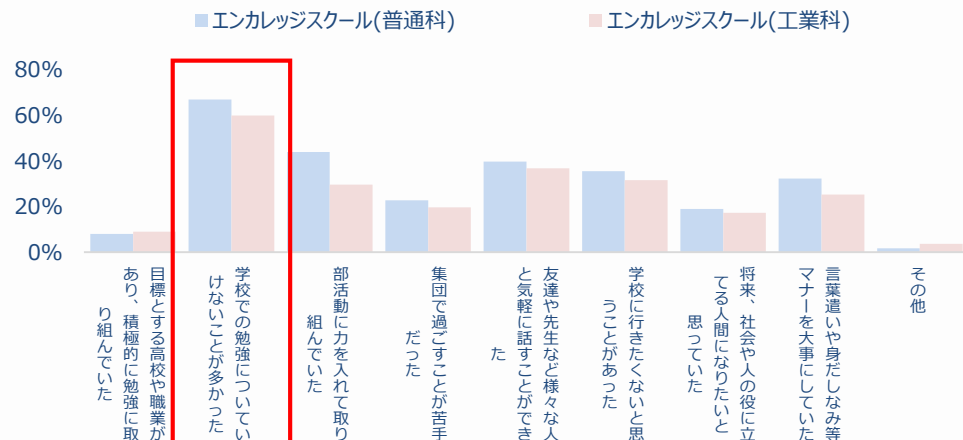
- ◆ 進路を決定して卒業していく生徒の割合が大幅に上昇



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】

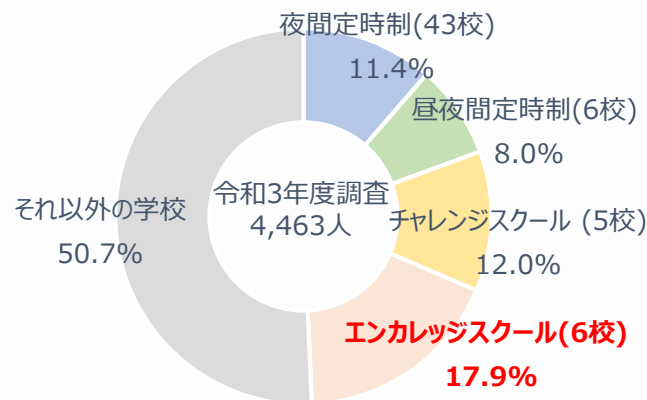
▶ 中学生時代の状況

- ◆ 中学生時代に勉強についていけない生徒が多く在籍



令和3年度 都立高校の現状把握に関する調査

▶ 発達障害及びその可能性のある生徒



東京都教育庁都立学校教育特別支援教育課による調査情報を利用し、独自に集計

- 設置校の増加等により、各校で倍率が緩和
- 発達障害及びその可能性のある生徒の割合が、他のタイプの学校と比較して高く、一層の支援が必要



Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(2) 農業科

特徴

- ▶ 農業分野のスペシャリストを育成
 - ・園芸、畜産、食品などの農業について専門的に学習
 - ・全国農業高等学校長会主催の「アグリマイスター顕彰制度」に農業科高校全体で取組、資格や検定へのチャレンジを推奨
- ▶ 実習を通じた職業観の定着
 - ・生徒同士が協力し合って農産物の栽培や飼育を行い、野菜などの実習生産販売など様々な実習を実施
- ▶ 生産品や食品の安心・安全に関する学習の充実化
 - ・労働管理、生産品ブランディングの一環として、全校で「GAP」に関する学習を展開
 - ・農業科全校において「JGAP」及び「東京都GAP」を取得
- ▶ 企業等との連携
 - ・各校において、地元企業等との連携により、生産品や加工品の販売実習等を実施
 - ・企業の研究開発に関する学習や商品開発に関する学習の充実化を目的として、令和元年5月には株式会社東洋新薬との連携を開始
 - ・公益財団法人東京都農林水産振興財団と協働し、GAPに関するPRや農業高校のPR、コロナ禍においてもオンラインプレゼント企画等を実施

設置校

学校名	設置学科(全日制)
農芸高校	園芸科学科、食品科学科、緑地環境科
園芸高校	園芸科、食品科、動物科
農産高校	園芸デザイン科、食品科
農業高校	都市園芸科、緑地計画科、食品科学科
瑞穂農芸高校	園芸科学科、食品科、畜産科
大島高校	併合科(農林科)
三宅高校	併合科(農業科)
八丈高校	併合科(園芸科)

Topics GAPの認証取得を要件とする東京2020大会の選手村食材調達にエントリーし、全校から選手村カジュアルダイニングに食材を提供

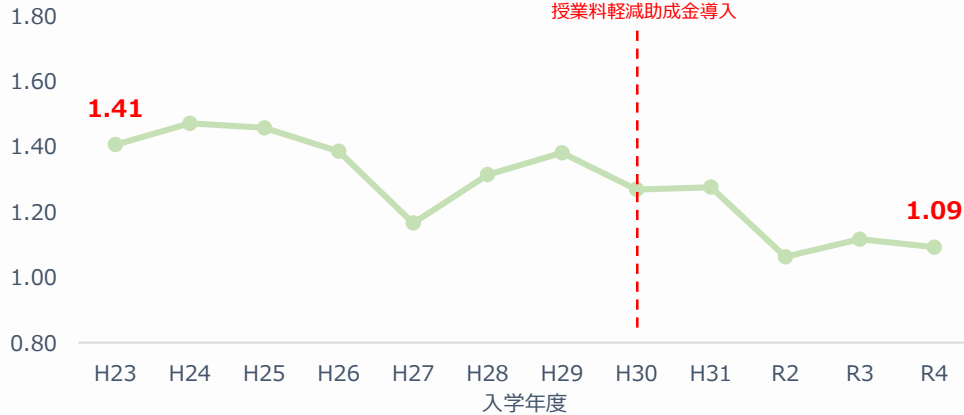
学校名	GAPの種類	取得年度	品目
農芸高校	JGAP	令和元年度	トマト、ミニトマト
	東京都GAP	平成30年度	トマト
園芸高校	JGAP	令和2年度	トマト
	東京都GAP	平成30年度	トマト
農産高校	JGAP	令和元年度	えだまめ・さといも・トマト・ねぎ
	東京都GAP	平成30年度	ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ、ナス、ピーマン、ダイコン、ブルーベリー
農業高校	JGAP	平成30年度	緑茶(生葉、荒茶、仕上茶)、日本なし
	東京都GAP	平成30年度	トマト(養液栽培)、ナシ、ブドウ、緑茶
瑞穂農芸高校	JGAP	令和元年度	メロン
	東京都GAP	平成30年度	メロン
大島高校	JGAP	令和元年度	トマト、ブロッコリー
		令和元年度	排卵鶏、鶏卵
三宅高校	JGAP	令和元年度	さといも、なす、緑茶(生葉、荒茶、仕上茶)
八丈高校	JGAP	令和元年度	オクラ、トマト、ミニトマト

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(2) 農業科

▶ 入学者選抜状況

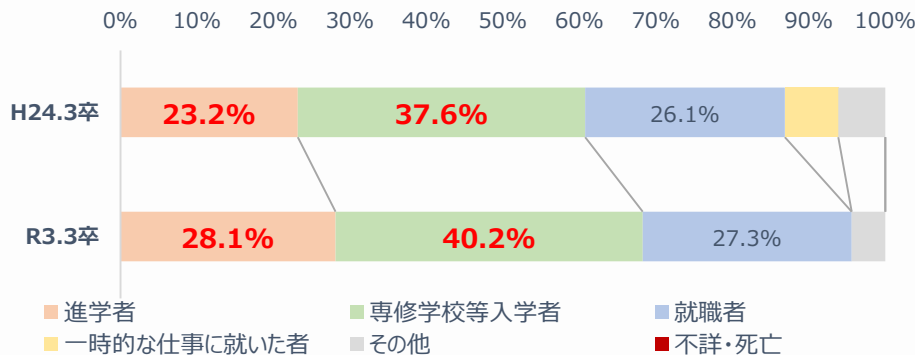
- ◆ 倍率の低下と増加を繰り返しつつも徐々に低迷
- ◆ 動物・畜産科学科は高倍率を維持



都立高等学校入学者選抜応募状況 (第一次募集・分割前期募集等)

▶ 卒業後の進路等

- ◆ 職業学科の中でも進学割合が高く、約6割の生徒が大学・短大、専修学校等に進学

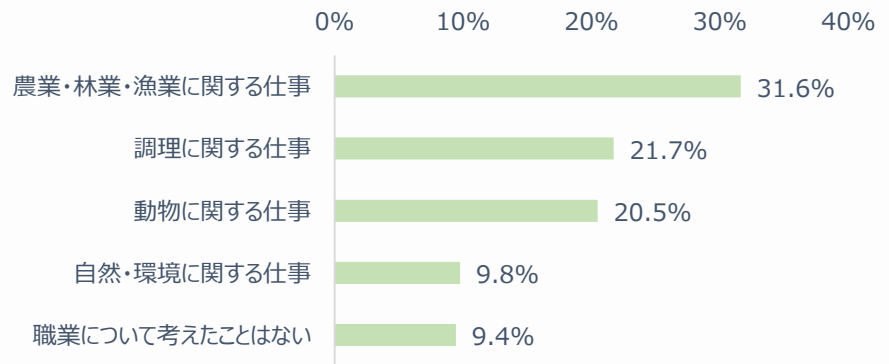


学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】

▶ 将来就きたい職業

- ◆ 多くの生徒が専門学科の学びを活かした職業を希望

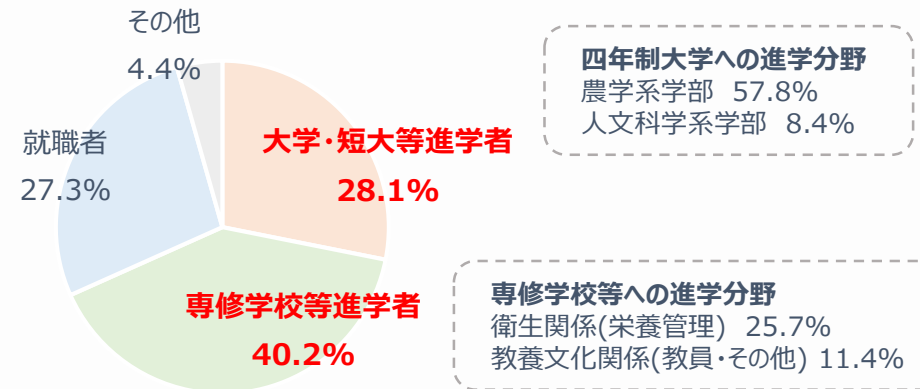
上位5項目



令和3年度 都立高校の現状把握に関する調査

▶ 進路分野(R3.3月卒業生)

- ◆ 専門学科での学びを活かした分野に進学



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】



- JGAPや東京都GAPの認証取得等、環境に配慮した農業教育が充実
- 職業学科としては進学傾向が強く、高校での学びを活かした進路分野を選択

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(3) 工業科

特徴

- ▶ 工業各分野で活躍できる技術者を育成
 - ・旋盤や溶接などの設備、機器を使用した実習や、資格取得に向けた取組などを通じて職業観を身に付けるとともに、技能・技術を習得
 - ・実習では安全に配慮しながら生徒同士が協力し合うこと、ものづくりでは正確性や根気等が求められることで、日頃の学校生活から規律の遵守や協働意識の大切さを体験的に理解
- ▶ 生徒の可能性を広げるための、多様で幅広い専門分野の技術を学ぶ学科を設置
 - ・建設系、機械系、電気系、科学系、工芸系など、中学校までの教養教育とは異なる多様な学科を設置
 - ・キャリア技術科では、工業高校のエンカレッジスクールとして1年次に工業全般に関わる基礎的内容を学習するとともに、2年次には生徒の興味・関心、進路等に応じた系列を選択し、専門科目を学習
 - ・デュアルシステム科では、生徒が一定の期間、授業の一部として企業で長期的かつ実践的な学習を受け、実際の企業現場での実習を通して、生徒が社会で具体的に役立つ知識や技術を習得

設置校

学校名	設置学科
工芸高校	マシンクラフト科、アートクラフト科、インテリア科、デザイン科、グラフィックアーツ科
蔵前工業高校	機械科、電気科、建築科、設備工業科
墨田工業高校	機械科、自動車科、電気科、建築科
六郷工科高校	プロダクト工学科、オートモビル工学科、システム工学科、デザイン工学科、デザイン工学科、デュアルシステム科
総合工科高校	機械・自動車科、電気・情報デザイン科、建築・都市工学科
中野工業高校	キャリア技術科
杉並工業高校	機械科、電子科、理工環境科
荒川工業高校	電気科、電子化、情報技術科

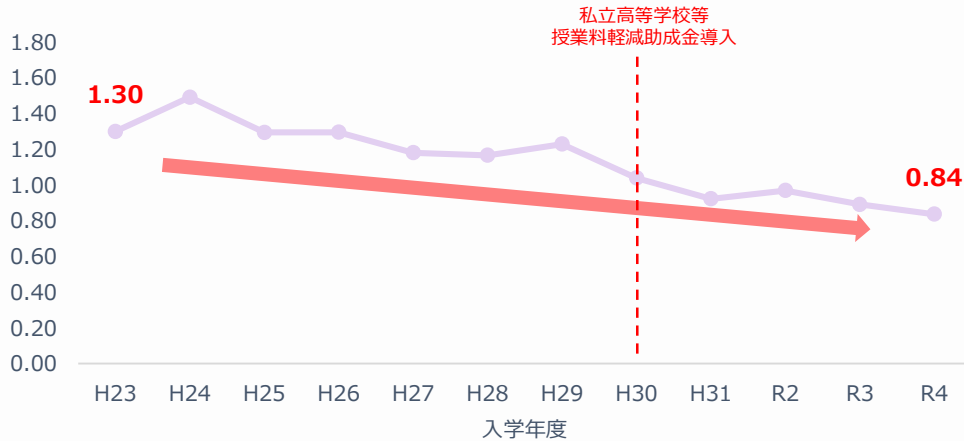
学校名	設置学科
北豊島工業高校	総合技術科
練馬工業高校	キャリア技術科
足立工業高校	総合技術科
葛西工業高校	機械科、電子科、建築科、デュアルシステム科
府中工業高校	機械科、工業技術科、情報技術科、電気科
町田工業高校	総合情報科
多摩工業高校	機械科、電気科、環境化学科、デュアルシステム科
田無工業高校	機械科、建築科、都市工学科

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(3) 工業科

▶ 入学者選抜状況

◆ 入学者選抜の応募倍率は低下傾向



都立工業高校入学者選抜応募状況 (第一次募集・分割前期募集等)

▶ 都立工業高校に関するアンケート

工業高校の教育内容を充実させるために必要だと思うこと (上位3項目)

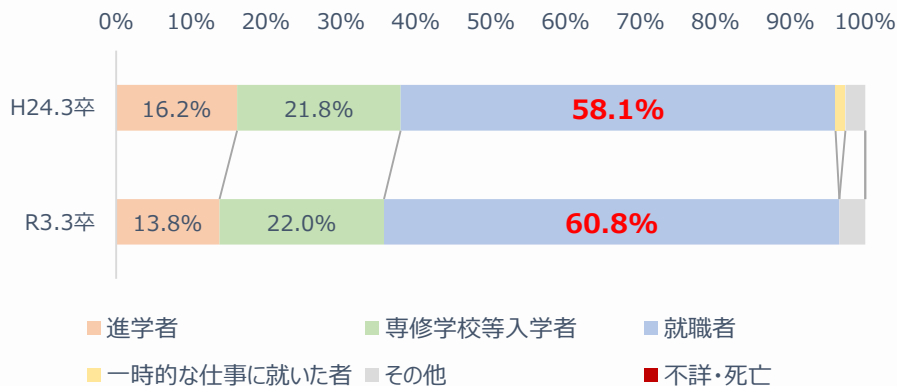
工業高校在校生	AI等の新しい技術を学べるようにする 24.3%	実習設備を最新のものに更新する 21.9%	企業等の外部の専門家から授業が受けられるようにする 20.8%
---------	--------------------------	-----------------------	---------------------------------

これからの工業高校が取り組むべきこと (上位3項目)

企業	基礎的・基本的な学力を身につけさせること 35.7%	知識等の習得ばかりでなく問題解決型の学習を促進すること 31.4%	企業や大学等と連携した学びや先端技術の学習を進めること 27.0%
中学生保護者	企業や大学等と連携した学びや先端技術の学習を進めること 35.0%	資格取得のための学習を充実させること 34.9%	インターンシップ(就業体験)を充実させること 33.7%
高校教員	基礎的・基本的な学力を身につけさせること 54.4%	資格取得のための学習を充実させること 49.3%	就職指導を充実させること 41.9%

▶ 卒業後の進路等

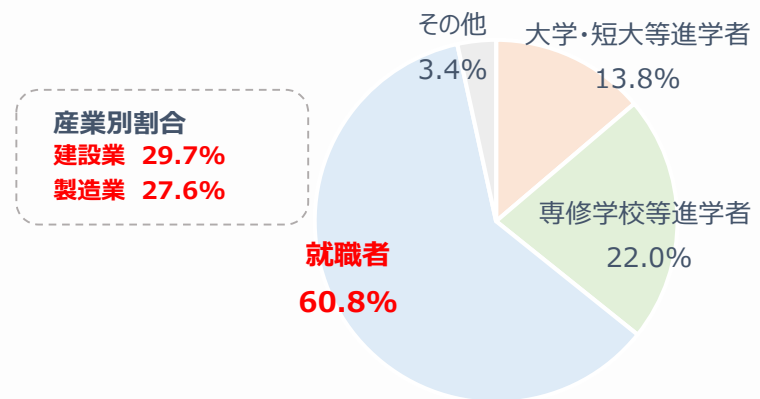
◆ 依然として高い就職志向



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】

▶ 進路分野(R3.3月卒業生)

◆ 就職者の多くが建設業・製造業へ就職



- 技術革新やDX等に対応し、技術の力で、様々な問題や課題に向き合うことのできる人材を育成
- 東京の成長を支えるDX人材等の裾野拡大に向けた魅力の向上・発信

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(4) ビジネス科

特徴

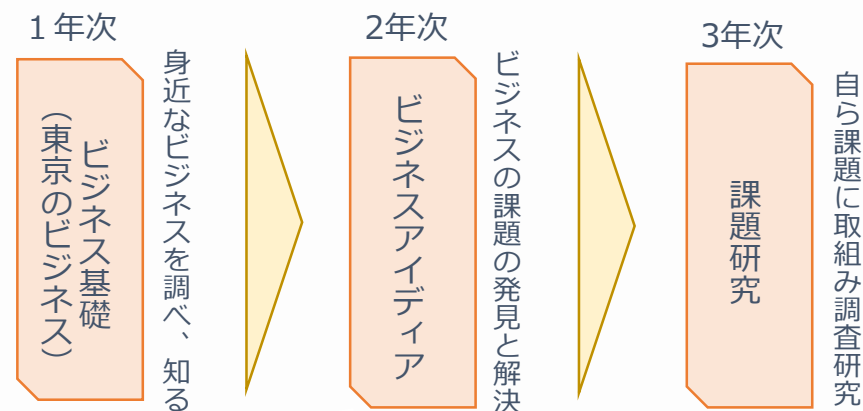
- ▶ 経理、情報処理などの商業分野で活躍する人材を育成
 - ・地域と連携した仕入れから販売までの実習
 - ・生徒自身が経営する模擬株式会社の設立等による体験型学習
 - ・検定、資格等の取得
- ▶ ビジネスを考え、動かし、変えていくことができる生徒の育成
 - ・平成31年度入学生から全日制商業科をビジネス科に改編
 - ・1年次には独自教材である「東京のビジネス」を活用し、ビジネスの基礎知識を定着
 - ・2年次では「ビジネスアイデア」によるグループ学習を多く取り入れ、アクティブラーニング等の視点に立った授業を展開
 - ・ビジネスの現状について理解を促すため、外部講師による講演や思考ツールを学習
- ▶ 起業・創業に対する関心の向上
 - ・「起業創業ラボ」を実施し、起業家精神を醸成するとともに、起業に必要な知識やスキル等、新しい価値を作り出す力を育成

設置校

学校名	所在地
芝 商 業 高 校	港 区
江 東 商 業 高 校	江 東 区
第 三 商 業 高 校	江 東 区
第 一 商 業 高 校	渋 谷 区
第 四 商 業 高 校	練 馬 区
荒 川 商 業 高 校	足 立 区
葛 飾 商 業 高 校	葛 飾 区
第 五 商 業 高 校	国 立 市
五 日 市 高 校	あ き る 野 市

荒川商業高校：令和3年度末で閉校
五日市高校：令和3年度末で閉校

Topics ビジネス科への改編により、商業に関する科目の体系的な学習が充実



【ビジネスアイデアを受講した生徒の声】

「消費者の視点だけでなく、企画者の視点でビジネスについて考えるようになった。」

「業界を研究することで、進路を考える際の参考になった。」

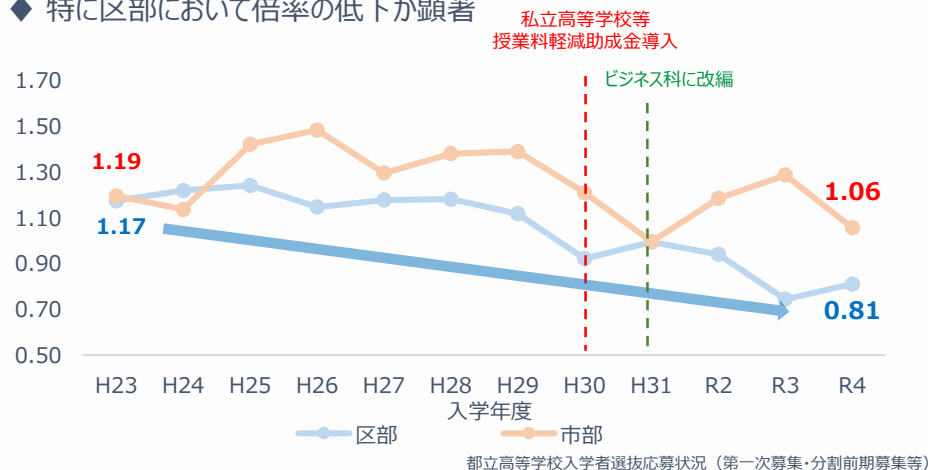
「ビジネスの知識が増え、経済ニュース等を理解しやすくなった。」

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(4) ビジネス科

▶ 入学者選抜状況

- ◆ 区部と市部で倍率が二極化
- ◆ 特に区部において倍率の低下が顕著



▶ 企業や地域社会と連携した取組

- ◆ 商業教育コンソーシアム東京を活用し、実地に学ぶ商業教育を展開

活用事例

・「ビジネス基礎」の授業への活用

企業の協力のもと、ビジネスに対する基本的知識を学ぶとともに、生徒が協力企業や業界について調査研究し、協力企業の強みについてプレゼンテーションを実施

・「東京プランニングラボ」

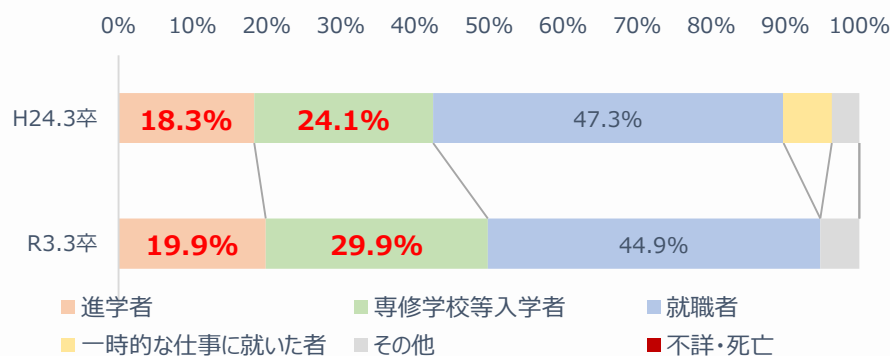
令和3年度は、協力企業から高校生ならではのオリジナルブランドの提案という課題を与えていただき、商業高校6校29名がファッションと経済社会との関わりや持続可能な経営等を学びつつ成果を発表



<東京プランニングラボの取組風景>

▶ 卒業後の進路等

- ◆ 就職志向から、徐々に進学志向が拡大



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】による調査情報を利用し、独自に集計

▶ 進路分野(R3.3月卒業生)

職業別割合

事務 44.0%
サービス業 25.4%
販売 19.5%

その他 5.3%

就職者 44.9%

大学・短大等進学者 19.9%

専修学校等進学 29.9%

四年制大学への進学分野

商・経済系学部 58.1%
社会学他系学部 10.4%
人文科学系学部 5.9%

専修学校等への進学分野

衛生関係(理容美容) 14.3%
商業実務関係(経理簿記珠算) 7.0%
工業関係(電子計算情報処理) 9.0%

学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】



- 特に区部における入選倍率が低下しているが、入学後9割以上の生徒が進路を決定して卒業
- ビジネス科における学びの一層の充実と更なる魅力の向上・発信

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(5) 産業科

特徴

- ▶ 広い視野を持った将来の企業家や自営業の後継者を育成
 - ・ものの生産から流通、消費に至るまでの過程全般を学習
 - ・平成19年度に橘高校と八王子桑志高校において日本で初めて開校
 - ・大学等に進学し、更に高度な知識や技術の習得を目指す生徒にも対応
- ▶ 各校特色ある取組を展開
 - ・橘高校
産業技術基礎：デザイン、陶芸、ガラス工芸、機械加工、食品加工、製図、電子工作などを実習を通じて学習
ビジネス会計：会計の仕組みを学び、ビジネスで行われる取引を数量的に把握する能力と態度を育成
起業家精神と職業生活：経済や企業に関する基礎・基本を学ぶとともに、将来社会人となる心構えやコミュニケーション能力を育成
 - ・八王子桑志高校
産業技術基礎：デザイン・クラフト・システム情報・ビジネス情報各分野の産業技術に関する基礎・基本を分野ごとに学習（1年次）
企業会計：簿記の基本を学ぶとともに、原価計算などの知識と技術を学習（1年次全員必修）
キャリアデザインⅠ・Ⅱ：生徒自らが自己の適性を見極めながら「社会性」「勤労観・職業観」「社会との関わり方」等を身に付け、自信をもって一生のキャリアをデザインする力を育成
情報関連科目の充実：「必要な情報を収集・整理し、分析・検討・評価を加え求められる形にして表現・発信する方法」を学習
- ▶ 伝統工芸や匠の技に対する興味・関心を高める取組を充実し、東京の「宝物」を守り、育てていく人材を育成
 - ・橘高校が設置するものづくり類型の中に「陶芸」「ガラス工芸」等の授業を設置
 - ・令和2年度中に産業高校（橘高校）において実施する伝統工芸等に関する授業の内容を検討し取りまとめ
 - ・令和3年度から伝統工芸等に関する授業の内容を検討し、選定した内容について一部試行的に取組を開始

設置校

学校名	設置年度
橘 高 校	平成19年度
八王子桑志高校	平成19年度

Topics 伝統工芸に関する授業を展開（橘高校）



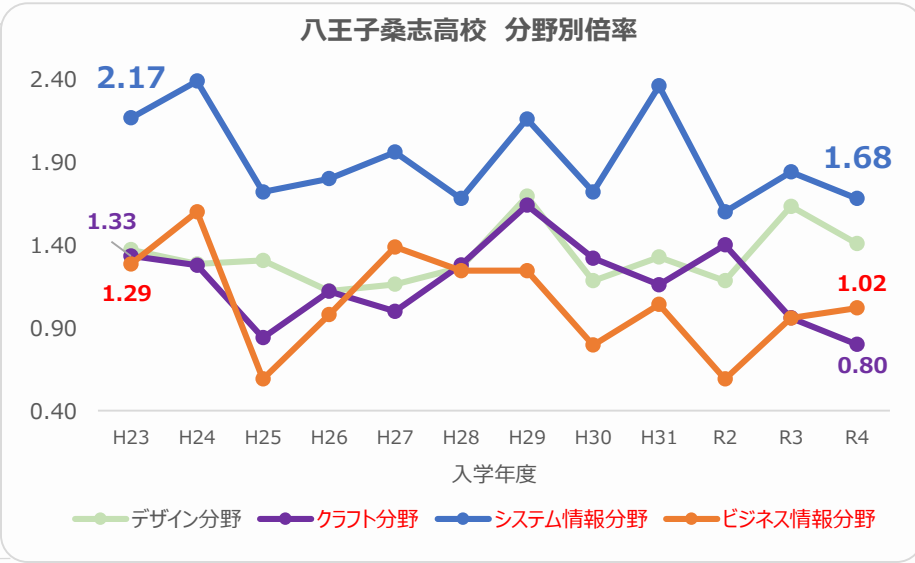
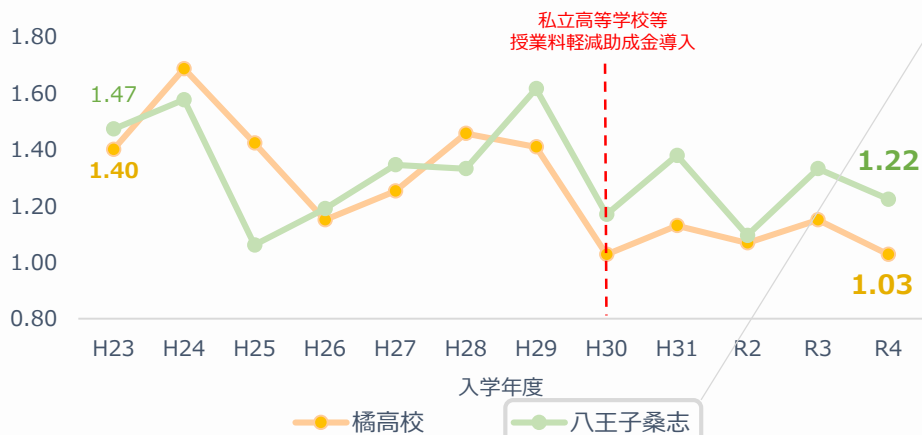
<(左)彫金加工の様子 (右)彫金加工作品>

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(5) 産業科

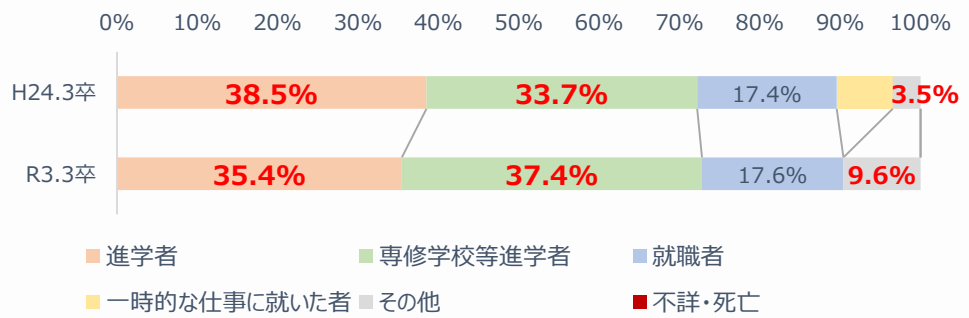
▶ 入学者選抜状況

- ◆ 倍率は低下傾向ではあるが、1倍以上を維持
- ◆ 特にシステム情報分野は高倍率を維持



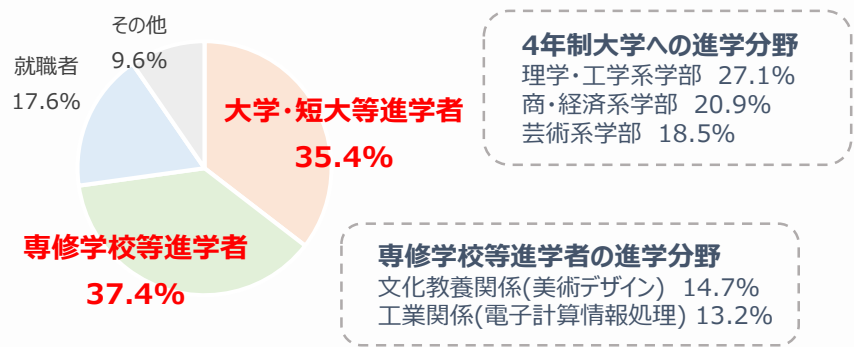
▶ 卒業後の進路等

- ◆ 現在では約7割の生徒が大学や短大、専修学校等へ進学
- ◆ 進路未決定の生徒が増加傾向



▶ 進路分野(R3.3月卒業生)

- ◆ 工業、商・経済、芸術系分野への進学が高く、学びを活かした進路を選択



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】

学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】



- 入学者選抜ではシステム情報分野が特に高倍率を維持
- 卒業後は工業・商業・デザインなど、広い学びを活かした進路分野を選択

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(6) 科学技術科

特徴

- ▶ 将来の科学技術のスペシャリストを目指し、技術革新に対応できる人材を育成
 - ・ 科学や技術について幅広く学び、卒業後、理系大学等において専門性を高めるための基礎力を身に付ける進学型の専門学科
 - ・ 技術者として生涯に渡り専門性を高めていくために必要な意欲・態度や知識・技術を習得
- ▶ 実践を通じた先端的な科学技術の習得
 - ・ 科学や技術への興味・関心が膨らむ実験や実習を重視
 - ・ ゼミ方式の授業の導入
 - ・ 体系的や専門性等について相互に関連する各教科・まとまりを示したものを「系列」と呼び、系列から一つを選び系統的な学習を実施
- ▶ 理系大学進学に向けた学習指導
 - ・ 習熟度別のきめ細かい指導や放課後の補習を実施
 - ・ 普通科目と専門科目間での繋がりのある授業を大切にし、生徒の自由な発想を育むために、総合的に学習する科目の開設

設置校

学校名	開校年度	スーパー・サイエンス・ハイスクール※指定期間
		※ 文部科学省が指定する科学技術・理科及び数学教育に関する教育課程の研究開発を行う高等学校
科学技術高校	平成13年度	平成19～23年度(第一期)、平成24～28年度(第二期)、令和3～7年度(第三期)
多摩科学技術高校	平成22年度	平成24～28年度(第一期)、平成29～令和3年度(第二期)

Topics 各校特色ある学習指導を展開

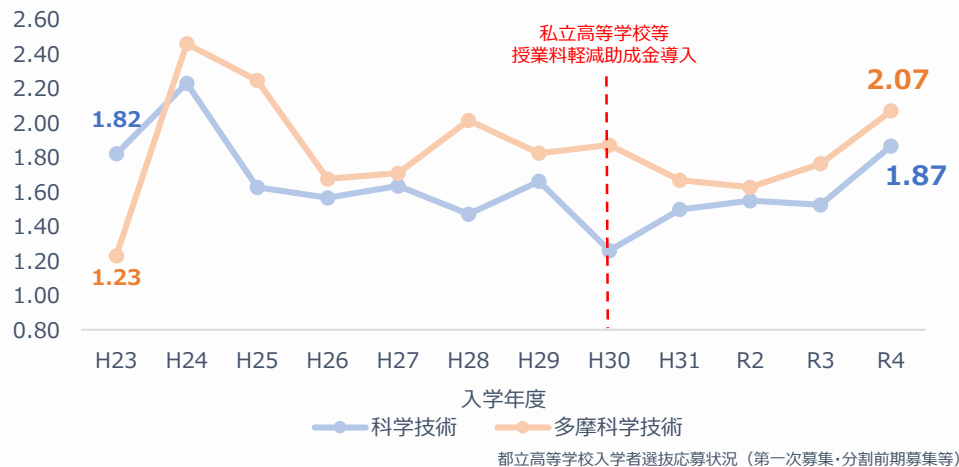
科学技術高校	多摩科学技術高校
<p>◆ 分野選択 2年生以降、3つの分野（①運動・材料・熱など、②電磁気・通信・情報など、③有機・無機・バイオ・環境など）に分かれます。1年生で各分野の基礎を学び、自分に合った分野を見つけます。</p> <p>◆ 理論・実験（実習）・研究の3ステップ学習 理論と実験（実習）で知識や体験を深め、研究活動で試行錯誤しながら発展させます。</p> <p>◆ 問題解決能力、広い視野、コミュニケーション能力 グループで行う実験（実習）・研究活動や発表授業を通して伸ばしていきます。</p>	<p>◆ 考える力と創造性を伸ばす科学技術教育 先端技術に触れながら、科学技術の基礎力を伸ばします。第一線の科学技術アドバイザーからの講義も用意しています。また、多くの実験・体験を通して課題解決能力やプレゼンテーション能力を育てます。</p> <p>◆ 大学に確実に進学できる実力づくりと進学指導 普通科の高校と同等の充実した理系共通科目単位数（数、理、英）の設置を充実させています。一人一人の状況に合わせたきめ細かい授業（習熟度別授業など）を行います。</p> <p>◆ 科学技術科の4領域 バイオテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、エコテクノロジー、ナノテクノロジーの四つの各領域を選択して学ぶことができます。</p>

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(6) 科学技術科

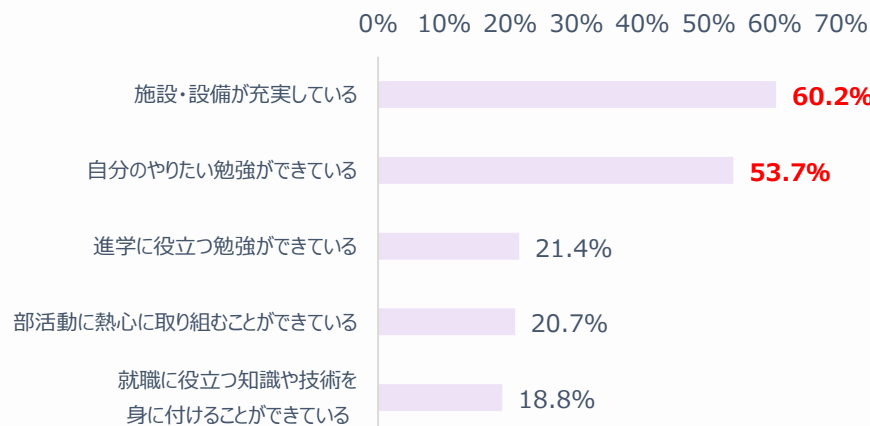
▶ 入学者選抜状況

◆ 一時的に低迷したものの、再び上昇傾向にあり**高倍率を維持**



▶ 入学して特に良かったと思うこと

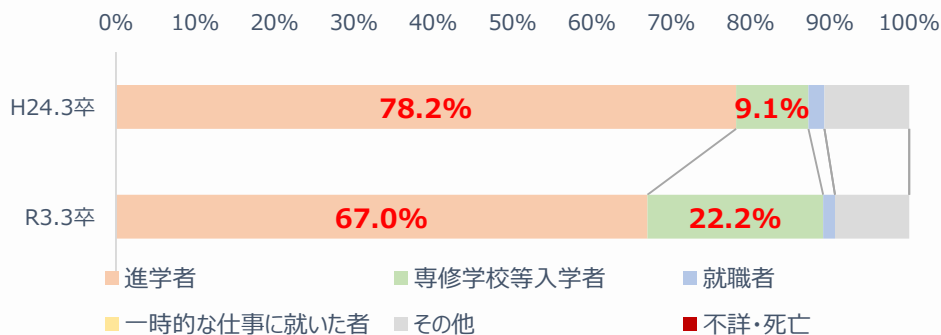
◆ **施設・設備面**や**自分のやりたい勉強**ができて**いること**に対する**満足度が高い**



令和3年度 都立高校の現状把握に関する調査

▶ 卒業後の進路等

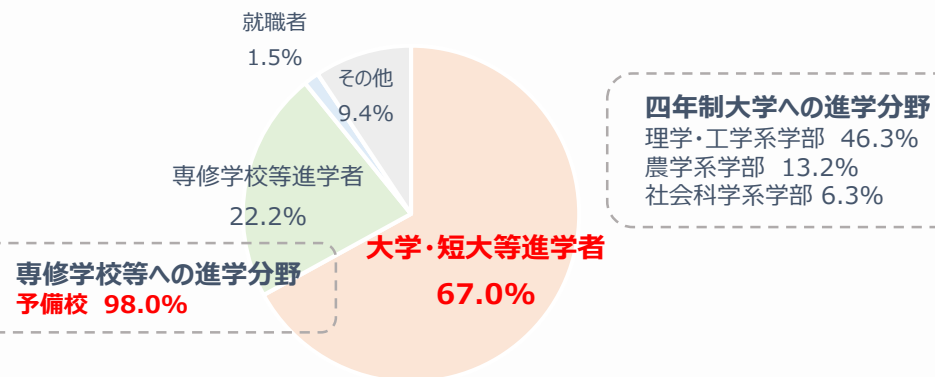
- ◆ 進学志向が顕著に高い
- ◆ 進路未決定者の割合が減少



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】

▶ 進路分野(R3.3月卒業生)

◆ 約7割が大学・短大等へ進学し、うち約半数が理学・工学系学部に進学



四年制大学への進学分野
 理学・工学系学部 46.3%
 農学系学部 13.2%
 社会科学系学部 6.3%

学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】



- 入学者選抜では高倍率を維持しており、施設・設備や学校での学びに対する満足度が高い
- 設置目的のとおり進学志向が非常に強く、専修学校等進学者であってもほぼ全員が予備校生

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(7) ビジネスコミュニケーション科

特徴

- ▶ ビジネスに関する基礎的・基本的な知識・技能を習得し、将来国際社会で活躍するスペシャリストを育成
 - ・英語とビジネスの学習に重点を置き、大学卒業後の将来を考える進学型の専門学科
- ▶ 「使える英語」と「ビジネスに役立つスキル」の定着
 - ・両校とも英語の本を1万冊以上を用意し、生徒による「多読」を支援
 - ・JETやALTなどのネイティブスピーカーやGTECなどの検定試験を活用し、英語四技能（読む・聞く・書く・話す）を伸長
 - ・千早高校は「東京グローバル10」「海外学校間交流推進校」「国際交流リーディング校」の指定を受けており、国際教育を特に推進
 - ・経済の基本を学ぶとともに、ビジネスに必要な情報処理や簿記などの会計の基本について学習
 - ・企業連携等と連携し、学びを社会に活かす活動を実施
 - 千早高校：CBP（千早ビジネスプロジェクト）により、企業見学体験やボランティア活動を実施
 - 大田桜台高校：企業と連携して商品を開発したり、企業が主催するコンテストに参加する授業を実施
- ▶ 総合型選抜や公募・指定校推薦により多くの生徒が上級学校へ進学
 - ・令和2年度卒業生では、千早高校・大田桜台高校ともに約9割の生徒が総合型選抜や学校推薦型選抜、公募制選抜により上級学校へ進学
 - ・両校とも特に総合型選抜による進学が4割以上であり、在校中の活動を受験に活用

設置校

学校名	開校年度	所在地
千早高校	平成8年度	豊島区
大田桜台高校	平成21年度	大田区



<イングリッシュ・ビジネスプラン・コンテストでの発表風景>

Topics 総合型選抜等に学科としての特色ある教育活動を活用

【活動例】

- ▶ 「イングリッシュ・ビジネスプラン・コンテスト」への参加（東京都商業教育研究会主催）
 - ・英語を使ってプレゼンテーションを実施
 - ・発表で使用するビジネスプランシートや審査員との質疑応答も英語で実施
- ▶ 英語・ビジネスに焦点を当てた資格の取得等
 - ・日商簿記検定、英語検定、TOEICなど学科の特色に応じた資格を取得

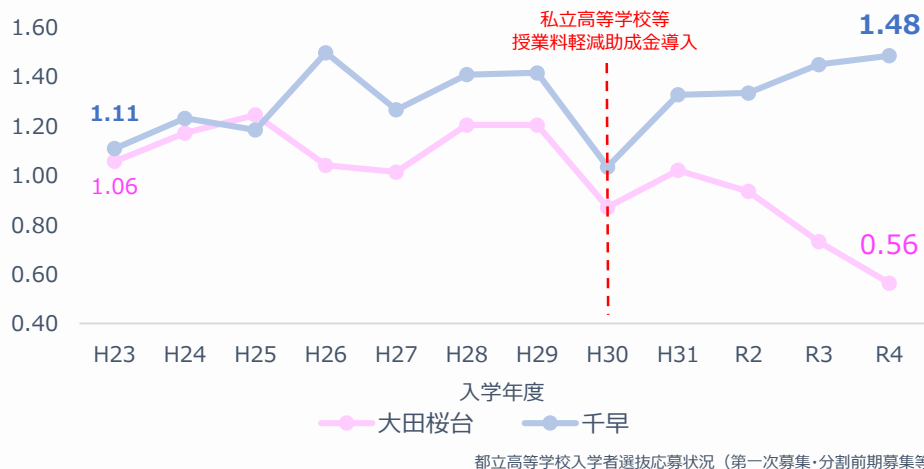
将来を見据えた計画的な進路指導が充実

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(7) ビジネスコミュニケーション科

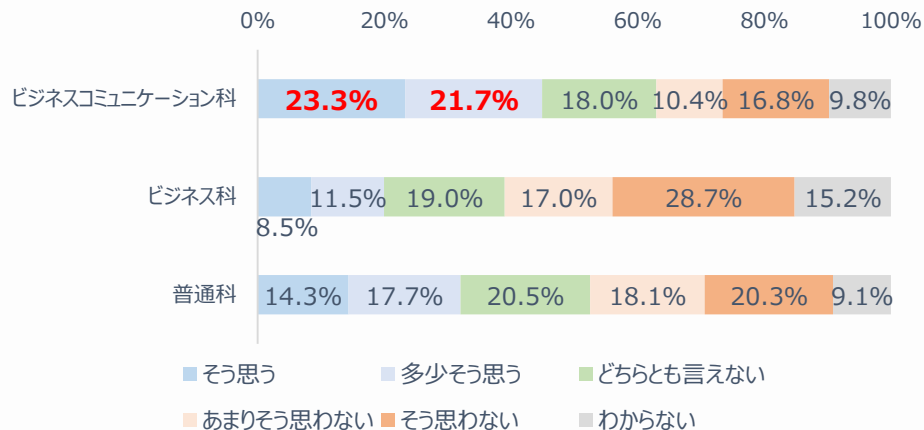
▶ 入学者選抜状況

◆ 大田桜台高校において入学者選抜の応募倍率が低下



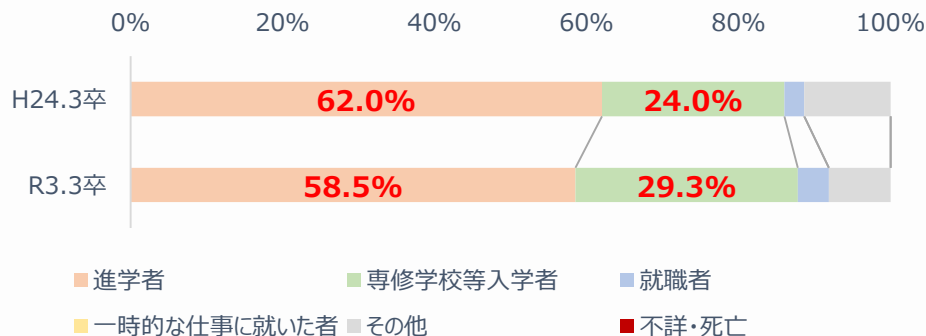
▶ 将来、国際社会を舞台として仕事をしてみたいと思うか

◆ 国際社会を舞台とした仕事に興味・関心を示している生徒が多く在籍



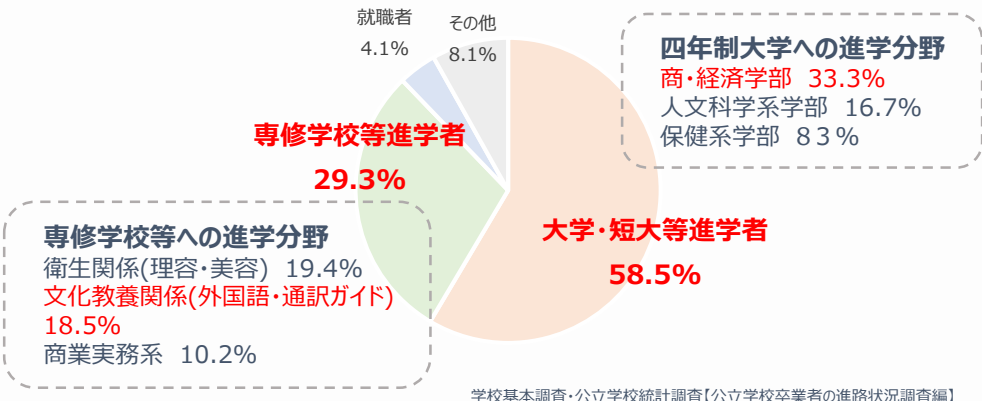
▶ 卒業後の進路等

◆ 約9割の生徒が大学・短大、専修学校へ進学



▶ 進路分野(R3.3月卒業生)

◆ 商業や経済、国際分野への進学割合が高い



- 進学志向が高く、国際社会を舞台とした仕事に興味を示す生徒が多く在籍。語学系への進学割合も高い
- ビジネスコミュニケーション科における学びの一層の充実と更なる魅力の向上・発信

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(8) 国際科

特徴

- ▶ 国際理解教育や外国語教育を通じ、国際社会で活躍できる人材を育成
 - ・豊かな人間性を養い、主体的に考え、創造性に富んだ個性の伸長を図る
 - ・日本の伝統・文化を理解し、尊重する態度を養うとともに、異なる国、民族、文化を理解し、尊敬し、共に生きる姿勢を育成
 - ・心身を鍛え、積極的に国際社会で行動する意欲を持った人材を育成
- ▶ 海外への進学を目指す国際バカロレアコースの設置
 - ・国際バカロレア機構が提供する世界共通のカリキュラム・評価基準の下、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、探究心や思いやりに富むグローバル人材を育成
 - ・一年次は学習指導要領上の必修科目の多くを英語で学び、二年次からは英語による国際バカロレアの教育内容を実施
 - ・日本の公立高校で唯一、英語ディプロマプログラム※を実施（R4.3.31時点） ※ 国語、日本史等を除く授業を全て英語で実施

設置校

学校名	国際バカロレア認定年度
国際高校	平成27年度(令和2年度に再認定)

Topics 国際バカロレアコースにおけるフルディプロマ取得実績が向上

第1期生	取得率	平均スコア	最高スコア
国際高校	89.5%	31.0	40
世界平均	69.6%	28.8	(満点45)

第2期生	取得率	平均スコア	最高スコア
国際高校	84.2%	31.6	39
世界平均	69.0%	28.6	(満点45)

第3期生	取得率	平均スコア	最高スコア
国際高校	100.0%	36.3	41
世界平均	69.9%	28.5	(満点45)

第4期生	取得率	平均スコア	最高スコア
国際高校	100.0%	37.8	45
世界平均	75.8%	29.6	(満点45)

主な海外大学合格校 ※カッコ内数字は「THE 世界大学ランキング2021」における順位

英国：インペリアル・カレッジ・ロンドン（11）、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（16）、エディンバラ大学（30）、キングス・カレッジ・ロンドン（35）
 米国：カリフォルニア大学ロサンゼルス校（15）、カリフォルニア大学サンディエゴ校（33）、ウィリアムズカレッジ（米リベラルアーツ大学1位 THE2021）
 カナダ：トロント大学（18）、プリティッシュ・コロンビア大学（34）
 オーストラリア：メルボルン大学（31）

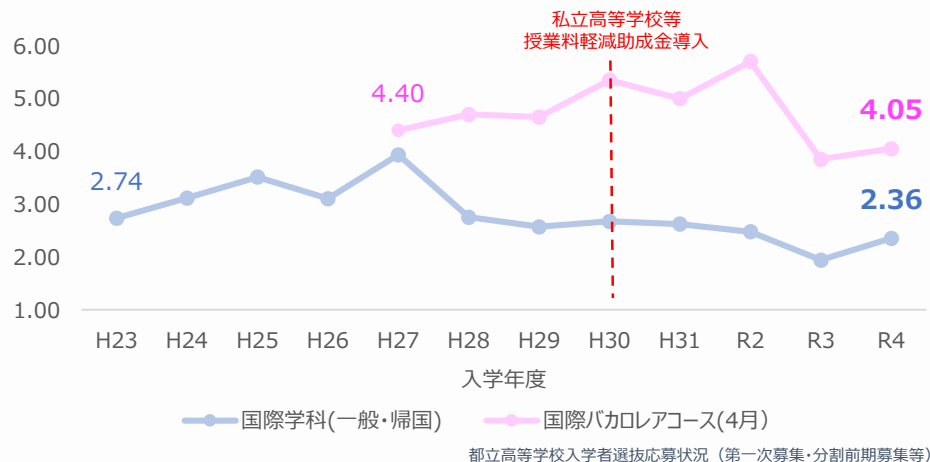
※参考：東京大学(36)、京都大学(54)

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(8) 国際科

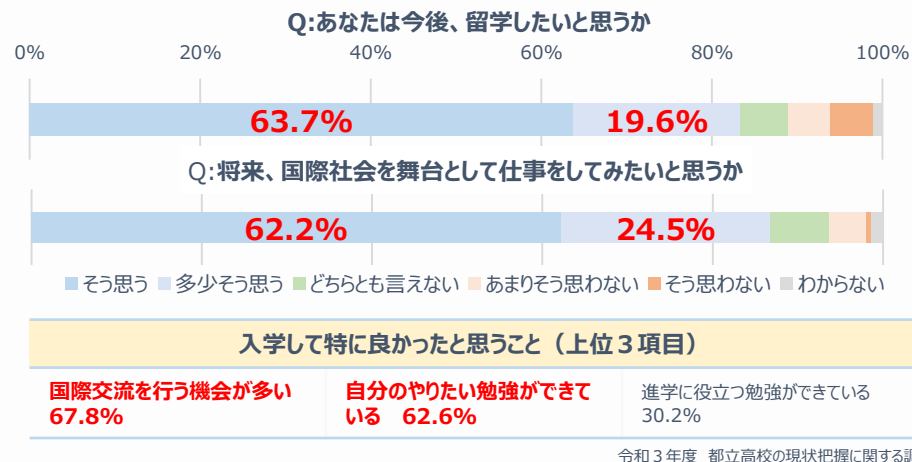
▶ 入学者選抜状況

- ◆ 2倍を超える高倍率を維持
- ◆ 特に国際バカロレアコースへの人気が顕著



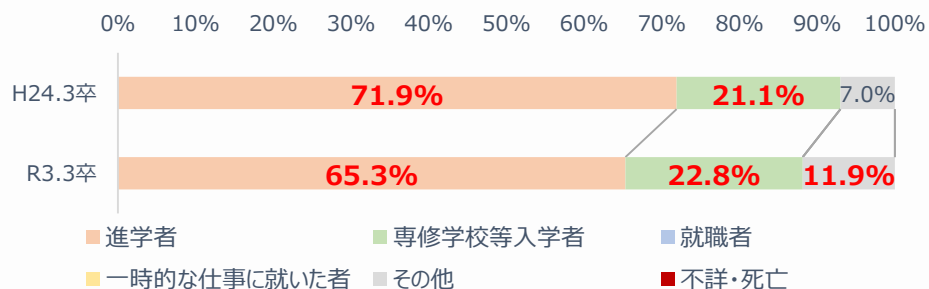
▶ 在校生の国際感覚

- ◆ 国際社会に対する興味・関心が特に高い
- ◆ 国際交流の多さに満足度が高く、生徒の入学目的に込めている



▶ 卒業後の進路等

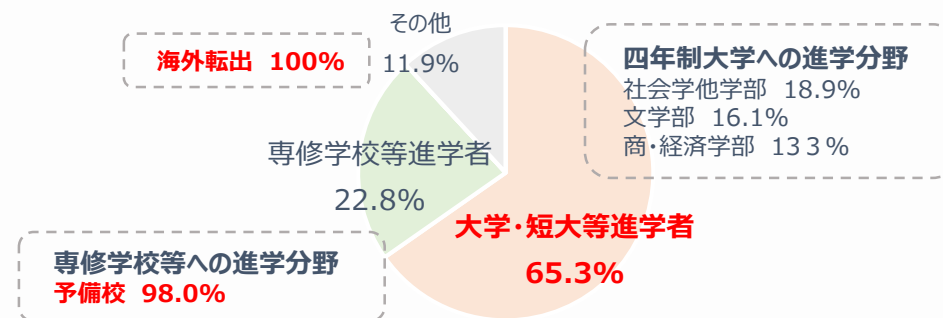
- ◆ 約9割の生徒が大学・短大、専修学校へ進学
- ◆ 「その他」に属する生徒も、全員が「海外転出」理由



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】

▶ 進路分野(R3.3月卒業生)

- ◆ 延べ85名の生徒が海外大学に合格(令和3年度 国際高校学校要覧から)



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】



- 応募倍率は高倍率を維持しており、特にバカロレアコースでの高倍率が顕著
- 新国際高校（仮称）の開校に向けた準備

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(9) 総合学科

特徴

- ▶ 社会の変化に対応できる人材の育成
 - ・将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせ、自己実現を目指す意欲を培う
 - ・生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させ、社会の変化に主体的に対応して社会に貢献できる人材を育成
- ▶ 進路実現を図るための多様な選択科目の設置
 - ・国語や理科など普通教育に関する科目から工業や商業などの専門教育に関する科目まで、自己の進路への自覚を深める動機付けを実現するために幅広い学びが可能
 - ・体系的や専門性等について相互に関連する各教科・まとまりを示したものを「系列」と呼び、系列から一つを選び系統的な学習を実施
- ▶ 自らの進路への自覚を深めるための系統的なキャリア教育
 - ・入学年次に全ての生徒が教科「産業社会と人間」を履修し自己の進路への自覚を深め、社会ルールや職業と生活について学習
 - ・科目「課題研究」により、多様な教科・科目の選択履修によって深められた知的好奇心等に基づいて自ら課題を設定し、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるとともに、自己の将来の進路選択を含め人間としての在り方生き方について考察

設置校

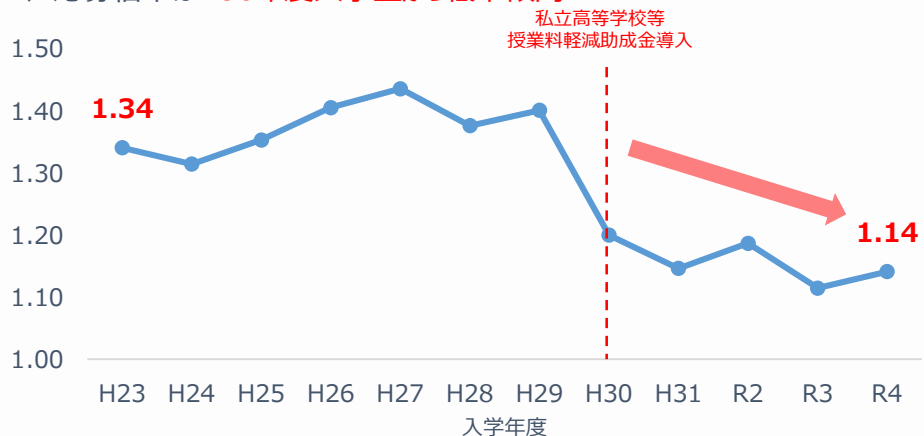
学校名	開校年度	系列
晴海総合高校	平成8年度	「情報システム」「国際ビジネス」「語学コミュニケーション」「芸術・文化」「自然科学」「社会・経済」
つばさ総合高校	平成14年度	「美術・デザイン」「科学・技術」「国際・コミュニケーション」「スポーツ・健康」「生活・福祉」
杉並総合高校	平成16年度	「人間・社会」「科学・環境」「メディア・文化」「ビジネス」「国際コミュニケーション」
若葉総合高校	平成17年度	「人間探究」「芸術表現」「伝統継承」「情報交流」
青梅総合高校	平成18年度	「文科・理科」「国際・文化」「生命・環境」「食品・生活」「人間・健康」
葛飾総合高校	平成19年度	「国際コミュニケーション」「スポーツ福祉」「生活アート」「サイエンス・テクノロジー」
東久留米総合高校	平成19年度	「国際・人文社会」「自然科学探究」「スポーツ」「芸術・表現」「看護・保育」
世田谷総合高校	平成20年度	「社会・教養」「サイエンス・環境」「国際・文化理解」「情報デザイン」「ライフデザイン」「美術・ものづくり」
町田総合高校	平成22年度	「暮らし（生活全般）」「ひと（心理・看護・福祉・芸術）」「まち（ビジネス・情報）」「自然（自然科学全般）」
王子総合高校	平成23年度	「国際・ビジネス」「文化・芸術」「メディア・ネットワーク」「サイエンス・テクノロジー」「スポーツ・健康」

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(9) 総合学科

▶ 入学者選抜状況

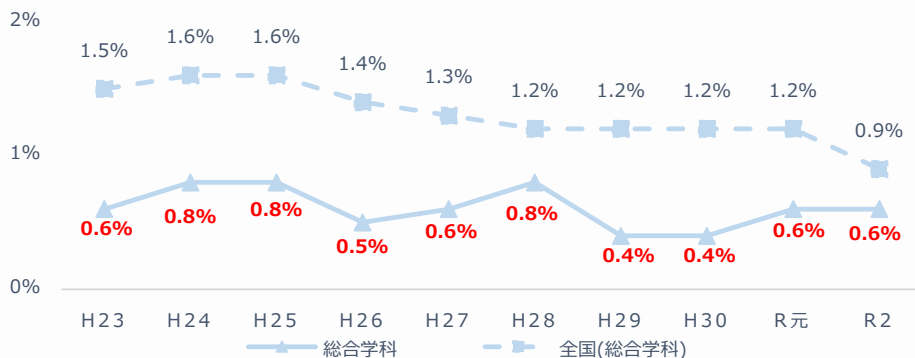
◆ 応募倍率はH30年度入学生から低下傾向



都立高等学校入学者選抜応募状況 (第一次募集・分割前期募集等)

▶ 中途退学率 ※点線は全国統計

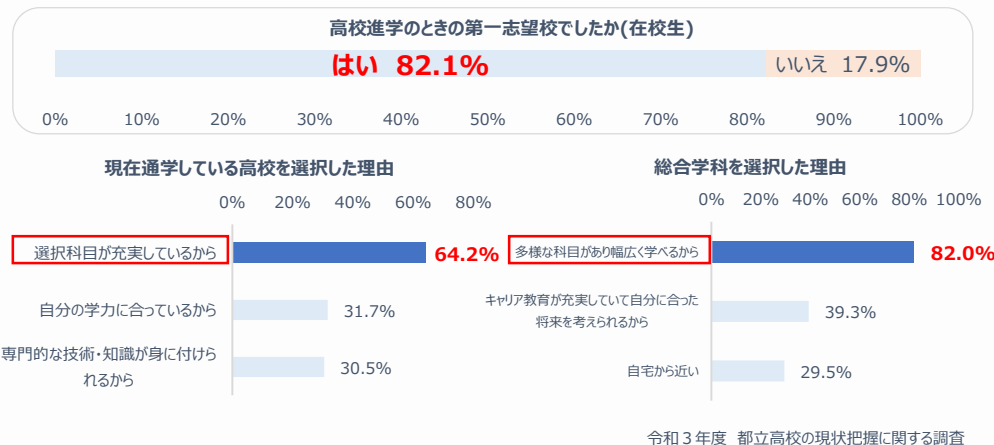
◆ 全国的に見ても都立の総合学科高校は中途退学率が一貫して低い



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

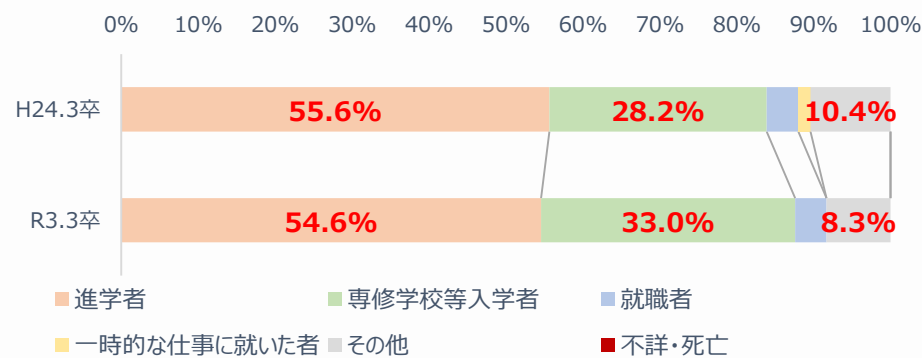
▶ 総合学科高校の志望理由

- ◆ 第一希望校として進学した生徒が約8割
- ◆ 総合学科の生徒は総合学科としての魅力を理解して入学



▶ 卒業後の進路等

- ◆ 卒業生の約9割が進路を決定
- ◆ 進学志向が高い



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業生の進路状況調査編】



- 倍率が低下傾向であるが、入学している生徒は総合学科の特色を理解している
- 希望の進路先を見つけて卒業でき、大学進学のコースにも応えることができているが、更なる魅力発信が必要

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(10) 中高一貫教育校

特徴

- ▶ 6年間を通した一貫教育により、社会の様々な場面・分野におけるリーダーを育成
 - ・ 6年間の体系的・系統的な教育に加え、学校設定科目の設定、外国語によるコミュニケーション能力の育成や、自然科学への深い理解等、各校それぞれ特色ある教育活動を実施
 - ・ 国際社会で活躍・貢献できる人材の育成を目標に、英語の4技能をバランスよく育成するとともに、都教委による「東京グローバル10」や「英語教育推進校」、「姉妹校交流推進校」等の指定を活用しながら、異文化理解等を促進するための取組が行われている。
- ▶ 都立中高一貫教育校の生徒同士が切磋琢磨
 - ・ 都立中高一貫教育校の生徒同士が、切磋琢磨する機会を創出
(都立中高一貫教育校連携事業文化交流会「百人一首大会」、東京都公立中高一貫教育校 英語スピーチコンテスト 他)
- ▶ 併設型中高一貫教育校における中学校段階の募集規模を拡大
 - ・ 併設型中高一貫校における高校段階での生徒募集を停止するとともに、中学校段階からの高い入学ニーズを踏まえ、中学校段階での生徒募集の規模を拡大

設置校

学校名	開校年度	高校の募集停止年度	主な指定校・推進校等
白鷗高校・附属中学校	平成17年度	令和5年度入学生から	英語教育推進校(高)、国際交流リーディング校(高)、Diverse Link Tokyo Edu(高)、Society5.0に向けた学習方法研究校(中高)
両国高校・附属中学校	平成18年度	令和4年度入学生から	英語教育推進校(高)
武蔵高校・附属中学校	平成20年度	令和3年度入学生から	英語教育推進校(高)、理数研究校(高)、持続可能な社会づくりに向けた教育推進校(高)
富士高校・附属中学校	平成22年度	令和3年度入学生から	英語教育推進校(高)、理数アカデミー校(中高)、スポーツ特別強化校(高)、文化部推進校(高)
大泉高校・附属中学校	平成22年度	令和4年度入学生から	英語教育推進校(高)、国際交流リーディング校(高)、知的探究イノベーター推進校(中高)、文化部推進校(高)、Society5.0に向けた学習方法研究校(中高)

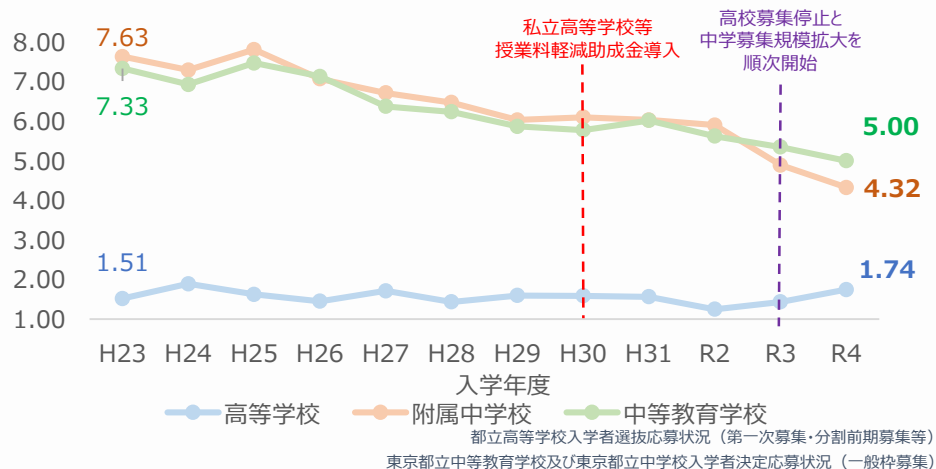
学校名	開校年度	主な指定校・推進校等
桜修館中等教育学校	平成18年度	英語教育推進校、国際交流リーディング校、理数研究校
小石川中等教育学校	平成18年度	東京グローバル10、SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)
立川国際中等教育学校	平成20年度	東京グローバル10
南多摩中等教育学校	平成22年度	英語教育推進校、Diverse Link Tokyo Edu、知的探究イノベーター推進校、スポーツ特別強化校、文化部推進校、Society5.0に向けた学習方法研究校
三鷹中等教育学校	平成22年度	東京グローバル10、理数研究校、Society5.0に向けた学習方法研究校

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(10) 中高一貫教育校

▶ 入学者選抜状況

◆ 低下傾向にはあるが、**中等教育学校及び附属中学校では高倍率を維持**



▶ 都立中高一貫教育校の生徒同士が切磋琢磨する機会の創出

◆ 都立中高一貫教育校10校が連携して、ディベートやスピーチコンテスト等、連携事業を実施

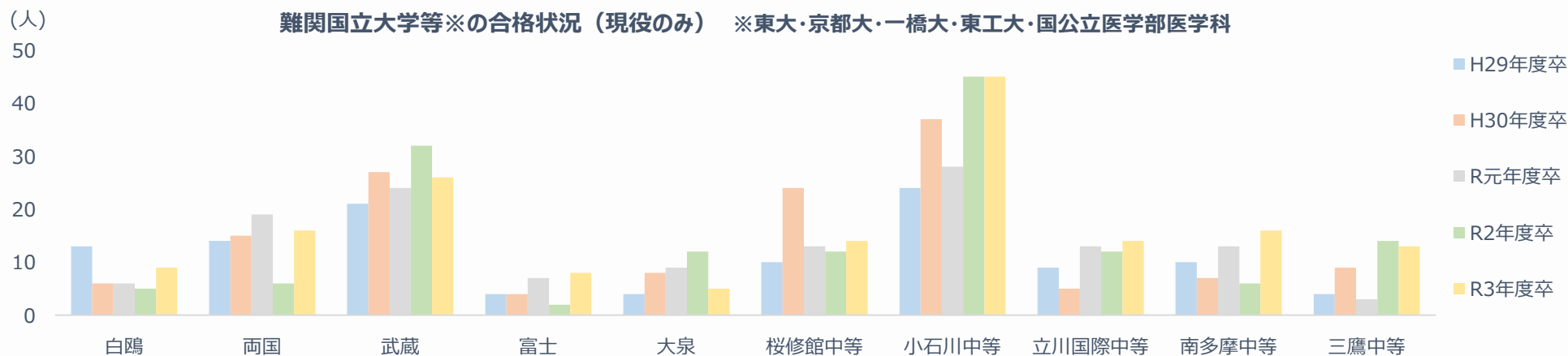
都立中高一貫教育校連携事業

- ・英語スピーチコンテスト
- ・日本語スピーチコンテスト
- ・百人一首大会
- ・即興型英語ディベート交流会
- ・ピリオバトル etc.

【活動の実績・成果例(R3年度)】

- ・ 対戦中は勝負に徹する様子や**切磋琢磨する様子**が見られるとともに、他校の生徒同士で連絡先を交換するなど、**交流が深められた。**
(百人一首大会)
- ・ コロナ禍において、学校間交流を通じた様々な学びの機会が失われている中、**オンラインを活用した学び合いの機会を得ることができた。**
(即興型英語ディベート交流大会)

▶ 難関国公立大学への合格実績



- 6年間を見通した体系的・系統的な教育の展開や、教育課程の基準の特例を活用した教科指導が更に充実
- 高校段階の募集停止・中学校段階での生徒募集の規模拡大の影響について、今後検証が必要

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(11) 夜間定時制課程

特徴

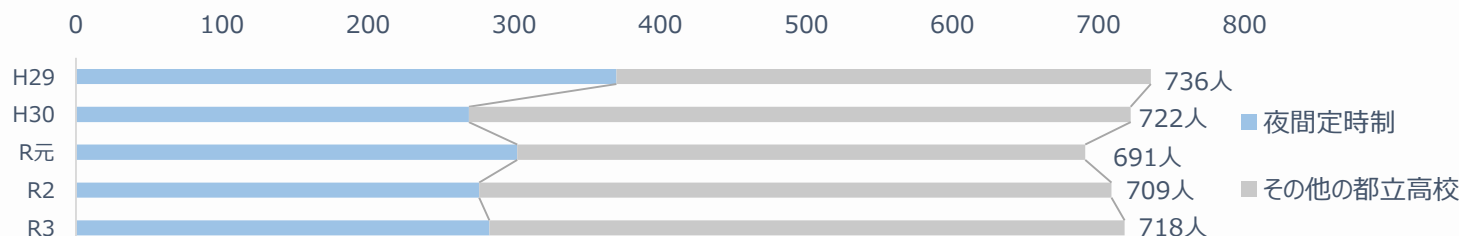
- ▶ 昼間に働く青少年に対し、教育の機会均等を保障するため、夜間の時間に授業を行う課程を設置
 - ・昭和50年代中頃まで、主として勤労青少年など昼間に通うことができない生徒の学びの場としての役割が中心
- ▶ 近年は、不登校を経験した生徒や外国人生徒等多様な生徒が在籍
 - ・第二次募集以降では、全日制課程の高校等への進学希望がかなえられなかった生徒の進学先として機能
 - ・現在では、不登校経験がある生徒や全日制高校を中途退学した生徒、外国人生徒、特別な支援を要する生徒など、多様な生徒が在籍

設置校

学校名	学科	学校名	学科	学校名	学科	学校名	学科
大崎高校	普通科	飛鳥高校	普通科	農芸高校	農業科	小金井工業高校	工業科
小山台高校	普通科	板橋有徳高校	普通科	農産高校	農業科	足立高校	普通科、商業科
大森高校	普通科	立川高校	普通科	六郷工科高校	普通科、工業科	葛飾商業高校	普通科、商業科
桜町高校	普通科	神代高校	普通科	工芸高校	工業科	荒川商業高校	商業科
松原高校	普通科	町田高校	普通科	蔵前工業高校	工業科	第三商業高校	商業科
豊島高校	普通科	福生高校	普通科	墨田工業高校	工業科	第五商業高校	商業科
大山高校	普通科	五日市高校	普通科	総合工科高校	工業科	橘高校	産業科
南葛飾高校	普通科	大島高校	普通科	中野工業高校	工業科	青梅総合高校	総合学科
江戸川高校	普通科	八丈高校	普通科	荒川工業高校	工業科	東久留米総合高校	総合学科
江北高校	普通科	農業高校	普通科、農業科	北豊島工業高校	工業科	瑞穂農芸高校	併合科(普通科・農業科)
葛西南高校	普通科	園芸高校	農業科	本所工業高校	工業科		

江北高校：令和3年度末で閉課程
荒川商業高校：令和3年度末で閉校

Topics 日本語指導が必要な生徒のうち、夜間定時制課程への在籍割合が高い

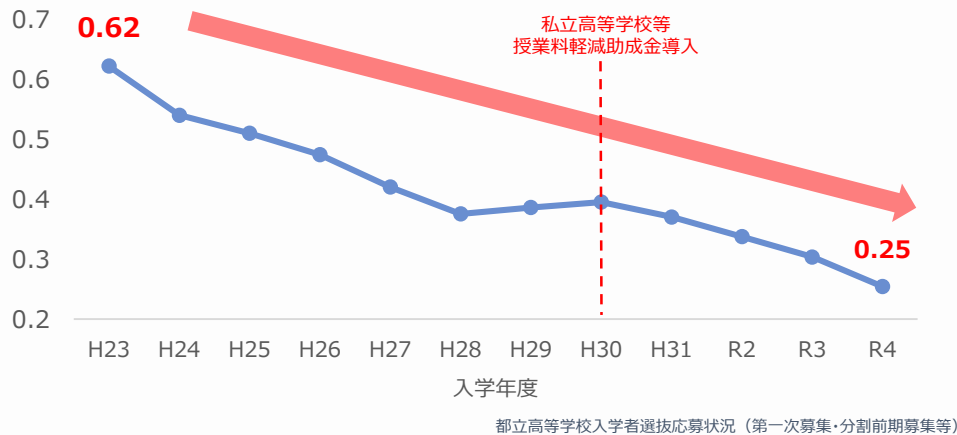


Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(11) 夜間定時制課程

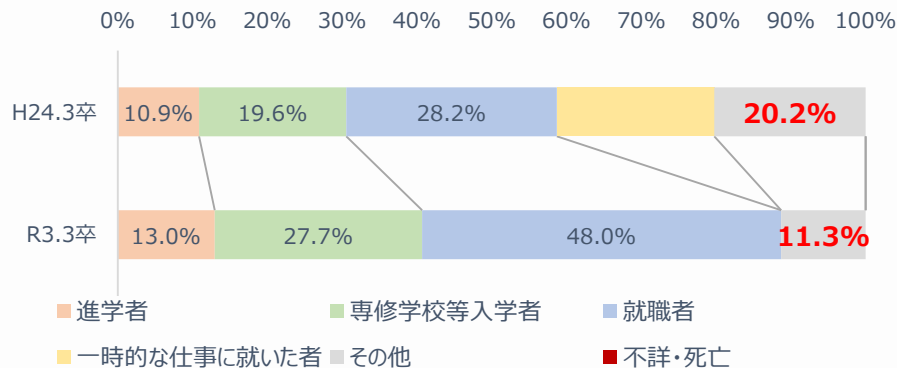
▶ 入学者選抜状況

◆ 応募倍率は**低下傾向**



▶ 卒業後の進路等

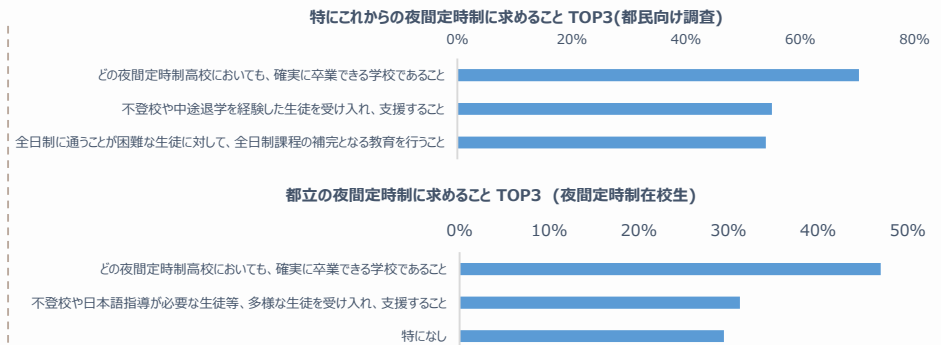
◆ 進路決定率は**改善傾向**



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】

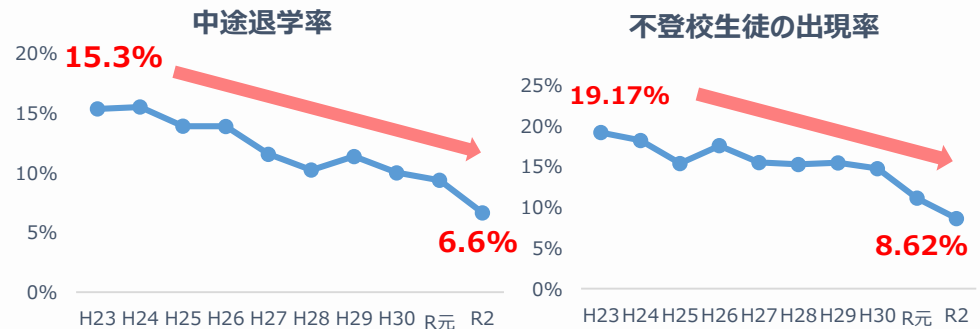
▶ 夜間定時制課程への進学ニーズ

- ◆ 夜間定時制への進学を考えている中学生及び保護者が**著しく少ない**
都内公立中学生：**7人**/6,127人 都内公立中学生保護者：**46人**/2,963人
- ◆ 求められているニーズ
 - ① 確実に卒業できる学校であること
 - ② 多様な生徒を受け入れていくこと



▶ 中途退学率/不登校生徒の出現率

- ◆ 中途退学率・不登校出現率は**著しく改善傾向**
- ◆ 依然として**全日制課程と比較すると高い割合**



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に都教委にて独自集計

● 入学者選抜の応募倍率は低下傾向である。一方で、多様な状況にある生徒への一層の支援を検討

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(12) 昼夜間定時制課程

特徴

- ▶ 自分のライフスタイルに合わせや学習ペースに合わせて通学可能な定時制高校
 - ・ 午前・午後・夜間の三つの部の中から選んで入学する定時制・単位制・三部制の高校
 - ・ 修業年限は4年を基本とし、他部の科目の履修や学校外での学習活動等により、3年で卒業することも可能
 - ・ 単位制なので、学習の進み具合に合わせて学習計画を立てることが可能
- ▶ 一人一人の能力に応じたきめ細かな指導により、基礎的・基本的な学力を身に付けた生徒を育成
 - ・ 基礎学習の徹底、習熟度別学習等
- ▶ 異年齢等の多様な友人同士・教師・地域との交流等を通じて、豊かな人間関係を築ける生徒を育成
 - ・ ホームルーム活動の重視、地域の教育力の活用等
- ▶ 望ましい勤労観・職業観、社会人としての規範意識を身に付け、社会的に自立していける生徒を育成
 - ・ キャリアガイダンスの実施等

設置校

学校名	開校年度	設置学科
新宿山吹高校	平成3年度	普通科、情報科
砂川高校	平成17年度	普通科
一橋高校	平成17年度	普通科
浅草高校	平成18年度	普通科
荻窪高校	平成19年度	普通科
八王子拓真高校	平成19年度	普通科

Topics 「豊かな人間関係の構築」や「社会的な自立」の育成に関する取組例



< I ～ III部合同のスポーツ大会 >

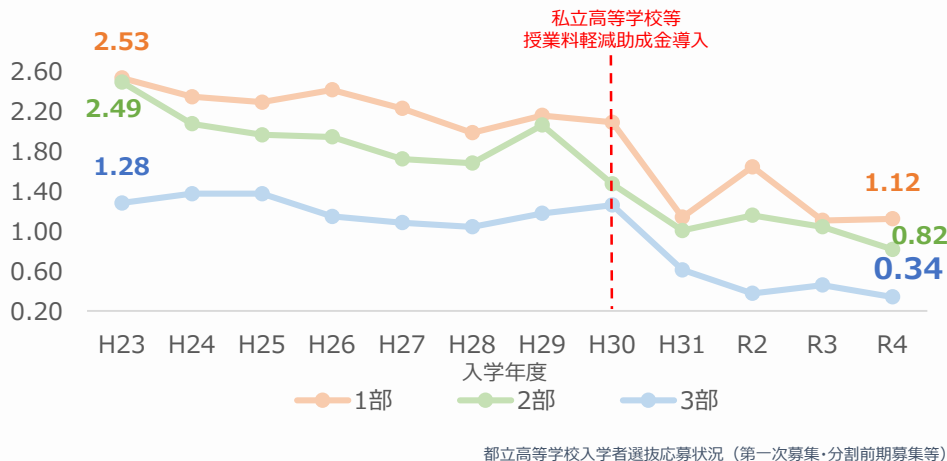


< 企業と連携したボランティア活動 >

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進 (12) 昼夜間定時制課程

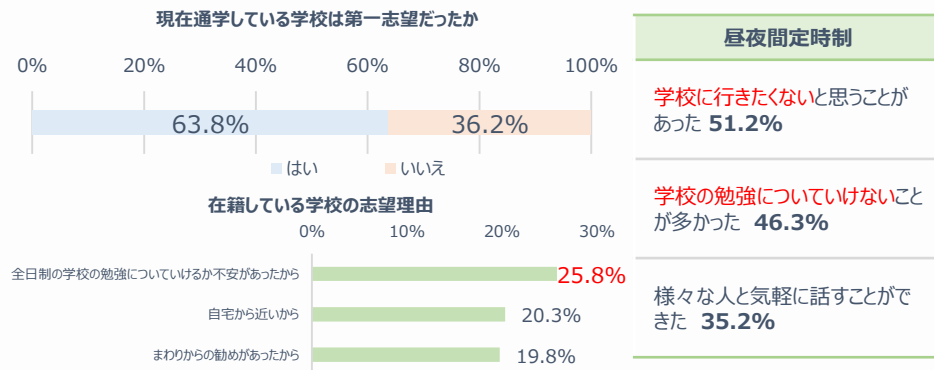
▶ 入学者選抜状況

◆ 特に**3部**の応募倍率が低下傾向



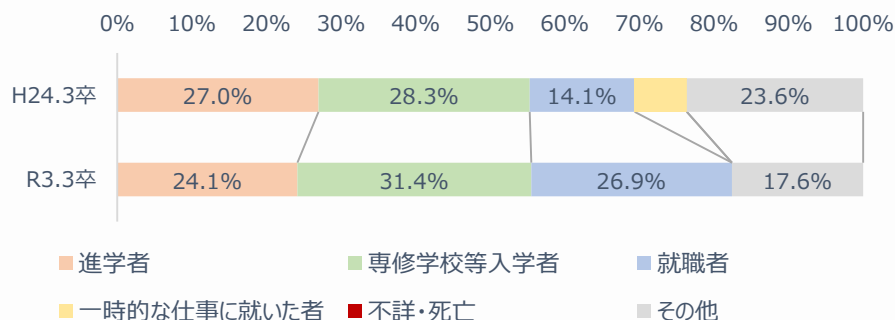
▶ 在籍している生徒の傾向

- ◆ **中学生時代の学校生活に不安を抱えていた生徒**の割合が高い
- ◆ 勉強についていけないか不安を抱えていたことを理由に入学した**生徒の割合も高い**



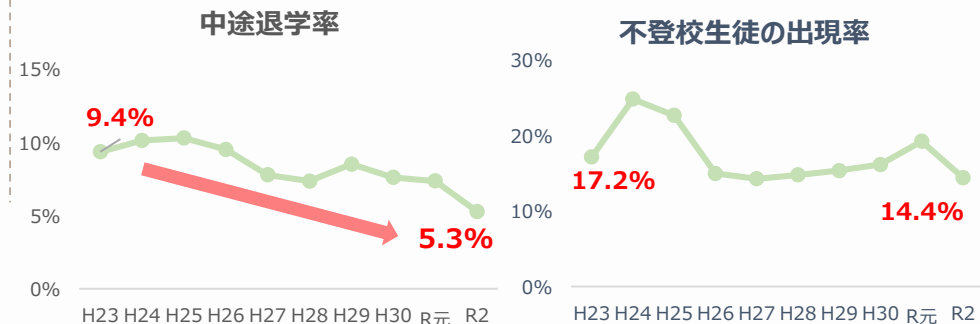
▶ 卒業後の進路等

◆ 進路決定率は改善傾向



▶ 中途退学率/不登校出現率

- ◆ 中途退学率は**緩やかに改善傾向**
- ◆ 不登校生徒の出現率は**ほぼ横ばい**



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に都教委にて独自集計



- 中学生時代、学校生活に不安を抱えていた生徒や勉強に不安を抱えている生徒が入学している傾向
- 中途退学や不登校を経験した生徒など、多様な状況にある生徒への一層の支援を検討

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(13) チャレンジスクール

特徴

- ▶ 主に小・中学校で不登校の経験があったり、高校で中途退学を経験したりして、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする高校
- ▶ 自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて学ぶことが可能
 - ・ 各時間帯（午前・午後・夜間の三部）を選んで入学する、昼夜間の定時制・総合学科・単位制の高校
 - ・ 4年間かけて学ぶことを基本とするが、他部の科目の履修等により、3年間での卒業も可能
 - ・ 単位制なので、学習の進み具合に合わせて学習計画を立てることが可能
- ▶ 多様な生徒の受け入れを図るため、学力よりも高校教育を学ぶ意欲と熱意を見る選抜
 - ・ 調査書、学力検査によらない面接、作文の選考
- ▶ 生徒の元気や意欲が湧いてくるような教育の実施
 - ・ 総合学科による多様な教科科目の設置、体験・実習的な学習の重視、学校外学修の単位認定、進路や職業に関する科目の設置等

設置校

学校名	開校年度	系列
桐ヶ丘高校	平成12年度	「福祉・教養」「情報・ビジネス」「アート・デザイン」
世田谷泉高校	平成13年度	「生活・福祉」「製作・技術」「創作・表現」
大江戸高校	平成16年度	「伝統・文化」「生活・福祉」「情報・ビジネス」
六本木高校	平成17年度	「芸術・カルチャー」「生活・ウェルネス」「情報・サイエンス」
稔ヶ丘高校	平成19年度	「情報・デザイン」「ビジネス・コミュニケーション」「人間・環境」
八王子拓真高校 ※チャレンジ枠	平成19年度	

R4年度:小台橋高校開校

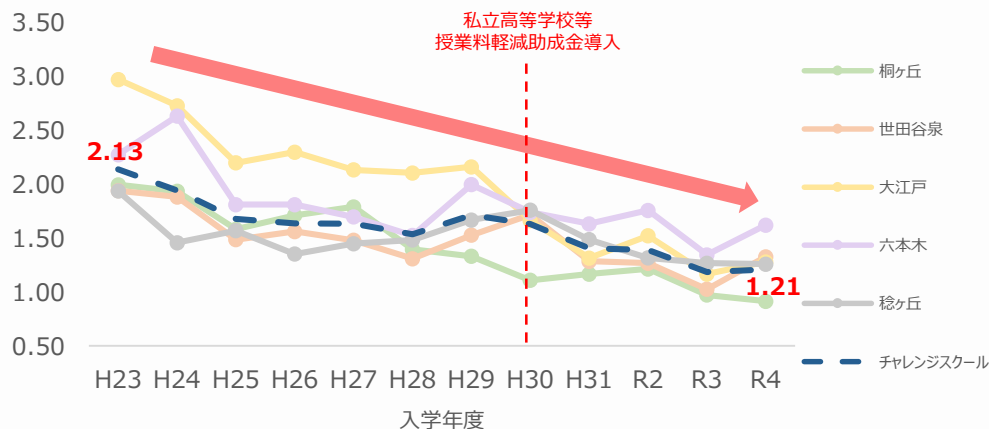
R7年度:立川地区チャレンジスクール開校(予定)

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(13) チャレンジスクール

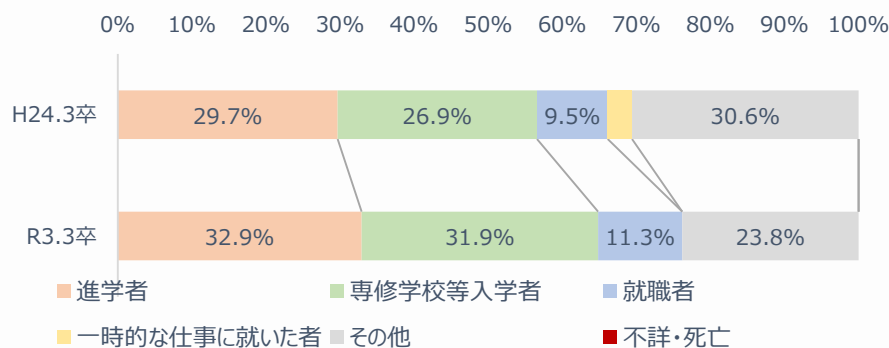
▶ 入学者選抜状況

◆ 応募倍率は全ての学校で約1倍程度まで**緩和**



▶ 卒業後の進路等

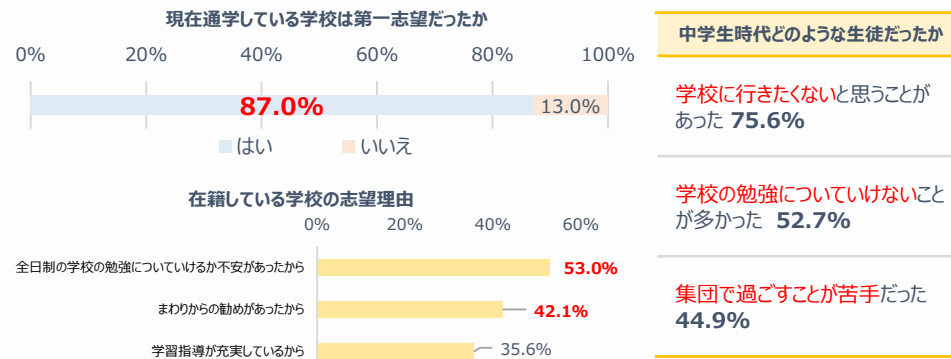
◆ 進学傾向の高まり



学校基本調査・公立学校統計調査【公立学校卒業者の進路状況調査編】

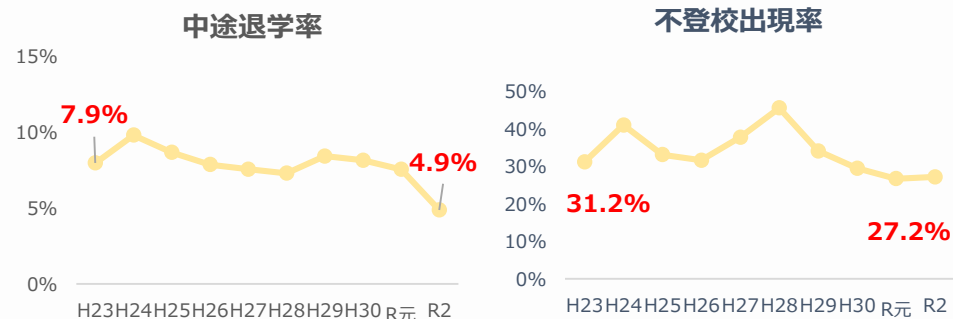
▶ 在学している生徒の傾向

- ◆ チャレンジスクール在学者の**約9割が第一志望**で入学
- ◆ **中学生時代の学校生活に不安を抱えていた生徒**の割合が高い
- ◆ 勉強への不安以外にも、**まわりの勧めがあり入学している生徒の割合も高い**



▶ 中途退学率/不登校出現率

- ◆ 中途退学率は**緩やかに改善傾向**
- ◆ 不登校生徒の出現率は**ほぼ横ばい**



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に都教委にて独自集計



- 中学生時代は学校に行きたくないと思っていた生徒が多く在籍しており、設置目的に沿った生徒が入学
- 中途退学や不登校を経験した生徒など、多様な状況にある生徒への一層の支援を検討

Ⅲ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進

(14) 通信制課程

特徴

▶ 通学が困難な生徒に対し学習機会を確保

- ・全日制及び定時制に通学できないものの、学ぶ意欲のある生徒に対して高等学校教育を受ける機会を提供
- ・家庭学習を基本とし、しっかりとした目標を持ち、自分に合った計画を立てて学習を継続

▶ 課題報告（レポート）の添削指導や面接指導（スクーリング）等により学習や進路指導を実施

- ・報告課題（レポート）、面接指導（スクーリング）、単位認定試験（前期・後期試験）により単位を認定

① 報告課題（レポート）

30単位登録の場合、年間約82～86程度の報告課題を提出（提出数は履修科目ごとに異なる）

提出した報告課題は添削指導を受けて返却され、合格するまで指導を受けることが可能

②面接指導（スクーリング）

年間約20～24日登校し、面接指導を実施（登校日数は履修科目により異なる）

面接指導日は原則として、土曜日に設定

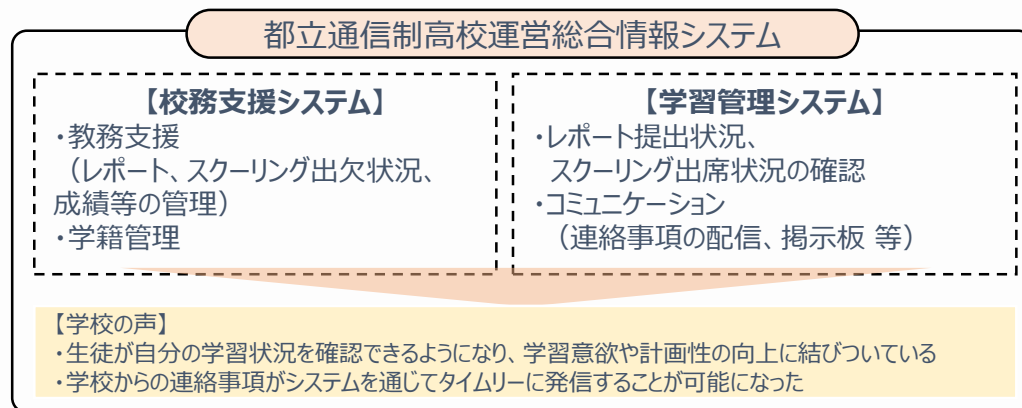
▶ 多様な背景をもつ生徒が在籍

- ・全日制や定時制課程からの進路変更等による転・編入学者や、過去に高等学校教育を受ける機会がなかった生徒等、多様な背景をもつ生徒が在籍

設置校

学校名	設置年度
新 宿 山 吹 高 校	平 成 3 年 度
砂 川 高 校	平 成 1 7 年 度
一 橋 高 校	平 成 1 7 年 度

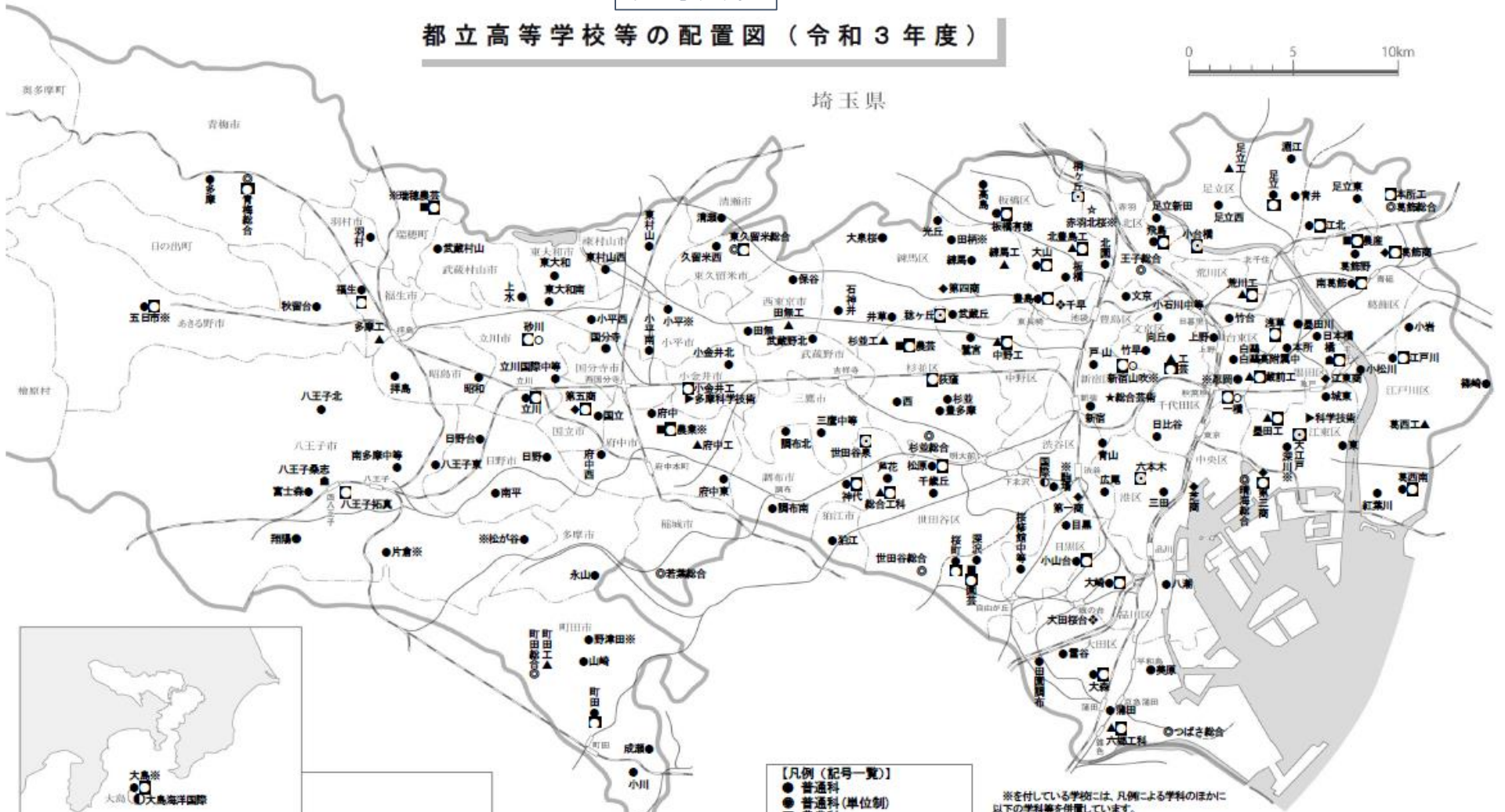
Topics 都立通信制高校運営総合情報システムにより、生徒がレポート履修・スクーリング等の学習状況の確認など、デジタルを活用して通信制課程の学習環境を充実



● 更なる学習方法の多様化を図るため、一層のデジタルを活用した学習環境の整備を検討

参考資料

都立高等学校等の配置図（令和3年度）



- 【凡例（記号一覧）】
- 普通科
 - 普通科（単位制）
 - 農業科
 - ▲ 工業科
 - ▶ 工業科（科学技術科）
 - ◆ 商業科（ビジネス科）
 - ◆ 商業科（IT・ビジネスエンジニア科）
 - ◆ 産業科
 - ☆ 家庭科
 - ◎ 国際科
 - ★ 芸術科
 - ◎ 総合学科
 - ▼ 高等専門学校
 - ◐ 夜間定時制
 - ◑ 昼夜間定時制
 - ◒ 昼夜間定時制（チャレンジスクール）
 - 通信制

※を付している学校には、凡例による学科のほか以下の学科等を併置しています。

学校名	併置している学科等
深川高校、松が谷高校、小平高校	外国語コース（普通科）
片倉高校	造形美術コース（普通科）
駒場高校	体育科
野津田高校	体育科、福祉科
赤羽北枝高校	福祉科
新宿山吹高校	情報科
志賀高校、瑞穂農業高校、農業高校	家庭科
大島高校、三宅高校、八丈高校	併合科

凡例	
—	都県界
—	特別区・市・町・村界
—	JR 線
—	その他鉄道